

履
修
案
内

平成 24 年 度

平成
24
年
度

履 修 案 内

佐賀大学大学院教育学研究科

佐賀大学大学院教育学研究科



●国民の祝日
 元旦-1月1日 海の日-7月16日
 成人の日-1月9日 敬老の日-9月17日
 建国記念の日-2月11日 秋分の日-9月22日
 春分の日-3月20日 体育の日-10月8日
 昭和の日-4月29日 文化の日-11月3日
 憲法記念日-5月3日 勤労感謝の日-11月23日
 みどりの日-5月4日 天皇誕生日-12月23日
 こどもの日-5月5日

2012

1 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 . . .	2 日 月 火 水 木 金 土 . . . 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 . .	3 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
4 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 . . .	5 日 月 火 水 木 金 土 . . 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 .	6 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 . . .	8 日 月 火 水 木 金 土 . . . 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 .	9 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10 日 月 火 水 木 金 土 . 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 . .	11 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 .	12 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

※春分の日と、秋分の日は、その年によって変わりますのでご注意ください。

2013

1 日 月 火 水 木 金 土 . . 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 .	2 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 .	3 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 24 年度学年暦

・前学期始	4月1日(日)
・入学式	4月3日(火)
・前学期開講	4月6日(金)
・前学期定期試験	7月31日(火)～8月6日(月)
・夏季休業	8月8日(水)～9月30日(日)
・前学期終	9月30日(日)
・開学記念日	10月1日(月)
・後学期始	10月1日(月)
・後学期開講	10月1日(月)
・冬季休業	12月26日(水)～1月6日(日)
・後学期定期試験	2月6日(水)～2月13日(水)
・学位記授与式	3月25日(月)
・後学期終	3月31日(日)

【授業時間】

I	II	昼休み	III	IV	V
8:50～10:20	10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

【特例による夜間の授業時間】

VI	VII
18:00～19:30	19:40～21:10

目 次

1. 教育学研究科の目的	1
2. 教育学研究科の教育・研究上の特色	1
3. 専攻・専修における教育・研究の概要	1
4. 教育目標及び開講科目の設置趣旨	3
5. 履修基準, 修士論文及び学位	15
6. 履修モデル	16
7. 研究指導計画	22
8. 修士論文の評価・認定基準	22
9. 修士論文の申請に関する内規	24
10. 現職教員等の教育方法の特例措置	26
11. 佐賀大学大学院学則	26
12. 佐賀大学学位規則	40
13. 佐賀大学大学院教育学研究科規則	48
14. 佐賀大学大学院教育学研究科履修細則	51
15. 佐賀大学大学院教育学研究科デュアル・ディグリー・プログラム履修細則	62
16. 授業科目の内容	78
17. 教員免許	129
18. 奨学金その他	139
19. 各種手続き等について	140

1 教育学研究科の目的

学部卒業生及び現職教員に対し、初等中等教育において指導性を発揮しうる高度の専門的学術を授け、理論と実践の研修を通して、学校教育に関する深奥で総合的な研究を推進することを目的とする。

2 教育学研究科の教育・研究上の特色

(1) 現職教員の受入れ体制

現職教員の受入れに係る入学者選抜、学力検査等（口述試験）のほか、教育現場の研究業績等の審査により行う。また、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用して、現職教員の履修上の便宜を図るために夜間・土曜日及び夏季・冬季休業中にも開講し、一定期間働きながら必要な単位が習得できるよう配慮する。

(2) 構成及びカリキュラム

① 本研究科は、学校教育専攻及び教科教育専攻の2専攻で構成し、学校教育専攻には専門的なコースとして、教育学コース、教育心理学コース、障害児教育コースの3コースを置き、教科教育専攻には、これに担当する専修として国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修及び英語教育専修の10専修を設ける。

② 学校教育専攻では、教育学、教育心理学、及び障害児教育の各コースで基本的な授業科目として、教育方法学特論、教育心理学特論及び障害児教育学特論Ⅰを各コース共通の必修科目とする。教育学の理論、児童・生徒の心身の発達、障害児教育に関する理論、学習に関する専門的知識に加えて学校経営、生徒指導や更に生涯教育を含めて社会的視点に立った学校全体を見据えたより広い教育について探究させる。

③ 教科教育専攻では、各専修の教科教育に関する科目と教科内容に関する科目及び実践授業研究を設定し、各教科に関する高度の知識を授け、教育、研究能力を深めさせる。

④ 学校教育専攻及び教科教育専攻の教育にあたっては、大学と附属教育実践総合センター及び各附属学校との協力体制により行い、実践的指導能力を高めさせる。

また、本学学術情報処理センターとの学内LAN及び本学部の情報処理室に設置している共用コンピューターを利用し、教材開発や教育シミュレーションにより教育、研究能力を高める。

3 専攻・専修における教育・研究の概要

(1) 学校教育専攻

① 教育学コース

学校教育の基礎科学として教育学・教育史、学校経営、教育社会学、教育内容・方法論、社

会教育学及び道德教育の各分野の研究を基礎として高度の教育理論並びに実践を加味した専門的、総合的な研究教育をおこなう。

② 教育心理学コース

教育心理学，発達心理学及び教育臨床心理学の研究を基礎に心理学の深化拡充を図るとともに教育現場での理論的かつ実践を中心とした専門的，総合的な研究，教育を行う。

③ 障害児教育コース

障害児教育，障害児心理学，障害児臨床及び障害児病理の面から障害児を対象として専門的に研究し障害児教育のもつ諸問題について研究すると同時に，その課題解決の具体的方策について探究し，障害児教育の理論並びに実践について研究，教育を行う。

(2) 教科教育専攻

① 国語教育専修

国語学，国文学，漢文学，書道及び国語科教育の研究・教育を理論的に実践的に進め，教師としての日本語に対する識見を強固にするために，その学問的体系化を追求する。

② 社会科教育専修

社会科の基礎となる歴史学，地理学，法律学，政治学，経済学，社会学及び哲学・倫理学に関する研究・教育と社会科教育の研究・教育とを有機的に関連づけて，社会科教育に関する理論的実践的な研究・教育を行う。

③ 数学教育専修

代数学，幾何学，解析学及び数学科教育の研究，教育を基礎として，初等教育及び中等教育を通した数学教育に実践的，理論的研究，教育を行う。

④ 理科教育専修

理科教育の基礎となる物理学，化学，生物学及び地学の専門的研究，教育と理科教育の研究，教育と有機的に関連させて，自然科学教育の理論的，実践的な研究，教育を行う。

⑤ 音楽教育専修

音楽科の基礎となる音楽科教育，器楽，声楽，作曲，指揮法及び音楽学の5分野の研究を基礎として，音楽の表現や鑑賞に関する技能や認識を有機的に関連づけた研究・教育を行う。

⑥ 美術教育専修

造形表現及び造形理論の諸分野を基礎として美術・工芸科教育の理論と実践に関する専門的・総合的な研究，教育を行う。

⑦ 保健体育専修

体育学，運動学，健康運動実践学，運動生理学及び学校保健に関する専門的研究を基礎としてこれらの専門性を重視しながら，保健体育教育学の理論並びに実践を中心とした専門的，総合的な研究，教育を行う。

⑧ 技術教育専修

技術科教育，電気工学及び機械工学の分野を核として更に材料工学及び情報基礎工学の理論と実践研究の深化を図り，これらの専門的知識の上に教育実践を担うに十分な総合的研究，教育を行う。

⑨ 家政教育専修

家庭科の基礎となる食物学，被服学，住居学，保健学及び家政一般に関する研究と家庭科教育の研究とを有機的に関連づけ，総合的かつ専門的に研究・教育を行う。

⑩ 英語教育専修

英語科教育学，英語学及び英米文学の3分野の研究を基礎として，現代的要請に応じて英語教育の理論と実践を総合的かつ専門的に研究・教育を行う。

4 教育目標及び開講科目の設置趣旨

学校教育専攻

①教育学コース

○教育目標

現代の教育問題，教育環境問題，教育改革動向について，原理論的あるいは実践論的に研究し，広い視野と深い洞察に基づいて問題解決の方途を多角的に探っていく。学校教育の可能性を広げ学校教育をリードできる専門的実践力と研究力を備えた教員の養成，種々の教育活動に関わる高度職業人の養成を旨としている。

- (1) 教育活動や教育問題の歴史的・哲学的・社会学的分野の研究と教育
- (2) 教育をめぐる法制度論的分野の研究と教育
- (3) 教育活動や教育問題の実践論的分野の研究と教育
- (4) 教育環境をめぐる社会教育的分野の研究と教育
- (5) 理論と実践の接点で個別課題を設定した研究を指導

対応講義

- (1) 日本教育史特論，日本教育史特別演習，教育哲学特論，教育社会学特論
- (2) 教育法制特論，教育法制特別演習
- (3) 学校・学級経営学特論，学校・学級経営学特別演習，教育方法学特論，教育方法学特別演習，人権教育特論，人権教育特別演習，道德教育特論，
- (4) 社会教育学特論，社会教育学特別演習
- (5) 学校教育課題研究

○開講科目の設置要旨

- (1) 教育目標 (1) に関する専門研究を教授し，学修者の発展的学習を指導する

- (2) 教育目標 (2) に関する専門研究を教授し、学修者の発展的学習を指導する。
- (3) 教育目標 (3) に関する専門研究を教授し、学修者の発展的学習とフィールドワークを指導する。

教育方法学特論は学校教育専攻のコース共通科目（必修）である。

- (4) 教育目標 (4) に関する専門研究を教授し、学修者の発展的学習とフィールドワークを指導する。
- (5) 学修者は、以上の講義や演習で得た知見に基づき個別課題を設定して研究を深め、修士論文を作成していく。指導教員は課題研究と論文作成の指導を行う。

②教育心理学コース

○教育目標

心理学の領域である、発達心理学、臨床心理学、神経心理学、教育統計学などの側面から、幼児、児童、生徒理解を行い、的確に指導、評価ができ、学校教育現場で教師としての役割を果たせるための知識、技量を高め、教育心理学の総合力を身につけさせることを教育目標とする。具体的には次の研究領域を定める。

- (1) 発達心理学的研究から子ども理解を行う。
- (2) 臨床心理学的研究から問題を抱える子どもの支援を考える。
- (3) 神経心理学的研究、学習心理学的研究から子どもの能力の基礎的理解を行う。
- (4) 評価法、統計学的研究から子どもの人格、学力の客観的測定を行う。
- (5) 社会心理学的研究から学級集団のしくみや生徒の指導を考える。

対応講義

- (1) 発達心理学特論Ⅰ，発達心理学特別演習
- (2) 教育臨床心理学特論，教育臨床心理学特別演習，教育相談心理学特別演習
- (3) 発達心理学特論Ⅱ，学習心理学特論，学習心理学特別演習
- (4) 教育心理学特論，教育測定・評価特別演習
- (5) 学級集団心理学・生徒指導特論，進路指導特別演習

○開講科目の設置要旨

教育目標 (1) に関しては、学校教育年齢期である幼児期、児童期、青年期の思考、感情、人間関係等の心の発達過程を深く学び、子ども理解を行うための科目である。

教育目標 (2) に関しては、近年学校現場で問題となっている不登校、いじめ、心身症的疾患について深く学び、その対策を考える力を身につけさせるための科目である。

教育目標 (3) に関しては、近年話題になっている発達障害を正しく理解させるとともに、そのような障害を抱える子どもにどのような教育法が適しているかを考えさせるための科目である。

教育目標 (4) に関しては、妥当で、信頼できる子どもの人格、学力等の評価を行うためにはどのようなことを行うべきかを考えさせるための科目である。その中でも教育心理学特論は学校教育専攻のコース共通科目（必修）であり、教育心理学的視点を総合させるための科目である。

教育目標 (5) に関しては、集団力学的視点から学級を見つめ、よりよい学級運営を考えさせるとともに、集団で生活していくために必要なことを個人指導する方向性を考えさせるための科目である。

③障害児教育コース

○教育目標

医学・心理学・教育学の総合的側面から障害児の特性とニーズを専門的に研究し、特別支援教育の制度や内容及び方法などを検討すると同時に、望ましい特別支援教育の理論や実践の在り方について研究する。具体的には次の側面の教育目標により総合的に研究する。

- (1) 教育学的側面から専門的研究を行う。
- (2) 心理学的側面から専門的研究を行う。
- (3) 医学的側面から専門的研究を行う。
- (4) 以上の3側面から総合的研究を行う。

対応講義

- (1) 障害児教育学特論Ⅰ，障害児教育学特論Ⅱ，障害児教育学方法論，障害児教育学特別演習
- (2) 障害児心理学特論Ⅰ，障害児心理学特論Ⅱ，障害児心理学研究方法論，障害児心理学・心理検査特別演習
- (3) 知的障害者生理学・病理学研究，肢体不自由者生理学・病理学研究，病弱者・情緒障害者生理学・病理学研究，感覚系障害者生理学・病理学研究
- (4) 障害児教育課題研究

○開講科目の設置要旨

教育目標 (1) に関しては、特別支援教育の教育的な観点からの講義科目である。なお、障害児教育学特論Ⅰは学校教育専攻のコース共通科目（必修）である。

教育目標 (2) に関しては、特別支援教育の対象となる障害児の心理学関連科目である。

教育目標 (3) に関しては、特別支援教育の対象となる障害児への生理学・病理学関連科目である。

教育目標 (4) に関しては、目標 (1)～(3) を基礎とした総合的な知見により特別支援教育課題の研究指導を行うものである。

教科教育専攻

①国語教育専修

○教育目標

本専修の教育課程は、教科としての国語に関する高度の専門的知識を授け、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成することを目的としている。そしてその実現のため不可欠かつ効果的なものとして、学習成果を実践面に応用するための実践授業研究、また修士論文に結びつく課題研究を課している。

その目的に沿って、それぞれ以下のような教育目標を定めている。

- (1) 学校教育に関する高い実践力と深い見識を身につける。
- (2) 国語学、国文学、漢文学、書道それぞれの専門的研究を深める。
- (3) それらの研究成果の組織化・体系化に努める。
- (4) 上の(1)(2)を基礎に、国語教育の理論と実践に関する高度な専門的能力の形成を図る。
- (5) その他、教育の国際化に対応した日本語教育にかかわる専門的能力を身につける。

○開講科目の設置趣旨

上の教育目標に従って、以下のような授業科目を設置している。

まず科目は、(a) 学校教育に関する科目、(b) 教科教育共通科目、(c) 教科教育に関する科目、(d) 教科内容に関する科目、(e) 自由選択科目、(f) 課題研究に分けられる。

(a) に関しては、学校教育専攻で開講されている科目を受講することになるので、ここでは説明を省くが、教育目標の(1)を実現するための科目群である。

教育目標(2)に関しては、上の(d)の分野から教科内のそれぞれの専門科目として、国語学特論Ⅰ ABⅡ AB、国語学特別演習Ⅰ ABⅡ AB、古典文学特論ⅠⅡ、古典文学特別演習ⅠⅡ、現代文学特論ⅠⅡ、現代文学特別演習ⅠⅡ、日本文学思潮ⅠⅡ、漢文学特論ⅠⅡ、漢文学特別演習ⅠⅡ、中国古典文学特論ⅠⅡ、中国古典文学特別演習ⅠⅡ、中日比較文学特論ⅠⅡ、中日比較文学特別演習ⅠⅡ、日中韓近世比較文学特論ⅠⅡ、日中韓近世比較文学特別演習ⅠⅡ、書道特別研究ⅠⅡなどを豊富に開講している。

教育目標(3)(4)に関しては、上の(c)分野の国語科教育の国語教育学特論Ⅰ ABⅡ AB、国語教育学特別演習ⅠⅡ、そして(f)分野の国語課題研究ⅠⅡ・国語教育課題研究ⅠⅡ・書道課題研究ⅠⅡ・及び実践授業研究が開かれている。

教育目標(5)に関しては、とくに日本語教育学特論が開講されているが、国語学特論Ⅰ ABⅡ AB、国語学特別演習Ⅰ ABⅡ ABも内容的には基礎となるべき科目である。

②社会科教育専修

○教育目標

本専修の教育課程は、社会科教育に関する諸分野の専門的研究を深めるとともに、現代社会における文化と国際社会の相互作用を視野に入れて、社会科教育の理論と実践について高度な研究・教育を行うこととし、(1)～(5)の教育目標を定めている。

- (1) 教育に深い素養と知識とをもち、教員として自立しうる能力を身につけさせる。
- (2) 社会系教育担当教員として必要な教育課程編成、及び授業構成に関する高次の能力を身につけさせる。
- (3) 人文科学および社会科学の諸分野に関する深い洞察力を身につけさせる。
- (4) 教員としての理論的・実践的授業能力を身につけさせる。
- (5) 諸問題を正確に理解・分析し、問題解決を図る能力を身につけさせる。

○開講科目の設置趣旨

教育目標(1)に関し、学校教育専攻開設の授業科目から4単位を選択履修させている。

教育目標(2)に関し、教科教育に関する科目として、選択必修科目の「社会科教育学特論Ⅰ(社会・地歴)」「社会科教育学特論Ⅱ(社会・公民)」および選択科目の「社会科教育学特別演習Ⅰ(社会・地歴)」「社会科教育学特別演習Ⅱ(社会・公民)」を開設している。

教育目標(3)に関し、教科内容に関する科目として、「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「考古学特別演習」「日本史特論AⅠ・Ⅱ」「日本史特論BⅠ・Ⅱ」「日本史特別演習A」「日本史特別演習B」「東洋史特論AⅠ・Ⅱ」「東洋史特論BⅠ・Ⅱ」「東洋史特別演習A」「東洋史特別演習B」「西洋史特論AⅠ・Ⅱ」「西洋史特論BⅠ・Ⅱ」「西洋史特別演習A」「西洋史特別演習B」「地理学特論AⅠ・Ⅱ」「地理学特別演習A」「地理学特論BⅠ・Ⅱ」「地理学特別演習B」「法律学特論AⅠ・Ⅱ」「法律学特論BⅠ・Ⅱ」「法律学特別演習A」「法律学特別演習B」「政治学特論Ⅰ・Ⅱ」「政治学特別演習」「国際政治学特論Ⅰ・Ⅱ」「国際政治学特別演習」「経済学特論Ⅰ・Ⅱ」「経済学特別演習」「国際経済学特論Ⅰ・Ⅱ」「国際経済学特別演習」「社会学特論AⅠ・Ⅱ」「社会学特論BⅠ・Ⅱ」「社会学特論CⅠ・Ⅱ」「社会学特別演習A」「社会学特別演習B」「社会学特別演習C」「倫理学特論Ⅰ・Ⅱ」「倫理学特別演習」を開設し専門分野に応じて8単位を選択させている。

教育目標(4)に関し、1年次の必修科目として「実践授業研究」を開設している。また1年次選択科目として「教育実践フィールド研究(大学院教育実習)」を開設している。

教育目標(5)に関し、2年次の選択必修科目として、「社会科課題研究(社会・地歴)」「社会科課題研究(社会・公民)」「社会科教育課題研究(社会・地歴)」「社会科教育課題研究(社会・公民)」を開設し、指導教員を中心とする関係教員の指導のもとに研究を行わせている。

③数学教育専修

○教育目標

本専修は、教科としての数学に関する高度な専門的知識を授け、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成することを目的としている。この目的を実現するために不可欠かつ効果的な研究として、学習成果を教育実践に応用するための実践授業研究、また修士論文につながる課題研究を課している。

この目的に沿って、以下の教育目標を定める。

- (1) 学校教育に関する深い見識と高い実践力を身につける。
- (2) 代数学、幾何学、解析学、応用数学、情報処理、数学教育学について、専門的な知識を高め、研究を深める。
- (3) それら研究成果の組織化・体系化につとめる。
- (4) 上記の(1)(2)を土台として、算数・数学教育の理論と実践に関する高度な専門的能力の形成を図る。

○開講科目の設置趣旨

上記の教育目標にしたがって、以下の授業科目を設置する。

まず科目は、大きく(a)学校教育に関する科目、(b)教科教育共通科目、(c)教科教育に関する科目、(d)教科内容に関する科目、(e)自由選択科目、(f)課題研究の6つの分野に分けられる。

分野(a)に関しては、学校教育専攻で開講されている教育学や教育心理学の科目を受講することになる。ここでは詳しい説明を省くが、これらは教育目標の(1)を実現するための科目群である。

教育目標(2)に関しては、上記の(c)(d)分野から、いくつかを選択する。教科内容の科目としては、代数学特論、代数学特別演習、幾何学特論ⅠⅡ、幾何学特別演習ⅠⅡ、解析学特論、解析学特別演習、統計学特論、統計学特別演習など、広く開講されている。また、教科教育の科目としては、数学教育学特論ⅠⅡ、数学教育学特別演習ⅠⅡが開講され、算数・数学教育の理論や実践、情報処理を学ぶ。

教育目標(3)(4)に関しては、(c)分野の数学教育学特論ⅠⅡ、数学教育学特別演習ⅠⅡおよび(f)分野の数学課題研究、数学教育課題研究、(b)分野の実践授業研究が開講される。

分野(e)は研究科全体の開講科目が該当し、その中から自由に8単位が選択できるようになっている。

④理科教育専修

○教育目標

理科教育専修では、自然科学の急速な進歩に対応しつつ、物理学、化学、生物学、地学の専門的研究を深めるとともに、理科教科の教育課程の研究と教育実践を行う能力を身につけた人材の養成を目指す。

豊かな知識と高度な教科指導力を持ち、小学校から高等学校にわたって見通せる教員の養成を目指す。教授学習過程は教材・教具と言葉を媒介としたコミュニケーション（教師と子どもの相互作用）過程と捉え、学びがいのある授業を構成し、実施する能力を教科指導力と考える。すなわち、教科指導力として教材作成能力、授業構想力、授業展開力、授業評価力を考え、これら4つの力の育成を目指す。

理科教育・物理学・化学・生物学・地学の各分野の講義・演習・実験を通して、理科教員として必要とされる基礎的・専門的知識や実験・観察技能、自然認識の過程・方法を習得させ、子ども達の自然への学習意欲を引き起こし、子ども達の科学的な思考法や判断力を育成できる教員を養成する。

○開講科目の設置趣旨

理科教育 理科教育の原理、カリキュラム、指導法、教材などを理論的に、実践的に考究できるようになる。

物理学 物理分野の研究や教育実践ができるようになる。

化学 化学分野の基本概念を学習し、物質の合成・精製・分析の技能を修得し、化学教材の新規開発と教育実践ができるようになる。

生物学 生物分野について幅広い講義や演習を通して、生物を用いた研究や教育実践ができるようになる。

地学 地学分野についての特論や特別研究を通して、固体地球に関して研究や教育実践ができるようになる。

課題研究 自ら課題を発見する能力、調査・実験・観察を用いた課題解決の方法や実験・観察結果を論理的に考察、表現、発表できる能力を身につけることができる。

実践授業研究 小学校・中学校の授業観察や教材研究を通して、教師としての職業観を養うことができる。

学校教育に関する科目 学校現場における諸問題の解決法を学び、実践することができる。

⑤音楽教育専修

○教育目標

音楽教育専修では、器楽、声楽、作曲、指揮法、音楽学および音楽科教育学の6分野に関する専門的研究・教育を行うことにより、音楽的表現能力と音楽学的研究能力を高めることを目指す。また教育との有機的関連を図ることで、それらの専門的能力を学校や地域の音楽指導に統合しうる音楽教育者を養成する。

○開講科目の設置趣旨

(1) 音楽の各専門分野における演奏技術（作曲技術）を習得し、音楽（演奏）解釈も含め音楽的表現力を高める。

「器楽特論ⅠA」「器楽特論ⅠB」「器楽特別演習Ⅰ」

「器楽特論ⅡA」「器楽特論ⅡB」「器楽特別演習Ⅱ」

「声楽特論Ⅰ」「声楽特論Ⅱ」「声楽特別演習」「指揮法特論」「指揮法特別演習」

「作曲法特別演習」「日本の音楽文化特論」「日本の音楽文化特別演習」

(2) 音楽を学術的に分析・研究することで、音楽的洞察力を高め、音楽的教養を深める。

「音楽学特論Ⅰ」「音楽学特論Ⅱ」「音楽学特別演習」

「作曲法特論Ⅰ」「作曲法特論Ⅱ」

(3) 専門的音楽能力を学校音楽の場で生かせるよう、教育学的側面から体系的かつ実践的な研究を行う。

「音楽教育学特論ⅠA」「音楽教育学特論ⅠB」「音楽教育学特別演習Ⅰ」

「音楽教育学特論ⅡA」「音楽教育学特論ⅡB」「音楽教育学特別演習Ⅱ」

「実践授業研究」

(4) 教育者・研究者としての情報収集能力、得られた結果をまとめ考察する能力、プレゼンテーション能力を身につけさせる。

「音楽課題研究」「音楽教育課題研究」

⑥美術教育専修

○教育目標

本専修は、造形表現及び造形理論の諸分野を基礎として、美術・工芸科教育の理論と実践に関する専門的・総合的な研究・教育の中から、高い実践能力と深い見識を身につけ、総合知に育まれた知性・感性と目的を持つ教育者・専門家を育成を目指す。そのためには、人・社会・文化への貢献を強く願い、優れた資質を引き出し、幅広い教養・技術・経験を基盤にした高度な成果を求めねばならない。

これらの目的に沿って、以下の教育目標を定めている。

- (1) 学校教育・教科教育に関する高い実践能力と深い見識を身につける。
- (2) 美術・工芸科教育、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史の各専門分野において、理論と実践に関する高い実践能力と深い見識を身につける。
- (3) それらの成果を修士論文とし、実技系は修了制作を含めて実践成果とする。
- (4) 目標達成に関わる課外の自主的な活動に努め、学外の具体的評価を得る機会を持つ。

○開講科目の設置趣旨

教育目標に沿って、科目と関連活動を設置している。

教育目標 (1) 『学校教育に関する科目』『教科教育に関する科目』の中から専門に関わる科目を選択して履修する。「実践授業研究」では附属学校等の研究発表を参観し、分科会討議に参加して関係科目の中で総括し、教科教育を実地に学ぶ。また、学部生の良き手本として活動するとともに、専門分野教員のティーチング・アシスタント等として高等教育の実践現場へも積極的に関わることが望ましい。

教育目標 (2) 『教科内容に関する科目』の中から、専門分野の「特論」と「特別演習」及び関連分野の科目を選択して履修し、論文・制作に必要な専門知識や技術を修得するための研究指導を受ける。

教育目標 (3) 入学とともに当該専門分野教員の指導のもとで研究課題のテーマ設定及び研究計画を立案するとともに、専門分野の「特論」「特別演習」及び2年次の「実践授業研究」と「課題研究」を通して、自身の研究課題を究明し、修士論文と作品をまとめる。その過程で、専修として実施する半期毎の中間発表（1，2年次共）と、提出後の修論発表会で経過・成果を発表し、指導・助言及び講評を受ける。修士論文は2年次の1月末日までに提出し、主査・副査により査読された後、修論発表会で講評を受ける。実技系の修了制作は2年次の2月15日までに提出し、評価を受けた後、修了制作展で発表する。

教育目標 (4) 指導を受けた研究成果を学会、研究会等に積極的に参加して発表する。また、公募展等への出品や企画参加によって内外の評価を受け、社会経験を積む。

⑦保健体育専修

○教育目標

本専修は、保健体育科教育、体育学、運動学、健康運動実践学、運動生理学および学校保健の6つの学問領域を柱に、これらの専門的教育・研究を基礎とし、専門性を強化しながら、保健体育教育学の理論と実践の発展に資する教育・研究を行うことを目的としている。本専修の教育・研究は個別の専門化に留まることなく、各研究の成果が統合されることによって確立されるものである。本専修がそれぞれの専門的な研究を先鋭化させ、深化・実践させる教育目標は以下の通りである。

- (1) 保健体育教育における教育・研究の実践能力の向上
- (2) 運動・スポーツの特性や指導法の科学的原理の解明・伝達・追求

(3) 包括的健康づくりに関する研究の発展

○開講科目の設置趣旨

教育目標 (1) , (2) , (3) に従って、(a) 学校教育に関する科目、(b) 教科教育共通科目、(c) 教科教育に関する科目、(d) 教科内容に関する科目、(e) 自由選択科目および (f) 課題研究の 6 つの授業科目を設置している。

教育目標 (1) に関しては、保健体育教育学特論 I・II・III で学習指導理論と方法論、保健体育科教育の在り方を論究し、保健体育教育学特別演習 I・II で様々な視点から授業を向上させる方法を実践的に学ぶ。

教育目標 (2) に関しては、体育学特論 I・II で人間と体育・スポーツのかかわりについて理解を深める。運動学特論でスポーツ運動学の成立過程、今日的課題などについて学び、運動学特別演習で運動学習の習熟過程について段階的に展開する。運動方法学特論 I・II で効果的なトレーニング理論、コーチング理論、運動特性について論述し、運動方法学特別演習 I でコーチングに関する効果的な技能習得法、指導法について演習する。

教育目標 (3) に関しては、健康運動実践学特論で健康増進のための運動やトレーニングについて考究し、健康運動実践学特別演習で運動実践方法の習得に関する実験・測定の方法論を学ぶ。健康運動実践方法学特論 I・II で健康に関わる運動の理解・習得の方法について考究し、健康運動実践方法学特別演習 I・II で運動の基本的技術の理解と基本的動作を分析する。運動生理学特論で運動時の身体の働きと生理的仕組み・栄養について論じ、運動生理学特別演習で運動・スポーツと身体に関する事象について実践的に展開する。健康生理学特論で健康増進、加齢と健康寿命、運動処方について論ずる。学校保健特論で児童・生徒の健康を中心課題に学校保健の現状を検討し、学校保健特別演習 I・II で子どもの心身の健康問題について実践的に追求する。

保健体育課題研究では各自の研究課題について、保健体育教育課題研究では実践授業研究等を通して学校教育に関する深い見識と高い実践力を身に付ける。

⑧技術教育専修

○教育目標

本専修の教育課程は、技術教育に関する高度の専門的知識を身に付け、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成することを目的としている。この目的に沿って、それぞれ以下のような教育目標を定めている。

- (1) 学校教育に関する高い実践力と深い見識を身につける。
- (2) 電気工学、機械工学、材料工学、情報基礎それぞれの専門的知識と研究を深める。
- (3) これらの知識と研究成果の組織化・体系化に努める。
- (4) 上の (1)(2) を基礎に、技術教育の理論と実践に関する高度な専門的能力の形成を図る。

○開講科目の設置趣旨

上の教育目標に従って、以下のような授業科目を設置している。

まず科目は、(a) 学校教育に関する科目、(b) 教科教育共通科目、(c) 教科教育に関する科目、(d) 教科内容に関する科目、(e) 自由選択科目、(f) 課題研究に分けられる。

(a) に関しては、学校教育専攻で開講されている科目を受講することになる。これらは、教育目標の(1)を実現するための科目群である。

教育目標(2)に関しては、上の(d)の分野から教科内のそれぞれの専門科目として、電気工学特論ⅠⅡ、電気工学特別演習、機械工学特論ⅠⅡⅢ、機械工学特別演習、材料工学特論、材料工学特別演習、情報工学特論、情報工学特別演習、電子計算機特論、電子計算機特別演習など、豊富に開講している。

教育目標(3)(4)に関しては、上の(c)分野の技術科教育の技術教育特論、技術教育特別演習ⅠⅡ、技術教育実践教育研究、そして(f)分野の技術科課題研究・技術教育課題研究及び実践授業研究が開かれている。

⑨家政教育専修

○教育目標

家政教育専修は、家庭科の教育内容に関する専門的な知識を深め、家政学の特色を生かした研究の方法論を学び、さらに研究成果を教育実践に役立てていくための理論や方法論を修得することを目標とする。家庭科の教育内容は、食物学、被服学、家族関係学、住居学、保育学および家庭科教育学の専門分野から構成され、以下のような教育目標を有する。

- (1) 家庭科教員として必要な教育課程編成、及び授業構成に関する能力を身につける。
- (2) 家庭科教育の基礎となる家政学関連諸科学の専門知識と論理展開法を身につける。
- (3) 生活に関する諸問題を理解・分析し、問題解決を図る能力を身につける。

○開講科目の設置趣旨

上記の教育目標に従って、家政教育専修における開講科目は、「教科内容に関する科目」、「教科教育に関する科目」、「教科教育共通科目」、「課題研究」から成る。

「教科内容に関する科目」は食物学、被服学、家族関係学、住居学、保育学の分野から成り、それぞれの分野に特論と特別演習を設置した。特論では各分野の高度な理論を学び、特別演習ではその理論の実践や応用を学ぶべく、最新研究報告の抄読、場合によっては現地調査なども行う。その内容は、以下の通りである。

- 1) 食物学；栄養に関する専門的知識を深め、生活習慣病予防をめざす実践的理論と方法論を修得し、健康的な食生活を実践指導していく能力を養成する。
- 2) 被服学；被服の快適性、安全性、文化的特性および外部環境に関わる性能について総合的に

捉え追究していく能力を養成する。

3) 家族関係学；現代家族の構造や機能の変化に関する知識を深め、多様な家族形態における家族関係の問題点について考察・探究する能力を養成する。

4) 住居学；住居の役割やその機能に関する知識を深め、我が国における住環境の特徴と問題点について探求し、よりよい住環境をめざして研究していく能力を養成する。

5) 保育学；子どもの発育、発達心理学、親子の相互作用等の知識を深め、子どもの発達特性とその対応、子育て親への支援等について探求し、提言・実践する能力を養成する。

「教科教育科目に関する科目」では、各分野で身に付けた高度な理論を教育現場におろすときに、小中高等学校の教育目標に合わせてどのように考え、どのように指導していくのかについて、家庭科教育学特論Ⅰ、家庭科教育学特論Ⅱでその理論を学ぶ。さらに家庭科教育学特別演習Ⅰ、家庭科教育学特別演習Ⅱで教育現場の実態や児童・生徒の実態に合わせた具体的な指導及び評価方法などについて、研究報告や実践報告を抄読しながら学んでいく。「教科教育共通科目」では実践授業研究において、実際に教育現場に赴き、児童・生徒の実態を把握し、学習指導に適した教材開発を行うことにより高い実践能力を身につける。「課題研究」では、各分野の研究の方法論を学びながら修士論文を2年間に亘ってまとめるように指導している。

⑩英語教育専修

○教育目標

英語教育専修では、(1) 英語教育学、(2) 英語学、(3) 英米文学、の分野における諸問題について英語教育に関する研究を深め、これらの研究成果を有機的に体系化する。これを基礎として現代的要請に応じた英語教育の理論と実践を追求し、総合的かつ専門的に研究・教育ができる知識と創意を身につけた英語教員の育成を目標とする。

○開講科目の設置趣旨

英語教育専修の開講科目は、(1) 英語教育学、英語学、英米文学、の分野での深い専門知識と分析能力を修得し、自立した英語教員としての能力を身につけさせる、(2) 幅広い教養に裏打ちされた広範な視点をもつ英語教員としての能力を身につけさせる、(3) 学術情報の収集・分析能力、カリキュラム開発能力、プレゼンテーション技能等を身につけさせ、自ら授業実践の計画を立てて実行しそれを評価する能力を身につけさせる、等の教育目標に従い、「教科教育共通科目」、「教科教育に関する科目」、「教科内容に関する科目」、「自由選択科目」、「課題研究」により構成され、体系的に整理されている。

1年次に教科教育に関する科目として、前期に「英語教育学特論ⅠA」、「英語教育学特論ⅡA」を、教科内容に関する科目として、前期に「英語学特論ⅠA」、「英語学特論Ⅱ」、「英米文学特論ⅠA」、「英米文学特論ⅡA」、後期に「英米文学特論ⅠB」、「英米文学特論ⅡB」を開講している。

また、自由選択科目あるいは発展科目として1年次前期に、「英語教育学特別演習Ⅰ」、「英語教育学特別演習Ⅱ」、「英語学特別演習Ⅰ」、「英米文学特別演習Ⅰ」、「英米文学特別演習Ⅱ」を、さらに、後期には、「英語教育学特論ⅠB」、「英語教育学特論ⅡB」、「英語教育学特別演習Ⅰ」、「英語教育学特別演習Ⅱ」、「英語学特論ⅠB」、「英語学特別演習Ⅰ」、「英語学特別演習Ⅱ」、「英米文学特別演習Ⅰ」、「英米文学特別演習Ⅱ」を開講している。学術情報収集能力、カリキュラム開発能力、プレゼンテーション技能等の育成および自発的な授業設計と実践に関する教育に関し、1年次に教科教育共通科目として「実践授業研究」を開講し、共通科目以外でも、「英語教育学特別演習Ⅰ」、「英語教育学特別演習Ⅱ」を開講している。

この他、研究を通して専門的知識を学ばせるには継続的な指導が必要であるため、2年次には研究指導（修士論文作成）として「英語課題研究」、「英語教育課題研究」を開講している。

5 履修基準，修士論文及び学位

(1) 履修基準

研究科修了に必要な単位数は次表のとおりとする。

専攻名 授業科目	学校教育	教科教育
学校教育に関する科目	10	4
学校教育コース共通科目	6	
教科教育共通科目		2
教科教育に関する科目	4	4
教科内容に関する科目		8
自由選択科目	6	8
課題研究	4	4
計	30	30

(備考)

- ① 学校教育専攻のコース共通科目は、教育方法学特論，教育心理学特論，障害児教育学特論Ⅰとし、各2単位を修得するものとする。
- ② 教科教育共通科目2単位は、各専修の実践授業研究2単位を修得するものとする。
- ③ 教科教育に関する科目4単位は、学校教育専攻はいずれか一つの教科の教科教育に関する科目を選択履修し、教科教育専攻は自専修の教科教育に関する科目を履修するものとする。
- ④ 教科内容に関する科目は、自専修の科目8単位を修得するものとする。
- ⑤ 自由選択科目は、研究科全体の科目からできるだけ偏らないように履修するものとする。
- ⑥ 課題研究は、各自コースまたは自専修の一つの分野について深く研究するものとする。

(2) 修士論文及び学位

- ① 研究科に2年（標準）以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、佐賀大学大学院教育学研究科を修了した者と認定し、修士（教育学）の学位を授与する。
- ② 修士論文は、各専修・コースにおける基礎的研究に基づき、教育に寄与し、あるいは教育実践の向上に貢献することが期待されるもので、原則は学術論文とする。

6 履修モデル

学校教育専攻

①教育学コース

	学校教育に関する科目 自由選択科目	学校教育コース 共通科目	教科教育に 関する科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期				学校教育課題研究	必2
2年前期	道徳教育特論（選択）			学校教育課題研究	必2 (選2)
1年後期	日本教育史特別演習（選択） 学校・学級経営学特別演習（選 択） 教育法制特別演習（選択） 人権教育特別演習（選択） 教育方法学特別演習（選択） 社会教育学特別演習（選択）		教科教育に関する 科目から1科目		必2 必選2
1年前期	日本教育史特論（選択） 学校・学級経営学特論（選択） 教育法制特論（選択） 人権教育特論（選択） 社会教育学特論（選択） 教育哲学特論（選択） 自由選択科目（選択）	教育方法学特論 教育心理学特論 障害児教育学特論Ⅰ	教科教育に関する 科目から1科目		必8 必選14
修了要件 単位数	16	6	4	4	30

②教育心理学コース

	学校教育に関する科目 自由選択科目	学校教育コース 共通科目	教科教育に 関する科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期				学校教育課題研究	2
2年前期				学校教育課題研究	2
1年後期	発達心理学特論Ⅰ 発達心理学特論Ⅱ 教育臨床心理学特別演習 進路指導特別演習 教育測定・評価特別演習 障害児教育学特論Ⅱ		教科教育に関する 科目から1科目 (国語教育学特論 Ⅰ、社会科教育学 特論Ⅰ、数学教育 学特論Ⅰなど)		11
1年前期	教育臨床心理学特論 教育相談心理学特別演習 学級集団心理学・生徒指導特論 教育哲学特論	教育方法学特論 教育心理学特論 障害児教育学特論Ⅰ	教科教育に関する 科目から1科目 (国語教育学特論 Ⅰ、社会科教育学 特論Ⅰ、数学教育 学特論Ⅰなど)		15
修了要件 単位数	16	6	4	4	30

③障害児教育コース

	学校教育に関する科目 自由選択科目	学校教育コース 共通科目	教科教育に 関する科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期	障害児教育学研究方法論			障害児教育課題研究	4
2年前期	障害児教育学特別演習 障害児心理学研究方法論 病弱者・情緒障害者生理学・病 理学研究			障害児教育課題研究	7
1年後期	障害児教育学特論Ⅱ 障害児心理学・心理検査特別演習 肢体不自由者生理学・病理学研究		教科教育に関する 科目から1科目		7
1年前期	障害児心理学特論Ⅰ 知的障害者生理学・病理学研究	教育方法学特論 教育心理学特論 障害児教育学特論Ⅰ	教科教育に関する 科目から1科目		12
修了要件 単位数	16	6	4	4	30

教科教育専攻

①国語教育専修（ただし主として近代文学を専攻する場合）

	学校教育に関する科目	教科教育共通科目	教科教育に関する科目	教科内容に関する科目	自由選択科目	課題研究	履修登録単位数
2年後期						国語課題研究Ⅱ	2
2年前期						国語課題研究Ⅰ	2
1年後期		実践授業研究	国語教育学特論ⅠB	現代文学特論Ⅱ 現代文学特別演習Ⅱ 古典文学特別演習Ⅱ	国語学特論ⅡB 中日比較文学特論Ⅱ		11
1年前期	日本教育史特論 教育心理学特論	実践授業研究	国語教育学特論ⅠA	現代文学特論Ⅰ 現代文学特別演習Ⅰ 古典文学特別演習Ⅰ	国語学特論ⅡA 中日比較文学特論Ⅰ		15
修了要件単位数	4	2	4	8	8	4	30

※ 実践授業研究は通年科目である

②社会科教育専修（歴史分野の一例）

	学校教育に関する科目	教科教育共通科目	教科教育に関する科目	教科内容に関する科目	自由選択科目	課題研究	履修登録単位数
2年後期						社会科課題研究 (社会・地歴)	
2年前期						社会科課題研究 (社会・地歴)	4
1年後期	道徳教育特別演習	実践授業研究	社会科教育学特論Ⅰ (社会・地歴)	考古学特論Ⅱ 考古学特別演習	日本史特論AⅡ 東洋史特論AⅡ		8
1年前期	日本教育史特論	実践授業研究	社会科教育学特論Ⅰ (社会・地歴)	考古学特論Ⅰ 日本史特論AⅠ 考古学特別演習	東洋史特論AⅠ 西洋史特論AⅠ		18
修了要件単位数	4	2	4	8	8	4	30

③数学教育専修（数学教育を主とする例）

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期						数学教育課題研究 (通年)	2
2年前期		実践授業研究				数学教育課題研究 (通年)	4
1年後期	学校・学年経営学 特論(通年)		数学教育学特別演 習Ⅰ、数学教育学 特論Ⅰ(通年)	代数学特論(通年)、 解析学特論(通年)	数学教育学特論Ⅱ (通年)、統計学 特論(通年)		14
1年前期	学校・学年経営学 特論(通年)		数学教育学特論Ⅰ (通年)	代数学特論(通年)、 解析学特論(通年)	数学教育学特論Ⅱ (通年)、統計学 特論(通年)		12
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30(32)

④理科教育専修（化学を主とする例）

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期				物理化学特別演習		理科課題 研究B	3
2年前期			理科教育学特論Ⅱ	物理化学特論	固体物理学特論	理科課題 研究B	7
1年後期	選択			無機化学特別演習	分析化学特論 有機化学特別 演習	理科課題 研究A	9
1年前期	選択	実践授業研究	理科教育学特論Ⅰ	無機化学特論	有機化学特論	理科課題 研究A	11
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30

⑤音楽教育専修（ピアノを主とする例）

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期						↑	
2年前期						音楽課題研 究(通年)	4
1年後期		↑	音楽教育学特論ⅠB 音楽教育学特論ⅡB	器楽特論ⅡB	声楽特論Ⅱ 作曲法特論Ⅱ 指揮法特別演習 音楽学特論		8
1年前期	学校・学級経 営学特論 教育心理学特 論	実践授業研究	音楽教育学特論ⅠA 音楽教育学特論ⅡA	器楽特論ⅡA 器楽特別演習Ⅱ(通 年) 日本の音楽文化特論	声楽特論Ⅰ 作曲法特論Ⅰ 指揮法特論 声楽学特論Ⅰ		18
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30

⑥美術教育専修

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期		↑				↑	
2年前期		実践授業研究 (通年)				美術工芸課題 研究 (通年)	5
1年後期	↑		↑	□□特別演習	(研究科全体の 科目から)		4
1年前期	(学校教育専 攻で開講され ている科目か ら4単位)		美術教育特論 (通 年) または 工芸教育教材特論 (通年)	□□特論 (通年) デザイン特論 (通年)	デザイン特別演習 □□特論 (通年)		21
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30

⑦保健体育専修 (学校保健分野の例)

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期							
2年前期						保健体育課 題研究 (通 年)	4
1年後期				学校保健特別演習 I 学校保健特別演習 II 運動生理学特別演習 健康生理学特論	健康運動実践方法学 特別演習 I 健康運動実践方法学 特別演習 II		7
1年前期	教育心理学特論 社会教育学特論	実践授業研究	保健体育 教育学特論 I 保健体育 教育学特論 II	学校保健特論 運動生理学特論	健康運動実践学特論 健康運動実践方法学 特論 I 健康運動実践方法学 特論 II		20
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30 (31)

⑧技術教育専修

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期						技術科課題 研究	2
2年前期					材料工学特論	技術科教育 課題研究	4
1年後期	教育方法学特論	実践授業研究			電気工学特論Ⅱ 機械工学特論Ⅱ 電子計算機特別演習		10
1年前期	教育心理学特論		技術教育特論 技術教育特別 演習	電気工学特論Ⅰ 電気工学特別演習 機械工学特論Ⅰ 情報工学特論			14
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30

⑨家政教育専修

	学校教育に関する科目	教科教育 共通科目	教科教育 に関する科目	教科内容 に関する科目	自由選択 科目	課題研究	履修登録 単位数
2年後期						家庭科教育（家政学）課題研究	
2年前期						家庭科教育（家政学）課題研究	2
1年後期		実践授業研究	家庭科教育学 特別演習	住居学特別演習 被服学特別演習Ⅰ	食物学特論Ⅰ 食物学特別演習Ⅰ	家庭科教育（家政学）課題研究	14
1年前期	障害児教育特論Ⅰ 道徳教育特論	実践授業研究	家庭科教育学 特論	住居学特論 被服学特論Ⅰ	家族関係学特論 保育学特論	家庭科教育（家政学）課題研究	14
修了要件 単位数	4	2	4	8	8	4	30

⑩英語教育専修（英語教育学分野の例）

	学校教育に関する科目	教科教育共通科目	教科教育に関する科目	教科内容に関する科目	自由選択科目	課題研究	履修登録単位数
2年後期						英語教育課題研究	2
2年前期						英語教育課題研究	2
1年後期		実践授業研究		英米文学特論 I B 英米文学特論 II B	英語教育学特論 I B 英語教育学特論 II B 英語教育学特別演習 I 英語教育学特別演習 II		11
1年前期	教育心理学特論 学校・学級経営学特論	実践授業研究	英語教育学特論 I A 英語教育学特論 II A	英米文学特論 I A 英米文学特論 II A	英語教育学特別演習 I 英語教育学特別演習 II		15
修了要件単位数	4	2	4	8	8	4	30

7 研究指導計画

指導教員は、各コース・専修の実情に応じつつ、以下の項目について研究指導を行う。

- 研究課題のテーマの設定および研究計画の立案に対して適切な指導を行う。
- 学内の諸施設案内・設備等の利用等について適宜の講習を実施する。
- 修士論文作成に必要な専門知識や技術を修得するための研究指導を行う。
- 研究室のゼミ、課題研究、修士論文発表に至るまでの報告機会においてプレゼンテーション技術の指導を行う。
- 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供し、関連学会での発表を奨励する。
- 2年生までの研究活動によって修士論文作成を指導し、2年生の1月末までに修士論文を提出させる。
- 修士論文審査会（修士論文発表会）で、主査と副査により審査、助言指導を行う。

なお、音楽教育専修及び美術教育専修においては、修士論文のほかに演奏や作品制作についても上記した項目に加えて適切な指導を行う。

8 修士論文の評価・認定基準

1. 学校教育専攻

論文を主査と副査が査読し、修士論文審査会における修士論文発表と口頭試問を経て、以下の評価項目について総合的に評価する（60点以上を合格）。なお、各項目への配点は各コースの基準に任される。

評価項目

○ 修士論文査読

主査教員と副査教員が査読し、以下の項目について評価する。

- ・ 研究の目的や意義を理解して明確に記述されているか。
- ・ 結果に至るまでの過程，研究方法および結果の考察について，合理的かつ明確に記述されているか。
- ・ 論文の構成が適切で，読みやすく記述されているか。

○ 修士論文中間発表会（実施される場合）

- ・ 発表態度が適切であるか。
- ・ 修士論文研究の目的・背景・これまでの成果について正しく理解しているか。
- ・ 以降の計画について具体的に表示できたか。

○ 修士論文審査会（修士論文発表会・試問会）

- ・ 研究の目的や意義を正しく理解しているか。
- ・ 結果に至るまでの過程を理解しているか。
- ・ 限られた時間内に適切に伝え，結果を分かりやすく論理的に表示できたか。
- ・ 結果に対する考察を論理的，明快に表明できたか。
- ・ 試問（質問）に対して適切に応答できたか。

2. 教科教育専攻

論文を主査と副査が査読し，修士論文審査会における修士論文発表と口頭試問を経て，以下の評価項目について総合的に評価する（60点以上を合格）。なお，各項目への配点は各専攻の基準に任される。

評価項目

○ 修士論文査読

主査教員と副査教員が査読し、以下の項目について評価する。

- ・ 研究の目的や意義を理解して明確に記述されているか。
- ・ 結果に至るまでの過程，研究方法および結果の考察について，合理的かつ明確に記述されているか。
- ・ 論文の構成が適切で，読みやすく記述されているか。

○ 修士論文中間発表会（実施される場合）

- ・ 発表態度が適切であるか。
- ・ 修士論文研究の目的・背景・これまでの成果について正しく理解しているか。
- ・ 以降の計画について具体的に表示できたか。

- 修士論文審査会（修士論文発表会・試問会）
 - ・研究の目的や意義を正しく理解しているか。
 - ・結果に至るまでの過程を理解しているか。
 - ・限られた時間内に適切に伝え、結果を分かりやすく論理的に表示できたか。
 - ・結果に対する考察を論理的、明快に表明できたか。
 - ・試問（質問）に対して適切に応答できたか。

9 修士論文の申請に関する内規

（修士論文題目届）

- 1 修士論文（専修に応じ、適当と認められるときは、特定の課題について研究成果の演奏又は作品及びそれらの関連論文の提出をもって代えることができる。）の題目届を入学年の12月25日までに指導教員の承認を得て大学院係に提出しなければならない。

（修士論文題目変更届）

- 2 修士論文の題目を変更する場合は、修了年の12月25日までに修士論文題目変更届を大学院係に提出しなければならない。

（修士論文の提出期限）

- 3 修士論文は学位申請書に添えて、1月31日までに研究科長に提出しなければならない。ただし、美術教育専修の作品の提出期限は2月15日までとする。

なお、年度の途中で修了が予定される者の論文等の提出期限は、修了年度の7月31日とする。

（修士論文要旨の提出）

- 4 修士論文に添えて、論文の要旨（和文又は英文、A4判 1.5ページ以上2ページ以内、原則として二段組み、横書き）を提出しなければならない。

なお、要旨の末尾には、指導教員（主査又は実質的な指導教員）の氏名を明記すること。

（修士論文等の提出部数）

- 5 修士論文及び論文の要旨は、各2部（1部はコピーでもよい。）提出しなければならない。

（修士論文の様式）

- 6 修士論文はA4判、横書き若しくは縦書きとし、綴じて提出しなければならない。
- 7 修士論文の初めのページには次の項目を記載した用紙を挿入しなければならない。

論文題目
専攻・コース又は専修名
学籍番号・氏名
指導教員名
提出年月日

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年10月21日から施行する。

年 月 日

修士論文題目届

コース

専攻

専修

学籍番号

氏 名

印

修士論文題目を下記のとおりお届けします。

記

論文題目

指導教員

氏 名

印

年 月 日

修士論文題目変更届

コース

専攻

専修

学籍番号

氏 名

印

修士論文題目を下記のとおり変更しますのでお届けします。

記

新 (論文題目)

旧 (論文題目)

指導教員

氏 名

印

10 現職教員等の教育方法の特例措置

現職教員等に対しては、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を行う。

教育方法の特例措置の実施方法は、次のとおりである。

- (1) 修業年限2年間のうち、最初の1年間は現職を離れて通常の間帯の通学履修を原則とする。
課程修了に必要な30単位のうち、24単位以上は通常の間帯における履修によって修得しなければならない。
- (2) 後半の1年間は現職の在職校等で勤務しながら、週1回以上定期的に通学し、夜間等の間帯で研究指導を受け、残りの単位を修得するとともに、修士論文を作成する。
- (3) 特例による授業間帯は夜間（6校時 18時00分～19時30分、7校時 19時40分～21時10分）、土曜日及び夏季・冬季休業期間とし、必要に応じて特定の曜日にも授業を行う。

11 佐賀大学大学院学則

(平成16年4月1日制定)

目次

第1章 総則

第1節 趣旨及び目的（第1条・第2条）

第2節 研究科（第3条）

第3節 課程（第4条）

第4節 鹿児島大学大学院連合農学研究科（第5条）

第5節 入学定員及び収容定員（第6条）

第2章 大学院通則

第1節 標準修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日（第7条－第11条）

第2節 教育課程（第11条の2－第17条の2）

第3節 課程の修了要件等（第18条－第21条）

第4節 学位の授与（第22条）

第5節 入学、進学、転入学及び再入学等（第23条－第33条）

第6節 休学、復学、退学、転学、転研究科、転専攻、派遣、留学及び除籍（第34条－第40条）

第7節 科目等履修生、特別研究学生、特別聴講学生、研究生及び外国人留学生（第41条－第45条）

第8節 検定料、入学料及び授業料（第46条・第47条）

第9節 教員の免許状授与の所要資格の取得（第48条）

第10節 賞罰（第49条）

第3章 準用規定（第50条）

第4章 改正（第51条）

附則

第1章 総則

第1節 趣旨及び目的

(趣 旨)

第1条 この大学院学則は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）第18条第5項の規定に基づき、佐賀大学大学院（以下「大学院」という。）の研究科及び専攻の目的、入学定員、標準修業年限、教育課程、学生の入学、退学、修了その他学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

第2節 研究科

(研究科)

第3条 大学院に、次の研究科を置く。

教育学研究科

経済学研究科

医学系研究科

工学系研究科

農学研究科

2 前項の研究科及び当該研究科の専攻の目的は、各研究科及び各専攻ごとに別に定める。

第3節 課程

(課 程)

第4条 大学院の課程は、修士課程及び博士課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

3 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

4 工学系研究科の課程は、博士課程とし、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。

第4節 鹿児島大学大学院連合農学研究科

(鹿児島大学大学院連合農学研究科の教育研究の実施)

第5条 鹿児島大学大学院連合農学研究科の教育研究の実施に当たっては、佐賀大学、鹿児島大学及び琉球大学が協力するものとする。

2 前項に規定する連合農学研究科の連合講座は、佐賀大学の農学部及びこれに関連を有する学内共同教育研究施設の教員が、鹿児島大学の農学部及び水産学部並びに琉球大学農学部の教員とともに担当するものとする。

第5節 入学定員及び収容定員

(入学定員及び収容定員)

第6条 研究科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

研究科	専攻	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
教育学研究科	学校教育専攻	6人	12人		
	教科教育専攻	33人	66人		
	小計	39人	78人		
経済学研究科	金融・経済政策専攻	4人	8人		
	企業経営専攻	4人	8人		
	小計	8人	16人		
医学系研究科	医科学専攻	15人	30人		
	看護学専攻	16人	32人		
	小計	31人	62人		
	医科学専攻			30人	120人
	小計			30人	120人
工学系研究科	数理科学専攻	9人	18人		
	物理科学専攻	15人	30人		
	知能情報システム学専攻	16人	32人		
	循環物質化学専攻	27人	54人		
	機械システム工学専攻	27人	54人		
	電気電子工学専攻	27人	54人		
	都市工学専攻	27人	54人		
	先端融合工学専攻	36人	72人		
	小計	184人	368人		
	システム創成科学専攻			24人	72人
	小計			24人	72人
農学研究科	生物資源科学専攻	40人	80人		
	小計	40人	80人		
合計	小計	302人	604人	54人	192人

第2章 大学院通則

第1節 標準修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日

(修士課程及び博士前期課程の標準修業年限)

第7条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、修士課程及び博士前期課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であつて、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

(博士後期課程の標準修業年限)

第8条 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、3年を超えるものとするすることができる。

(医学系研究科の博士課程の標準修業年限)

第9条 医学系研究科の博士課程の標準修業年限は4年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、4年を超えるものとするができる。

(在学年限)

第10条 大学院における在学年限は、修士課程及び博士前期課程にあつては4年、博士後期課程にあつては6年、医学系研究科の博士課程にあつては8年とする。

(学年、学期及び休業日)

第11条 大学院の学年、学期及び休業日については、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）第4条及び第5条第1項の規定を準用する。

第2節 教育課程

(教育課程の編成)

第11条の2 大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

(教育方法)

第12条 大学院における教育は、授業科目の授業及び研究指導により行う。

2 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

3 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められた場合には、他の国立の研究所等の研究者を大学院教員に併任する等の方法により、当該研究所等において授業又は研究指導を行うこと（連携大学院方式と称する。）ができる。

(履修方法等)

第13条 研究科における授業科目、単位数及び研究指導並びにこれらの履修方法は、当該研究科において定める。

2 研究科において教育上必要と認めた場合には、前項によるほか、特別の履修コースを開設することができる。

3 学長は、研究科長からの申出に基づき、前項の特別の履修コースを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

(一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準)

第13条の2 大学院が、一の授業科目について講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、学則第19条第1項各号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって一単位とする。

(成績の判定)

第13条の3 学生が一の授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(他の大学院及び外国の大学院における授業科目の履修)

第14条 大学院は、教育上有益と認めるときは、他の大学院（外国の大学院を含む。）との協議に基づき、学生が当該他の大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により、学生が当該他の大学院において修得した単位を、研究科委員会（工学系研究科にあっては教授会。以下「研究科委員会等」という。）の議に基づき、10単位を超えない範囲内で、課程修了の要件となる単位として認定することができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第15条 大学院は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、研究科委員会等の議に基づき、大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、転入学、再入学の場合を除き、10単位を超えない範囲内で、課程修了の要件となる単位として認定することができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第16条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、各研究科の定めるところによりその計画的な履修を認めることができる。この場合において、在学年限は、修士課程及び博士前期課程にあっては4年、博士後期課程にあっては6年、博士課程にあっては8年を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第17条 大学院は、教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）との協議に基づき、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(成績評価基準等の明示等)

第17条の2 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第3節 課程の修了要件等

(修士課程及び博士前期課程の修了要件)

第18条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年（2年以外の標準修業年限を定

める研究科，専攻又は学生の履修上の区分にあつては，当該標準修業年限）以上在学し，30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，当該修士課程及び博士前期課程の目的に応じ，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた業績を上げた者については，当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（博士後期課程の修了要件）

第19条 博士後期課程の修了要件は，当該課程に3年（3年を超える標準修業年限を定める研究科，専攻又は学生の履修上の区分にあつては，当該標準修業年限とする。）以上在学し，研究科が定めた所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 第7条第2項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び前条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者の博士後期課程の修了の要件については，前項ただし書中「1年」とあるのは，「3年（第7条第2項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては，当該1年以上2年未満の期間を，前条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては，当該過程における在学期間（2年を限度とする。）を含む。）」と読み替えて，前項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず，修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。）を有する者又は学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が，博士後期課程に入学した場合の博士後期課程の修了の要件は，当該過程に3年（第8条ただし書の規定により博士課程の後期の課程について3年を超える標準修業年限を定める研究科，専攻又は学生の修学上の区分にあつては，当該標準修業年限とし，専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第1項の法科大学院の課程を修了した者にあつては，2年（博士課程の後期の課程について3年を超える標準修業年限を定める研究科，専攻又は学生の修学上の区分にあつては，当該標準修業年限から1年の期間を減じた期間）とする。）以上在学し，研究科が定めた所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，当該課程に1年（第7条第2項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び専門職大学院設置基準第2条第2項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした専門職学位課程を修了した者にあつては，3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間とし，前条ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては，3年から当該課程における在学期間（2年を限度とする。）を減じた期間とする。）以上在学すれば足りるものとする。

（医学系研究科の博士課程の修了要件）

第20条 医学系研究科の博士課程の修了要件は，大学院に4年（4年を超える標準修業年限を定め

る研究科，専攻又は学生の修学上の区分にあつては，当該標準修業年限）以上在学し，研究科が定めた所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，3年以上在学すれば足りるものとする。

（学位論文及び最終試験）

第21条 前3条に規定する最終試験は，学位論文を中心として，これに関連ある科目について行うものとする。

- 2 学位論文の審査及び最終試験の合格又は不合格は，当該研究科委員会等が決定し，その方法は各研究科において定める。
- 3 前項の学位論文の審査に当たって必要があるときは，当該研究科委員会等の議を経て，他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等の協力を得ることができる。

第4節 学位の授与

（学位の授与）

第22条 修士課程，博士前期課程，博士後期課程又は博士課程を修了した者には，修士又は博士の学位を授与する。

- 2 前項に定めるもののほか，博士の学位は，大学院の行う博士論文の審査に合格し，かつ，大学院の博士後期課程又は博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。
- 3 前2項に定めるもののほか，学位の授与に関し必要な事項は，別に定める。

第5節 入学，進学，転入学及び再入学等

（入学の時期）

第23条 入学の時期は，学年の始めとする。

- 2 前項の規定にかかわらず，後学期の始めに学生を入学させることができる。

（入学資格）

第24条 修士課程又は博士前期課程に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において，学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (9) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

第25条 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

第26条 医学系研究科の博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における18年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程に4年以上在学し、又は外国において学校教育における医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含む16年の課程を修了し、大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (7) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学志願)

第27条 大学院に入学を志願する者は、所定の期日までに、入学願書その他必要な書類に所定の検定料を添えて、提出しなければならない。

(入学志願者の選考及び入学の許可)

第28条 前条の入学を志願した者については、別に定めるところにより行う選考結果に基づき、研究科委員会等の議を経て、学長が入学を許可する。

(入学手続及び入学許可の取消し)

第29条 入学を許可された者は、別に定めるところにより入学の手続を行い、かつ、誓約書を提出しなければならない。

2 前項の規定に違反したときは、学長は、入学許可を取り消すものとする。

(博士後期課程又は博士課程への進学資格)

第30条 博士後期課程又は博士課程に進学することのできる者は、大学院の修士課程又は博士前期課程を修了した者とする。

(進学志願)

第31条 進学を志願する者は、所定の期日までに出願書類その他必要な書類を提出しなければならない。

(進学志願者の選考及び進学の許可)

第32条 進学志願者については、選考の上、研究科委員会等の議を経て、学長が進学を許可する。

(転入学及び再入学)

第33条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、志願する専攻に係る研究科委員会等の議を経て、学期の始めに学長が、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 他の大学院（外国の大学院を含む。）に在学中の者で転入学を志願する者

(2) 大学院を退学した者で再入学を志願する者

2 転入学又は再入学を許可された者の在学すべき年数、履修すべき単位数は、研究科委員会等の議を経て、研究科長が決定する。

第6節 休学、復学、退学、転学、転研究科、転専攻、派遣、留学及び除籍

(休学)

第34条 病気その他の事由によって継続して3月以上修学できない者は、学長の許可を得て休学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、その期間を延長することができる。

3 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

4 休学期間は、在学期間に算入しない。

(復学)

第35条 休学期間が満了するとき又は休学期間中にその事由が消滅したときは、学長に復学を願い出て、許可を受けなければならない。

(退学)

第36条 自己の都合により退学する者は、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(転学)

第37条 他の大学院への入学又は転学を志願する者は、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(転研究科及び転専攻)

第38条 転研究科又は転専攻を志願する者があるときは、関係する研究科の研究科委員会等の議を経て、学長が学期の始めに限り許可することがある。

2 転研究科又は転専攻を許可された者の在学すべき年数、履修すべき単位数は、研究科委員会等の

議を経て、研究科長が決定する。

(派遣及び留学)

第 39 条 教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）との協議に基づき、当該他の大学院又は研究所等に学生を派遣し、又は留学させることができる。

2 前項の派遣及び留学については、研究科委員会等の議を経て行うものとする。

3 派遣及び留学の期間は、標準修業年限に算入する。

4 派遣及び留学に関し、必要な事項は、別に定める。

(除 籍)

第 40 条 次の各号のいずれかに該当する者は、研究科委員会等の議を経て、学長が除籍する。

(1) 第 10 条に規定する期間在学して修了できない者

(2) 病気その他で修業の見込みがない者

(3) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は一部の免除を許可された者であつて、その納付すべき入学料を納付しない者

(4) 授業料の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者

第 7 節 科目等履修生、特別研究学生、特別聴講学生、研究生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第 41 条 大学院の学生以外の者で一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、教育研究に支障のない限り、当該研究科において選考の上、学長が学期の始めに科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関し、必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第 42 条 他の大学院又は外国の大学院等の学生で、大学院において研究指導を受けようとする者があるときは、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、学長が特別研究学生として研究指導を受けることを認めることがある。

2 特別研究学生に関し、必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第 43 条 他の大学院又は外国の大学院等の学生で、大学院の授業科目の履修を希望する者があるときは、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、学長が特別聴講学生として履修を認めることがある。

2 特別聴講学生に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第 44 条 研究科において特定の事項について研究を希望する者があるときは、教育研究に支障のない限り、当該研究科において選考の上、学長が原則として学期の始めに、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関し、必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 45 条 外国人で、大学院において教育を受ける目的をもって入国し、大学院に入学を志願する者

があるときは、当該研究科において選考の上、学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関し、必要な事項は、別に定める。

第8節 検定料、入学料及び授業料

(検定料、入学料及び授業料)

第46条 検定料、入学料及び授業料の額は、別に定める。

2 第16条の規定に基づき、当該標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することを認められた者（以下「長期履修学生」という。）から徴収する授業料の年額は、長期履修学生として、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められた期間（以下「長期在学期間」という。）に限り、前項の規定にかかわらず、同項に規定する授業料の年額に当該標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期在学期間の年数で除した額（その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。）とする。

(検定料の徴収)

第46条の2 検定料は、入学、編入学、転入学又は再入学の出願を受理するときに徴収するものとする。

(入学料の徴収)

第46条の3 入学料は、入学を許可するときに徴収するものとする。

(検定料及び入学料の不徴収)

第46条の4 前2条の規定にかかわらず、大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き大学院の博士課程又は博士後期課程に進学する者については、検定料及び入学料を徴収しないものとする。

(入学料の免除等)

第47条 大学院に入学する者（研究生又は科目等履修生として入学する者を除く。）であつて、学業優秀であり、かつ、入学料の納付が困難な経済的理由があると認められる者に対しては、入学料の全部又は一部を免除することができる。

2 前項に定めるもののほか、入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の徴収方法、免除及び徴収猶予並びに既納の授業料の返還については、学則第48条から第55条の2までの規定及び第57条第1項、第3項及び第4項の規定を準用する。この場合において、「卒業」とあるのは「修了」と、読み替えるものとする。

第9節 教員の免許状授与の所要資格の取得

(教員の免許状)

第48条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 大学院の専攻において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表に掲げるとおりとする。

第10節 賞罰

(表彰及び懲戒)

第49条 表彰及び懲戒については、学則第38条及び第39条の規定を準用する。

第3章 準用規定

(準用規定)

第50条 大学院の学生に関しては、この大学院学則に定めるもののほか、学則及び本学の諸規則等の学生に関する規定を準用する。この場合において、「学部」とあるのは「研究科」と、「学部長」とあるのは「研究科長」と、「教授会」とあるのは「研究科委員会等」と、それぞれ読み替えるものとする。

第4章 改正

(改正)

第51条 この大学院学則の改正は、教育研究評議会において構成員の3分の2以上の賛成がなければならない。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この大学院学則施行前の佐賀大学に、平成15年10月1日以降入学した者が修得した教育課程の履修は、この大学院学則の規定に基づき修得した教育課程の履修とみなす。
- 3 国立大学法人の成立の際現に国立学校設置法の一部を改正する法律（平成15年法律第29号）附則第2項の規定により平成15年9月30日に在学する者（次項において「在学者」という。）が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学及び佐賀医科大学に在学する者に係る修了するために必要であった教育課程の履修は、本学において行うものとし、本学は、そのため必要な教育を行うものとする。この場合における教育課程の履修その他当該学生の教育に関し、必要な事項は、平成16年3月31日において現に適用されていた教育課程の履修その他当該学生の教育に関する規程等に定めるところによる。
- 4 この大学院学則施行後、第33条の規定に基づき、在学者の属する年次に転入学又は再入学する者に係る教育課程の履修その他当該学生の教育に関し、必要な事項は、前項の規定を準用する。

附 則（平成17年5月20日改正）

この大学院学則は、平成17年5月20日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成17年9月27日改正）

この大学院学則は、平成17年9月27日から施行する。

附 則（平成17年12月16日改正）

この大学院学則は、平成17年12月16日から施行する。

附 則（平成19年2月16日改正）

この大学院学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月20日改正）

この大学院学則は、平成19年4月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成19年7月20日改正）

- 1 この大学院学則は、平成19年7月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次

に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成 20 年 2 月 15 日改正）

- 1 この大学院学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 20 年度から平成 22 年度までの医学系研究科博士課程医科学専攻の収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

研究科	専 攻	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
医学系研究科	医科学専攻	30 人	60 人	90 人

附 則（平成 20 年 3 月 21 日改正）

- 1 この大学院学則は、平成 20 年 3 月 21 日から施行する。

附 則（平成 21 年 2 月 20 日改正）

- 1 この大学院学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 21 年 3 月 31 日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成 22 年 3 月 25 日改正）

- 1 この大学院学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 22 年度の工学系研究科博士前期課程及び農学研究科修士課程の各専攻の収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

研究科	専 攻	平成 22 年度
工学系研究科	数理科学専攻	9 人
	物理科学専攻	15 人
	知能情報システム学専攻	16 人
	循環物質化学専攻	27 人
	機械システム工学専攻	27 人
	電気電子工学専攻	27 人
	都市工学専攻	27 人
	先端融合工学専攻	36 人
農学研究科	生物資源科学専攻	40 人

- 3 平成 22 年度及び平成 23 年度の工学系研究科博士後期課程システム創成科学専攻の収容定員は、改正後の第 6 条の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

研究科	専 攻	平成 22 年度	平成 23 年度
工学系研究科	システム創成科学専攻	24 人	48 人

- 4 平成 22 年 3 月 31 日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、改正後の第 6 条並びに第 13 条第 2 項及び第 3 項並びに別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第48条第2項関係）

研究科	課程	専攻	教員免許状の種類	免許教科の種類
教育学研究科	修士課程	学校教育専攻	小学校教諭専修免許状	
			中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
			高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 工業, 英語
			特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)	
			幼稚園教諭専修免許状	
		教科教育専攻	小学校教諭専修免許状	
			中学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
			高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 工業, 英語
			幼稚園教諭専修免許状	
経済学研究科	修士課程	金融・経済政策専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民
		企業経営専攻	高等学校教諭専修免許状	商業
工学系研究科	博士前期課程	数理科学専攻	中学校教諭専修免許状	数学
			高等学校教諭専修免許状	数学
		物理科学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
			高等学校教諭専修免許状	理科
		知能情報システム学専攻	高等学校教諭専修免許状	情報
		循環物質化学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
			高等学校教諭専修免許状	理科
		機械システム工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
		電気電子工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
		都市工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
先端融合工学専攻	中学校教諭専修免許状	理科		
	高等学校教諭専修免許状	理科		
農学研究科	修士課程	生物資源科学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
			高等学校教諭専修免許状	理科, 農業

12 佐賀大学学位規則

(平成 16 年 4 月 1 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、佐賀大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 36 条及び佐賀大学大学院学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 22 条の規定に基づき、佐賀大学（以下「本学」という。）が授与する学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学 位)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

(学位に付記する専攻分野の名称)

第 3 条 前条の学位を授与するに当たっては、別表に定める専攻分野の名称を付記するものとする。

(学士の学位授与の要件)

第 4 条 学士の学位は、本学の学部を卒業した者に授与するものとする。

(修士の学位授与の要件)

第 5 条 修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者又は本学大学院の博士課程の前期 2 年の課程（以下「博士前期課程」という。）を修了した者に授与するものとする。

(博士の学位授与の要件)

第 6 条 博士の学位は、本学大学院の博士課程を修了した者又は本学大学院の博士課程の後期 3 年の課程（以下「博士後期課程」という。）を修了した者に授与するものとする。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の行う博士の学位論文（以下「博士論文」という。）の審査に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者又は本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認（以下「学力の確認」という。）された者に授与することができる。

(学位の申請)

第 7 条 第 5 条に規定する学位の授与を受けようとする者は、学位申請書（別紙第 1 号様式）に修士の学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）を添え、研究科長に提出しなければならない。

2 第 6 条第 1 項に規定する学位の授与を受けようとする者は、学位申請書（別紙第 2 号様式）に博士論文、論文目録（別紙第 4 号様式）、博士論文の要旨及び履歴書を添え、研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 第 6 条第 2 項の規定により、博士論文を提出して学位の授与を受けようとする者は、学位申請書（別紙第 3 号様式）に、前項に規定するもののほか、別に定める学位論文審査手数料を添え、研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

4 研究科の博士課程又は博士後期課程に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が学位を申請するときは、前項の規定を準用する。この場合において、退学したときから1年を超えないときは、学位論文審査手数料の納付を免除する。

5 既納の学位論文審査手数料は、返還しない。

(修士論文等及び博士論文)

第8条 修士論文等及び博士論文は、1編に限る。ただし、参考資料として他の論文を添えることができる。

2 研究科長は、審査のため必要があるときは、修士論文等及び博士論文の提出者に、当該修士論文等及び博士論文の訳文その他必要な資料等の提出を求めることができる。

(審査の付託)

第9条 研究科長は、第7条第1項の規定による修士の学位の申請を受理したときは、当該研究科委員会（工学系研究科にあつては教授会、以下「研究科委員会等」という。）にその審査を付託しなければならない。

2 学長は、第7条第2項、第3項及び第4項の規定による博士の学位の申請を受理したときは、当該研究科長を経て、研究科委員会等にその審査を付託しなければならない。

(審査員の選出)

第10条 前条第1項の規定により修士論文等の審査を付託された研究科委員会等は、修士論文等の内容及び専攻科目に関連がある教員の中から審査員3人以上を選出して、修士論文等の審査及び最終試験を行わせるものとする。

2 前条第2項の規定により博士論文の審査を付託された研究科委員会等は、博士論文の内容及び専攻科目に関連がある教員の中から審査員3人以上を選出して、博士論文の審査並びに最終試験又は試験及び学力の確認を行わせるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、修士論文等及び博士論文の審査に当たって必要があるときは、研究科委員会等の議を経て、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査員として加えることができる。

(審査の期間)

第11条 修士論文は、提出者の在学期間中に審査を終了するものとする。

2 博士論文は、受理した日から1年以内に審査を終了するものとする。

(最終試験)

第12条 最終試験は、第7条第1項又は第2項の規定により申請のあった者に対し、修士論文等又は博士論文の審査を終えた後、修士論文等又は博士論文を中心として、これに関連のある科目について筆記又は口述により行うものとする。

(試 験)

第13条 試験は、第7条第3項及び第4項の規定により申請のあった者に対し、博士論文の審査を終えた後、博士論文を中心として、これに関連のある専門分野について筆記又は口述により行うものとする。

(学力の確認)

第14条 学力の確認は、第7条第3項及び第4項の規定により申請のあった者に対し、博士論文の審査及び試験を終えた後、博士論文に関連のある専門分野及び外国語について筆記又は口述により行うものとする。

(学力の確認の特例)

第15条 前条の規定にかかわらず、第7条第4項に規定する者のうち、退学したときから一定の年限内の者については、各研究科の定めるところにより、第6条第1項に規定する者と同等以上の学力を有する者とみなし、学力の確認を免除することができる。

(審査結果の要旨の報告)

第16条 審査員は、第7条第1項又は第2項の規定により申請のあった者の修士論文等又は博士論文の審査及び最終試験を終了したときは、その結果の要旨を速やかに研究科委員会等に報告するものとする。

2 審査員は、第7条第3項及び第4項の規定により申請のあった者の博士論文の審査並びに試験及び学力の確認を終了したときは、その結果の要旨を速やかに研究科委員会等に報告するものとする。

3 前2項の報告は、文書をもって行うものとする。

(合否の判定)

第17条 研究科委員会等は、前条第1項の報告に基づき、修士論文等又は博士論文及び最終試験の合否の判定を行う。

2 研究科委員会等は、前条第2項の報告に基づき、博士論文及び試験の合否の判定を行う。

(判定結果の報告)

第18条 学部長又は研究科長は、教授会又は研究科委員会等において学位を授与するものと判定したときは、速やかに、次に掲げる事項を記載した文書を添えて、その旨を学長に報告しなければならない。

(1) 授与する学位の種類

(2) 授与する年月日

(3) 博士の場合、第6条第1項又は第2項のいずれの規定によるかの別

(4) 博士の場合、博士論文の審査及び最終試験又は試験の結果の要旨

(5) 第6条第2項の規定による博士の場合、学力の確認の結果の要旨

2 学位を授与できないと判定した者については、その旨を学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第 19 条 学長は、前条の報告に基づき学位を授与すると決定した者には、学位記（別紙第 5 号様式、別紙第 6 号様式、別紙第 7 号様式又は別紙第 8 号様式）を交付し、学位を授与できないと決定した者には、その旨を通知するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、国立学校設置法の一部を改正する法律（平成 15 年法律第 29 号）附則第 2 項の規定により平成 15 年 9 月 30 日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀医科大学に在学していた者に対し、学位を授与すると決定した場合の学位記は、別紙様式第 9 号様式、第 10 号様式又は第 11 号様式とする。

(学位授与の報告)

第 20 条 前条の規定により博士の学位を授与したときは、学位簿に登録し、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 12 条に定める様式により文部科学大臣に報告しなければならない。

(博士論文要旨等の公表)

第 21 条 本学が博士の学位を授与したときは、授与した日から 3 月以内に、その博士論文の要旨及び博士論文の審査結果の要旨を公表するものとする。

(博士論文の公表)

第 22 条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から 1 年以内に、その博士論文を印刷公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既に、印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を得て、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合において、研究科長は、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

(学位の名称)

第 23 条 本学の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「佐賀大学」と付記しなければならない。

(学位授与の取消し)

第 24 条 学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき又はその名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、教授会又は研究科委員会等の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記の返還を命じ、かつ、その旨を公表するものとする。

(学位記の再交付)

第 25 条 学位記の再交付を受けようとする者は、その理由を明記して学長に願い出なければならない。

(雑 則)

第26条 この規則に定めるもののほか、学位に関し、必要な事項は、各学部又は各研究科が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立の際現に国立学校設置法の一部を改正する法律（平成15年法律第29号）附則第2項の規定により平成15年9月30日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学教育学部に在学していた者に係る学位に付記する専攻分野の名称は、第3条第1号の規定にかかわらず、教育学とする。

附 則（平成16年7月20日改正）

この規則は、平成16年7月20日から施行する。

附 則（平成21年3月19日改正）

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成22年3月25日改正）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月25日改正）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年2月23日改正）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人佐賀大学規則の一部を改正する規則（平成18年2月16日制定）附則第2項の規定により平成18年3月31日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学農学部に置かれていた学科、国立大学法人佐賀大学規則の一部を改正する規則（平成20年2月13日制定）附則第2項の規定により平成20年3月31日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学大学院医学系研究科に置かれていた専攻並びに国立大学法人佐賀大学規則の一部を改正する規則（平成22年3月25日制定）附則第2項の規定により平成22年3月31日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学大学院工学系研究科及び佐賀大学大学院農学研究科に置かれていた専攻に在学する者に授与する学位に付記する専攻分野の名称は、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第3条関係）

学位及び専攻分野の名称

1 学部

学 部	学科又は課程	学位及び専攻分野の名称
文化教育学部	学校教育課程	学士（学校教育）
	国際文化課程	学士（国際文化）
	人間環境課程	学士（人間環境）
		学士（健康福祉・スポーツ）
美術・工芸課程	学士（美術・工芸）	
経済学部	経済システム課程	学士（経済学）
	経営・法律課程	学士（経済学）
医学部	医学科	学士（医学）
	看護学科	学士（看護学）
理工学部	数理科学科	学士（理学）
	物理科学科	学士（理学）
	知能情報システム学科	学士（理学）
	機能物質化学科	学士（理学）
		学士（工学）
	機械システム工学科	学士（工学）
	電気電子工学科	学士（工学）
都市工学科	学士（工学）	
農学部	応用生物科学科	学士（農学）
	生物環境科学科	学士（農学）
	生命機能科学科	学士（農学）

2 研究科

研究科	課 程	専 攻	学位及び専攻分野の名称
教育学研究科	修士課程	学校教育専攻	修士（教育学）
		教科教育専攻	修士（教育学）
経済学研究科	修士課程	金融・経済政策専攻	修士（経済学）
		企業経営専攻	修士（経済学）
医学系研究科	修士課程	医科学専攻	修士（医科学）
		看護学専攻	修士（看護学）
	博士課程	医科学専攻	博士（医学）
工学系研究科	博士前期課程	数理科学専攻	修士（理学）
		物理科学専攻	修士（理学）
		知能情報システム学専攻	修士（理学）
		循環物質化学専攻	修士（理学）
			修士（工学）
		機械システム工学専攻	修士（工学）
		電気電子工学専攻	修士（工学）
	都市工学専攻	修士（工学）	
	先端融合工学専攻	修士（学術）	
		修士（理学）	
		修士（工学）	
	博士後期課程	システム創成科学専攻	博士（学術）
			博士（理学）
博士（工学）			
農学研究科	修士課程	生物資源科学専攻	修士（農学）

別紙第1号様式（第7条第1項関係）

修士の学位申請の様式

学 位 申 請 書

年 月 日

佐賀大学大学院〇〇研究科長

〇 〇 〇 〇 殿

佐賀大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

学籍番号

氏 名

印

佐賀大学学位規則第7条第1項の規定により、修士論文を提出しますので、御審査願います。

指導教員

氏 名

印

注 特定の課題についての研究の成果を提出する場合は、「修士論文」を「特定の課題についての研究の成果」と記載する。

別紙第4号様式 (第7条第2項関係)

論 文 目 録

報 告 番 号	甲 乙	第 号	氏 名
博士論文 題名 (既に印刷公表したものについては、その方法及び年月、未公表のものについては、公表の方法及び時期を記入すること。)			
参考論文 題名、雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年月 () 題名 (同 上)			

備考

- 1 博士論文の題名が外国語の場合は、日本語で訳文を()を付して記入すること。
- 2 報告番号は、記入しないこと。

別紙第6号様式 (第19条第1項関係)

修士の学位記の様式

<p>注1 学位番号には、当該学位に付記する専攻分野の名称の首字を付することができる。</p> <p>注2 特定の課題についての研究の成果の審査による学位記については、「修士論文」を「特定の課題についての研究の成果」と記載する。</p>	<p>○修第</p> <p>号</p>	<p>佐 賀 大 学 印</p>	<p>年 月 日</p>	<p>本学大学院○○研究科○○専攻の○○課程において所定の単位を修得し修士論文の審査及び最終試験に合格したので修士(○○)の学位を授与する</p>	<p>氏 名</p> <p>年 月 日生</p>	<p>学 位 記</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------	------------------	--------------	---------------------------------------------------------------------------	--------------------------	--------------

13 佐賀大学大学院教育学研究科規則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学大学院教育学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）、佐賀大学大学院学則（平成16年4月1日制定。以下「大学院学則」という。）及び佐賀大学学位規則（平成16年4月1日制定。以下「学位規則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(研究科の目的)

第1条の2 研究科は、初等中等教育において指導性を発揮しうる高度の専門的学術を授け、理論と実践の研修を通して、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成することを目的とする。

(専攻の目的)

第1条の3 研究科の各専攻の目的は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 学校教育専攻 教育学、教育心理学及び障害児教育の分野で基本的授業科目を設定し、教育学の理論、児童・生徒の心身の発達と学習に関する理論、障害児教育に関する理論に加え、学校経営、生徒指導及び生涯学習に関する高度の専門的知識を授け、社会的視点に立ち、学校全体を見据えうる、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成すること。
- (2) 教科教育専攻 各教科における教科教育に関する授業科目と教科内容に関する授業科目を設定し、その学習成果を実践面に応用するための実践授業研究と修士論文に結びつく課題研究を課すことによって、各教科に関する高度の専門的知識を授け、学校教育に関する高い実践力と研究能力を備えた人材を養成すること。

(専攻並びにコース及び専修)

第2条 研究科の専攻に次のコース及び専修を置く。

専攻名	コース及び専修名
学校教育専攻	教育学コース、教育心理学コース、障害児教育コース
教科教育専攻	国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修、英語教育専修

(指導教員)

第3条 学生の専攻分野の研究を指導するため、学生ごとに指導教員を置く。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第4条 授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学大学院教育学研究科履修細則（平成16年4月1日制定）に定めるところによる。

- 2 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院等における授業科目の履修)

第5条 学生は、大学院学則第14条の規定に基づき、他の大学院及び外国の大学院の授業科目を履修することができる。

2 指導教員は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他専攻及び他の研究科の授業科目を履修することを認めることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第6条 研究科が必要と認めたときは、大学院学則第15条の規定に基づき、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(他の大学院等における研究指導)

第7条 学生は、大学院学則第17条の規定に基づき、他の大学院又は研究所等(外国の大学院又は研究所等を含む。)において、必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

2 研究指導は、研究指導上必要があると認めるときは、学生が他の研究科において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

(履修手続)

第8条 履修しようとする授業科目については、各学期とも所定の期間に定められた方法により履修手続きをしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度履修手続きをしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第8条の2 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告、論文及び試験等によって行う。

3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第9条 試験は、毎学期末又は毎学年末において授業担当教員が行う。

(学位論文の提出)

第10条 学位規則第7条第1項規定により、修士の学位の授与を受けようとする者は、申請書類とともに、学位論文を指定した期日までに研究科長に提出しなければならない。

(学位論文審査員)

第11条 佐賀大学大学院教育学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)は、修士論文の審査のため、研究科の教員の中から3人以上の学位論文審査員(以下「審査員」という。)を選出し、

うち1人を主査とする。

2 前項の規定にかかわらず、学位論文の審査に当たって必要があるときは、研究科委員会の議を経て、他の研究科、他の大学院又は研究所等（外国の大学院又は研究所等を含む。）の教員等を審査員に加えることができる。

（入学者の選考）

第12条 入学者の選考は、その志望する専攻を修めるために必要な学力及び能力について行う。

（研究生及び科目等履修生）

第13条 研究科の教育研究に支障のないときは、研究科委員会の議を経て、研究生及び科目等履修生の入学を認めることができる。

2 研究生及び科目等履修生として入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第52条に定める大学を卒業した者

(2) 研究科委員会において前号と同等以上の学力があると認められた者

（特別研究学生）

第14条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別研究学生として研究指導を受けることを認めることができる。

（特別聴講学生）

第15条 研究科は、他の大学院又は外国の大学院等との協議に基づき、他の大学院等の学生が特別聴講学生として授業科目を履修することを認めることができる。

（転入学又は再入学を許可された者の既履修単位等の認定）

第16条 研究科に転入学又は再入学を許可された者が、佐賀大学の大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む。）で既に修得した単位数及び在学した期間は、研究科委員会の議を経て通算することができる。

（雑則）

第17条 この規則に定めるもののほか、研究科に関し、必要な事項は、研究科委員会において定める。

附則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附則

1 この規則は、平成19年7月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

14 佐賀大学大学院教育学研究科履修細則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学大学院教育学研究科規則（平成16年4月1日制定。以下「研究科規則」という。）

第4条の規定に基づく佐賀大学大学院教育学研究科（以下「研究科」という。）の授業科目、単位数及び履修方法は、この細則の定めるところによる。

(修了に必要な単位数)

第2条 研究科の修了に必要な単位数は、次の表に掲げるとおりとする。

科 目	専 攻	
	学校教育専攻	教科教育専攻
学校教育に関する科目	10単位	4単位
学校教育コース共通科目	6単位	
教科教育共通科目		2単位
教科教育に関する科目	4単位	4単位
教科内容に関する科目		8単位
自由選択科目	6単位	8単位
課題研究	4単位	4単位
計	30単位	30単位

(授業科目、単位数)

第3条 授業科目及び単位数等については、各専攻・コース・専修ごとに別表Ⅰに掲げるとおりとする。

2 外国人留学生のための科目については、別表Ⅱに掲げるとおりとする。

3 研究科間共通科目として経済学研究科で開設される科目については、別表Ⅲに掲げるとおりとする。

(履修方法)

第4条 専攻ごとの履修方法は、次のとおりとする。

2 学校教育専攻

(1) 学校教育に関する科目

学校教育専攻で開設する学校教育に関する科目から、学校教育コース共通科目を除いて10単位以上を選択履修する。

(2) 学校教育コース共通科目

「教育方法学特論」、「教育心理学特論」及び「障害児教育学特論Ⅰ」の各2単位を履修する。

(3) 教科教育に関する科目

教科教育専攻のいずれか一つの専修から、4単位以上を選択履修する。

(4) 自由選択科目

研究科全体の開設授業科目から、6単位以上を選択履修する。

(5) 課題研究

課題研究4単位は、自コースの一つの分野の指導教員を中心とする関係教員の指導のもとに研

究を行う。

3 教科教育専攻

(1) 学校教育に関する科目

学校教育専攻で開設する学校教育に関する科目から、4単位以上を選択履修する。

(2) 教科教育共通科目

自専修の「実践授業研究」2単位を履修する。

(3) 教科教育に関する科目

自専修の教科教育に関する授業科目から、4単位以上を選択履修する。

(4) 教科内容に関する科目

自専修の教科内容に関する授業科目から、8単位以上を選択履修する。

(5) 自由選択科目

研究科全体の開設授業科目から、8単位以上を選択履修する。

(6) 課題研究

課題研究4単位は、自専修の一つの分野の指導教員を中心とする関係教員の指導のもとに研究を行う。

(単位の認定)

第5条 研究科規則第5条の規定により履修した授業科目の単位は、10単位を限度として、第2条に定める単位に含めることができる。

2 研究科規則第6条の規定により修得したものとみなす授業科目の単位は、10単位を限度として、第2条に定める単位に含めることができる。

(デュアル・ディグリー・プログラムの履修)

第6条 教科教育専攻に在籍する学生で、佐賀大学が共同学位制度に関する協定を結んだ外国の大学院（以下「DDP協定大学院」という。）に留学して二重学位を取得しようとする学生及び当該DDP協定大学院に在籍する学生で、教科教育専攻に転入学して二重学位を取得しようとする学生のために設けるデュアル・ディグリー・プログラムの授業科目、単位数及び履修方法については、別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学（第6条に定めるデュアル・ディグリー・プログラムにより、転入学する者を除く。）又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者並びに第6条に定めるデュアル・ディグリー・プログラムにより、転入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成22年10月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学（第6条に定めるデュアル・ディグリー・プログラムによる転入学を含む。）又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表 I (第3条関係)

学校教育専攻

科目	分野	授業科目	単位数	備考
学校教育に関する科目	教育学・教育史	日本教育史特論	2	
		日本教育史特別演習	1	
		教育哲学特論	2	
		教育哲学特別演習	1	
		人権教育特論	2	
		人権教育特別演習	1	
	学校経営	学校・学級経営学特論	2	
		学校・学級経営学特別演習	1	
	教育内容・方法論	教育方法学特論	2	
		教育方法学特別演習	1	
	社会教育学	社会教育学特論	2	
		社会教育学特別演習	1	
	道德教育	道德教育特論	2	
		道德教育特別演習	1	
教育社会学	教育社会学特論	2		
	教育社会学特別演習	1		
教育法制度論	教育法制特論	2		
	教育法制特別演習	1		
教育心理学	教育心理学特論	2		
	教育測定・評価特別演習	1		
	学習心理学特論	2		
	学習心理学特別演習	1		
	学級集団心理学・生徒指導特論	2		
教育臨床心理学	進路指導特別演習	1		
	教育臨床心理学特論	2		
発達心理学	教育臨床心理学特別演習	1		
	教育相談心理学特別演習	1		
	発達心理学特論Ⅰ	2		
障害児教育	発達心理学特別演習	1		
	発達心理学特論Ⅱ	2		
	障害児教育学特論Ⅰ	2		
障害児心理	障害児教育学特論Ⅱ	2		
	障害児教育学研究方法論	2		
	障害児教育学特別演習	1		
	障害児心理学特論Ⅰ	2		
障害児病理	障害児心理学特論Ⅱ	2		
	障害児心理学研究方法論	2		
	障害児心理学・心理検査特別演習	1		
	知的障害者生理学・病理学研究	2		
実践研究	肢体不自由者生理学・病理学研究	2		
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2		
	教育実践フィールド研究(臨床教育実習Ⅰ)	2		
課題研究	教育実践フィールド研究(臨床教育実習Ⅱ)	2		
	学校教育課題研究	4		
		障害児教育課題研究	4	

教科教育専攻

国語教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	国語科教育	国語教育学特論ⅠA	2	DDP協定大学院に在籍する学生で、教科教育専攻に転入学して、二重学位を取得しようとする学生以外は、教科教育に関する科目のうち「国語教育学特論ⅠA」と「国語教育学特論ⅠB」を必修とする。 なお、自由選択科目のうち、「書道特別研究Ⅰ」と「書道特別研究Ⅱ」を履修することが望ましい。
		国語教育学特論ⅠB	2	
		国語教育学特別演習Ⅰ	1	
		国語教育学特別演習Ⅱ	1	
		国語教育学特論Ⅱ	2	
日本語教育学特論	2			
教科内容に関する科目	国語学	国語学特論ⅠA	2	
		国語学特論ⅠB	2	
		国語学特別演習ⅠA	1	
		国語学特別演習ⅠB	1	
		国語学特論ⅡA	2	
		国語学特論ⅡB	2	
		国語学特別演習ⅡA	1	
		国語学特別演習ⅡB	1	
	国文学	古典文学特論Ⅰ	2	
		古典文学特論Ⅱ	2	
		古典文学特別演習Ⅰ	1	
		古典文学特別演習Ⅱ	1	
		現代文学特論Ⅰ	2	
		現代文学特論Ⅱ	2	
		現代文学特別演習Ⅰ	1	
		現代文学特別演習Ⅱ	1	
		日本文学思潮Ⅰ	2	
		日本文学思潮Ⅱ	2	
	漢文学	漢文学特論Ⅰ	2	
		漢文学特論Ⅱ	2	
		漢文学特別演習Ⅰ	1	
		漢文学特別演習Ⅱ	1	
		中国古典文学特論Ⅰ	2	
		中国古典文学特論Ⅱ	2	
		中国古典文学特別演習Ⅰ	1	
		中国古典文学特別演習Ⅱ	1	
		中日比較文学特論Ⅰ	2	
		中日比較文学特論Ⅱ	2	
中日比較文学特別演習Ⅰ		1		
中日比較文学特別演習Ⅱ		1		
日中韓近世比較文学特論Ⅰ		2		
日中韓近世比較文学特論Ⅱ		2		
日中韓近世比較文学特別演習Ⅰ	1			
日中韓近世比較文学特別演習Ⅱ	1			
書道	書道特別研究Ⅰ	1		
	書道特別研究Ⅱ	1		
実践研究	実践授業研究	2		
	教育実践フィールド研究（大学院教育実習）	2		
課題研究	国語課題研究Ⅰ	2		
	国語課題研究Ⅱ	2		
	国語教育課題研究Ⅰ	2		
	国語教育課題研究Ⅱ	2		
	書道課題研究Ⅰ	2		
	書道課題研究Ⅱ	2		

社会科教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	社会科教育	社会科教育学特論Ⅰ（社会・地歴）	4	教科教育に関する科目のうち、「社会科教育学特論Ⅰ（社会・地歴）」又は「社会科教育学特論Ⅱ（社会・公民）」のいずれか4単位を必ず修得すること。
		社会科教育学特別演習Ⅰ（社会・地歴）	2	
		社会科教育学特論Ⅱ（社会・公民）	4	
		社会科教育学特別演習Ⅱ（社会・公民）	2	
教科内容に関する科目	歴史学	考古学特論Ⅰ	2	
		考古学特論Ⅱ	2	
		考古学特別演習	2	
		日本史特論AⅠ	2	
		日本史特論AⅡ	2	
		日本史特論AⅢ	2	

社会科教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科内容に関する科目	歴史学	日本史特論 B I	2	
		日本史特論 B II	2	
		日本史特別演習 A	2	
		日本史特別演習 B	2	
		東洋史特論 A I	2	
		東洋史特論 A II	2	
		東洋史特論 B I	2	
		東洋史特論 B II	2	
		東洋史特別演習 A	2	
		東洋史特別演習 B	2	
		西洋史特論 A I	2	
		西洋史特論 A II	2	
		西洋史特論 B I	2	
		西洋史特論 B II	2	
	西洋史特別演習 A	2		
	西洋史特別演習 B	2		
	地理学	地理学特論 A I	2	
		地理学特論 A II	2	
		地理学特別演習 A	2	
		地理学特論 B I	2	
		地理学特論 B II	2	
		地理学特別演習 B	2	
	法学	法学特論 A I	2	
		法学特論 A II	2	
		法学特論 B I	2	
		法学特論 B II	2	
		法学特論 C I	2	
		法学特論 C II	2	
法学特別演習 A		2		
法学特別演習 B		2		
政治学	政治学特論 A I	2		
	政治学特論 A II	2		
	政治学特論 B I	2		
	政治学特論 B II	2		
	政治学特別演習 A	2		
	政治学特別演習 B	2		
	国際政治学特論 I	2		
	国際政治学特論 II	2		
	国際政治学特別演習	2		
経済学	経済学特論 I	2		
	経済学特論 II	2		
	経済学特別演習	2		
	国際経済学特論 I	2		
	国際経済学特論 II	2		
社会学	社会学特論 A I	2		
	社会学特論 A II	2		
	社会学特論 B I	2		
	社会学特論 B II	2		
	社会学特論 C I	2		
	社会学特論 C II	2		
	社会学特別演習 A	2		
	社会学特別演習 B	2		
	社会学特別演習 C	2		
哲学・倫理学	倫理学特論 I	2		
	倫理学特論 II	2		
	倫理学特別演習	2		
実践研究	実践授業研究	2		
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2		
課題研究	社会科課題研究 (社会・地歴)	4		
	社会科課題研究 (社会・公民)	4		
	社会科教育課題研究 (社会・地歴)	4		
	社会科教育課題研究 (社会・公民)	4		

数学教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考	
教科教育に関する科目	数学科教育	数学教育学特論Ⅰ	4		
		数学教育学特別演習Ⅰ	2		
		数学教育学特論Ⅱ	4		
		数学教育学特別演習Ⅱ	2		
教科内容に関する科目	代数学	代数学特論	4		
		代数学特別演習	2		
	幾何学	幾何学特論Ⅰ	4		
		幾何学特別演習Ⅰ	2		
		幾何学特論Ⅱ	4		
		幾何学特別演習Ⅱ	2		
	解析学	解析学特論	4		
		解析学特別演習	2		
		統計学特論	4		
		統計学特別演習	2		
	実践研究		実践授業研究		2
			教育実践フィールド研究(大学院教育実習)		2
課題研究		数学課題研究	4		
		数学教育課題研究	4		

理科教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	理科教育	理科教育学特論Ⅰ	2	
		理科教育学特別演習Ⅰ	2	
		理科教育学特論Ⅱ	2	
		理科教育学特別演習Ⅱ	2	
		理科教育学特論Ⅲ	2	
教科内容に関する科目	物理学	固体物理学特論	2	
		固体物理学特別演習	2	
		中間エネルギー物理学特論	2	
		中間エネルギー物理学特別演習	2	
		量子物理学特論	2	
		量子物理学特別演習	2	
		半導体物理学特論	2	
	化学	物理化学特論	2	
		物理化学特別演習	2	
		無機化学特論	2	
		無機化学特別演習	2	
		有機化学特論	2	
		有機化学特別演習	2	
		分析化学特論	2	
	生物学	比較生理学特論	2	
		比較生理学特別演習	2	
		群集生態学特論	2	
		群集生態学特別演習	2	
		植物分類生態学特論	2	
		植物分類生態学特別演習	2	
		行動生態学特論	2	
		生命化学特論	2	

理科教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科内容に関する科目	地学	地球史特論	2	
		地球史特別演習	2	
		火山岩岩石学特論	2	
		火山岩岩石学特別演習	2	
		地球生命科学特論	2	
		地球生命科学特別演習	2	
		宇宙物理学特論	2	
		海洋学特論	2	
実践研究		実践授業研究	2	
		教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2	
課題研究		理科課題研究A	2	
		理科課題研究B	2	
		理科教育課題研究A	2	
		理科教育課題研究B	2	

音楽教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考	
教科教育に関する科目	音楽科教育	音楽教育学特論ⅠA	2		
		音楽教育学特論ⅠB	2		
		音楽教育学特別演習Ⅰ	2		
		音楽教育学特論ⅡA	2		
		音楽教育学特論ⅡB	2		
		音楽教育学特別演習Ⅱ	2		
教科内容に関する科目	器楽	器楽特論ⅠA	2		
		器楽特論ⅠB	2		
		器楽特別演習Ⅰ	2		
		器楽特論ⅡA	2		
		器楽特論ⅡB	2		
		器楽特別演習Ⅱ	2		
	声乐	声乐	声乐特論Ⅰ		2
			声乐特論Ⅱ		2
			声乐特別演習		2
	作曲法	作曲法	作曲法特論Ⅰ		2
			作曲法特論Ⅱ		2
			作曲法特別演習		2
	指揮法	指揮法	指揮法特論		2
			指揮法特別演習		1
	音楽学	音楽学	音楽学特論Ⅰ		2
			音楽学特論Ⅱ		2
			音楽学特別演習		2
			日本の音楽文化特論		2
日本の音楽文化特別演習			1		
実践研究		実践授業研究	2		
		教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2		
課題研究		音楽課題研究	4		
		音楽教育課題研究	4		

美術教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	美術・工芸科教育	美術教育特論	4	
		工芸教育特別演習	1	
		工芸教育教材特論	4	
		美術教育教材特別演習	1	
教科内容に関する科目	絵画	絵画特論Ⅰ	4	
		絵画特別演習Ⅰ	1	
		絵画特論Ⅱ	4	
		絵画特別演習Ⅱ	1	
	彫刻	彫刻特論	4	
		彫刻特別演習	1	
	デザイン	デザイン特論	4	
		デザイン特別演習	1	
	工芸	工芸特論Ⅰ	2	
		工学特別演習Ⅰ	1	
工芸特論Ⅱ		4		
工芸特別演習Ⅱ		1		
工芸特論Ⅲ		4		
工芸特別演習Ⅲ		1		
工芸特論Ⅳ		4		
工芸特別演習Ⅳ		1		
美術理論・美術史	美術・工芸論特論	2		
	美術方法特論	2		
	美学・美術史特論	4		
	美学・美術史特別演習	1		
実践研究	実践授業研究	2		
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2		
課題研究	美術・工芸課題研究	4		
	美術教育課題研究	4		
	工芸教育課題研究	4		

保健体育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	保健体育科教育	保健体育教育学特論Ⅰ	2	教科教育に関する科目のうち「保健体育教育学特論Ⅰ」を必修とする。
		保健体育教育学特別演習Ⅰ	1	
		保健体育教育学特論Ⅱ	2	
		保健体育教育学特別演習Ⅱ	1	
		保健体育教育学特論Ⅲ	2	
教科内容に関する科目	体育学	体育学特論Ⅰ	2	
		体育学特別演習	1	
		体育学特論Ⅱ	2	
	運動学	運動学特論	2	
		運動学特別演習	1	
		運動方法学特論Ⅰ	2	
		運動方法学特別演習Ⅰ	1	
		運動方法学特論Ⅱ	2	
		運動方法学特別演習Ⅱ	1	

保健体育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科内容に関する科目	健康運動実践学	健康運動実践学特論	2	
		健康運動実践学特別演習	1	
		健康運動実践方法学特論Ⅰ	2	
		健康運動実践方法学特別演習Ⅰ	1	
		健康運動実践方法学特論Ⅱ	2	
		健康運動実践方法学特別演習Ⅱ	1	
	運動生理学	運動生理学特論	2	
		運動生理学特別演習	1	
		健康生理学特論	2	
	学校保健	学校保健特論	2	
		学校保健特別演習Ⅰ	1	
		学校保健特別演習Ⅱ	1	
実践研究	実践授業研究	2		
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2		
課題研究	保健体育課題研究	4		
	保健体育教育課題研究	4		

技術教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	技術科教育	技術教育特論	4	教科内容に関する8単位は、電気工学特論Ⅰ、Ⅱの4単位と機械工学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのうちから4単位を修得するものとする。
		技術教育特別演習Ⅰ	2	
		技術教育実践教育研究	4	
		技術教育特別演習Ⅱ	2	
教科内容に関する科目	電気	電気工学特論Ⅰ	2	
		電気工学特論Ⅱ	2	
		電気工学特別演習	2	
	機械	機械工学特論Ⅰ	2	
		機械工学特論Ⅱ	2	
		機械工学特論Ⅲ	2	
		機械工学特別演習	2	
	材料	材料工学特論	4	
		材料工学特別演習	2	
	情報基礎	情報工学特論	4	
		情報工学特別演習	2	
		電子計算機特論	4	
電子計算機特別演習		2		
実践研究	実践授業研究	2		
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2		
課題研究	技術科課題研究	4		
	技術教育課題研究	4		

家政教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	家庭科教育	家庭科教育学特論Ⅰ	2	
		家庭科教育学特論Ⅱ	2	
		家庭科教育学特別演習Ⅰ	2	
		家庭科教育学特別演習Ⅱ	2	
教科内容に関する科目	食物学	食物学特論Ⅰ	2	
		食物学特論Ⅱ	2	
		食物学特別演習Ⅰ	2	
		食物学特別演習Ⅱ	2	
	被服学	被服学特論Ⅰ	2	
		被服学特論Ⅱ	2	
		被服学特別演習Ⅰ	2	
		被服学特別演習Ⅱ	2	

家政教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科内容に 関する科目	住居学	住居学特論 住居学特別演習	2 2	
	保育学	保育学特論 保育学特別演習	2 2	
	家政一般	家族関係学特論 家族関係学特別演習	2 2	
実践研究	実践授業研究 教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2 2		
課題研究		家政学課題研究	4	
		家庭科教育課題研究	4	

英語教育専修

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に 関する科目	英語科教育	英語教育学特論 I A	2	
		英語教育学特論 I B	2	
		英語教育学特別演習 I	1	
		英語教育学特論 II A	2	
		英語教育学特論 II B	2	
		英語教育学特別演習 II	1	
教科内容に 関する科目	英語学	英語学特論 I A	2	
		英語学特論 I B	2	
		英語学特別演習 I	1	
		英語学特論 II	2	
	英米文学	英語学特別演習 II	1	
		英米文学特論 I A	2	
実践研究		英米文学特論 I B	2	
		英米文学特別演習 I	1	
		英米文学特論 II A	2	
		英米文学特論 II B	2	
		英米文学特別演習 II	1	
		実践授業研究 教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2 2	
課題研究		英語課題研究	4	
		英語教育課題研究	4	

別表Ⅱ (第3条関係)

外国人留学生のための科目

授業科目	単位数	備考
大学院日本語	2	専任の教員が開講
留学生特別演習 (学校教育)	2	指導教員等が開講
留学生特別演習 (教科教育)	2	指導教員等が開講

別表Ⅲ (第3条関係)

研究科間共通科目

科目	授業科目	単位数	備考
自由 選択 科目	発展途上国経済論研究	2	※のうちいずれか一方を 隔年開講する
	開発経済学研究	2	
	経済地理学研究	2	
	地域経済論研究	2	
	環境法研究 I	2	
	環境法研究 II	2	
	地域政治研究	2	
		2	

15 佐賀大学大学院教育学研究科デュアル・ディグリー・プログラム履修細則

(平成 20 年 12 月 17 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 佐賀大学大学院教育学研究科履修細則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「履修細則」という。)

第 6 条の規定に基づく佐賀大学大学院教育学研究科教科教育専攻に設けるデュアル・ディグリー・プログラム(以下「プログラム」という。)の授業科目、単位数及び履修方法は、履修細則に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(授業科目、単位数)

第 2 条 プログラムの授業科目及び単位数等については、別表に掲げるとおりとする。

(履修方法)

第 3 条 プログラムの学生の履修方法は、次のとおりとする。

(1) 学校教育に関する科目

学校教育専攻で開設する授業科目から、4 単位以上を選択履修する。

(2) 教科教育共通科目

自専修の実践授業研究 2 単位を履修する。

(3) 教科教育に関する科目

自専修の教科教育に関する授業科目から、4 単位以上を選択履修する。

(4) 教科内容に関する科目

自専修の教科内容に関する授業科目から、8 単位以上を選択履修する。

(5) 自由選択科目

研究科全体の開設授業科目から、8 単位以上を選択履修する。

(6) 第 4 号及び第 5 号の科目には、佐賀大学大学院教育学研究科(以下「研究科」という。)の開設授業科目のうち、研究科が共同学位制度に関する協定を結んだ外国の大学院(以下「DDP 協定大学院」という。)が指定する授業科目から 12 単位以上を含めなければならない。

(7) 第 4 号及び第 5 号の科目には、DDP 協定大学院の開設授業科目のうち、研究科が指定する授業科目 4 単位までを充てることができる。

(8) 課題研究

課題研究 4 単位は、自専修の一つの分野の指導教員を中心とする関係教員及び DDP 協定大学院の関係教員の指導のもとに研究を行う。ただし、DDP 協定大学院への留学のために、研究科において履修ができない場合は、DDP 協定大学院の開設授業科目のうち、研究科が指定する授業科目から、自己の研究に密接に関連すると研究科が認定する授業科目 4 単位をもって充てることができる。

2 DDP 協定大学院に在籍する学生で、教科教育専攻に転入学して、二重学位を取得しようとする学生の履修方法については、前項第 1 号から第 5 号までの規定によるほか、次のとおりとする。

(1) 前項第 2 号から第 5 号の科目には、自専修の教科内容に関する科目のうち、DDP 協定大学院

が指定する授業科目から 12 単位以上を含めるものとし、当該 12 単位は、転入学直後の学期内（本研究科における後学期）に履修しなければならない。

(2) 前項第 2 号から第 5 号の科目には、DDP 協定大学院で履修した授業科目のうち、研究科が指定した授業科目から、10 単位までを充てることができる。

(3) 課題研究

課題研究 4 単位は、自専修の一つの分野の指導教員を中心とする関係教員及び DDP 協定大学院の関係教員の指導のもとに研究を行う。

附 則

この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 2 条関係）

デュアル・ディグリー・プログラムの授業科目

佐賀大学教育学研究科教科教育専攻国語教育専修の開設授業科目であって、DDP 協定大学院（台湾天主教輔仁大学外国語学院日本語文学碩士班）の授業科目として認めるもの。

科目	分 野	授 業 科 目	単位数	備 考
教科 教育に 関する 科目	国語科教育	日本語教育学特論	2	
	教科 内容に 関する 科目	国語学	国語学特論 I A	2
国語学特論 I B			2	
国語学特別演習 I A			1	
国語学特別演習 I B			1	
国語学特論 II A			2	
国語学特論 II B			2	
国語学特別演習 II A			1	
国語学特別演習 II B			1	
国文学		古典文学特論 I	2	
		古典文学特論 II	2	
		古典文学特別演習 I	1	
		古典文学特別演習 II	1	
		現代文学特論 I	2	
		現代文学特論 II	2	
漢文学	現代文学特別演習 I	1		
	現代文学特別演習 II	1		
	日本文学思潮 I	2		
	日本文学思潮 II	2		
	漢文学特論 I	2		
	漢文学特論 II	2		
	漢文学特別演習 I	1		
	漢文学特別演習 II	1		
	中国古典文学特論 I	2		
	中国古典文学特論 II	2		
中国古典文学特別演習 I	1			
中国古典文学特別演習 II	1			
中日比較文学特論 I	2			
中日比較文学特論 II	2			
中日比較文学特別演習 I	1			
中日比較文学特別演習 II	1			

DDP 協定大学院（台湾天主教輔仁大学外国語学院日本語文学碩士班）の開設授業科目であって、佐賀大学の授業科目として認めるもの。

科目	分野	授業科目	単位数	備考
教科教育に関する科目	国語科教育	日語教育資料研究	2	
		日語教育專題研究	2	
教科内容に関する科目	国語学	現代日語諸問題之研究（一）	2	
		現代日語諸問題之研究（二）	2	
		日語詞彙學研究	2	
		日語比較語言學研究	2	
	国文学	日本中世文學研究	2	
		平安朝物語文學研究（一）	2	
		平安朝物語文學研究（二）	2	
		日記文學研究（一）	2	
		日記文學研究（二）	2	
		日本文化史研究	2	
		日本文化交流史研究	2	
		日本文化專題研究	2	
		日本近現代文學專題研究（一）	2	
日本近現代文學專題研究（二）		2		
日治時期文學研究（一）	2			
日治時期文學研究（二）	2			
漢文学	中日比較文學（一）	2		
	中日比較文學（二）	2		

開 講 科 目

表 I

学校教育専攻

科目	分野	授業科目	単 位	担当教員	講義 形態	累 積 可 否	週時間数				備 考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
学校教育に関する科目	教育学 ・ 教育史	日本教育史特論	2	()	講義	否	2				偶数年開講
		日本教育史特別演習	1	()	演習	〃		2			
		教育哲学特論	2	㊦(上 蘭)	講義	〃	集				
		教育哲学特別演習	1	㊦()	演習	〃					
		人権教育特論	2	松 下	講義	〃	2				
		人権教育特別演習	1	〃	演習	〃		2			
	学 校 経 営	学校・学級経営学特論	2	倉 本	講義	否	2				
		学校・学級経営学特別演習	1	〃	演習	〃		2			
	教 育 内 容 ・ 方 法 論	教育方法学特論	2	園 田	講義	否	2				
		教育方法学特別演習	1	〃	演習	〃		2			
	社 会 教 育 学	社会教育学特論	2	上 野	講義	否	2				
		社会教育学特別演習	1	〃	演習	〃		2			
	道 徳 教 育	道德教育特論	2	㊦(上 蘭)	講義	否	集				奇数年開講
		道德教育特別演習	1	㊦()	演習	〃					
	教 育 社 会 学	教育社会学特論	2	()	講義	否	2				
		教育社会学特別演習	1	()	演習	〃		2			
教 育 法 制 度 論	教育法制特論	2	川 上	講義	否	2					
	教育法制特別演習	1	〃	演習	〃		2				
教 育 心 理 学	教育心理学特論	2	撫 尾	講義	否	2					
	教育測定・評価特別演習	1	〃	演習	〃		2				
	学習心理学特論	2	()	講義	〃			2			
	学級集団心理学・生徒指導特論	2	村 山	講義	〃	2					
進 路 指 導 特 別 演 習	進路指導特別演習	1	〃	演習	〃		2				
教 育 臨 床 心 理 学	教育臨床心理学特論	2	㊦()	講義	否	集				24年度は開講せず	
	教育臨床心理学特別演習	1	()	演習	〃		2				
	教育相談心理学特別演習	1	池 田	演習	〃		2				
発 達 心 理 学	発達心理学特論 I	2	大 元	講義	否		2			24年度は開講せず	
	発達心理学特別演習	1	〃	演習	〃		2				
	発達心理学特論 II	2	池 田	講義	〃		2				
実 践 研 究	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2	担当教員	演習	否		集				
	教育実践フィールド研究 (臨床教育実習 I)	2	担当教員	演習	否		集				
	教育実践フィールド研究 (臨床教育実習 II)	2	担当教員	演習	否			集			
課 題 研 究	学校教育課題研究	4	指導担当教員	演習	否			2	2		
学 校 教 育 に 関 する 科 目	障 害 児 教 育	障害児教育学特論 I	2	芳 野	講義	否	2				
		障害児教育学特論 II	2	〃	講義	〃		2			
		障害児教育学研究方法論	2	〃	講義	〃			2		
		障害児教育学特別演習	1	〃	演習	〃			2		
	障 害 児 心 理	障害児心理学特論 I	2	眞 田	講義	否	2				
		障害児心理学特論 II	2	〃	講義	〃			2		
		障害児心理学研究方法論	2	〃	講義	〃			2		
		障害児心理学・心理検査特別演習	1	〃	演習	〃		2			

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
学校教育に関する科目	障害児病理	知的障害者生理学・病理学研究	2	久野	講義	否	2				
		肢体不自由者生理学・病理学研究	2	〃	講義	〃		2			
		病弱者・情緒障害者生理学・病理学研究	2	〃	講義	〃			2		
		感覚系障害者生理学・病理学研究	1	〃	演習	〃				2	
実践研究		教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	2	担当教員	演習	否		集			
		教育実践フィールド研究 (臨床教育実習Ⅰ)	2	担当教員	演習	否		集			
		教育実践フィールド研究 (臨床教育実習Ⅱ)	2	担当教員	演習	否			集		
課題研究		障害児教育課題研究	4	指導担当教員	演習	否			2	2	

教科教育専攻

国語教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
教科教育に関する科目	国語科教育	国語教育学特論ⅠA	2	羽田	講義	否	2				DDP協定大学院に在籍する学生で、教科教育専攻に転入学して、二重学位を取得しようとする学生以外は、教科教育に関する科目のうち「国語教育学特論ⅠA」と「国語教育学特論ⅠB」を必修とする。 なお、自由選択科目のうち、「書道特別研究Ⅰ」と「書道特別研究Ⅱ」を履修することが望ましい。
		国語教育学特論ⅠB	2	〃	講義	否		2			
		国語教育学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2				
		国語教育学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2			
		国語教育学特論Ⅱ	2	〃	講義	否	2				
		日本語教育学特論	2	㊦横溝	講義	否			2		
教科内容に関する科目	国語学	国語学特論ⅠA	2	山本	講義	否	2				
		国語学特論ⅠB	2	〃	講義	否		2			
		国語学特別演習ⅠA	1	〃	演習	可	2				
		国語学特別演習ⅠB	1	〃	演習	可		2			
		国語学特論ⅡA	2	藤田(勝)	講義	否	2				
		国語学特論ⅡB	2	〃	講義	否		2			
		国語学特別演習ⅡA	1	〃	演習	可	2				
		国語学特別演習ⅡB	1	〃	演習	可		2			
	国文学	古典文学特論Ⅰ	2	今野	講義	否	2			※	
		古典文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2		※	
		古典文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2				
		古典文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2			
		現代文学特論Ⅰ	2	浦田	講義	否	2				
		現代文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2			
現代文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2						
現代文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2					
日本文学思潮Ⅰ	2	白石	講義	否	2						
日本文学思潮Ⅱ	2	〃	講義	否		2					

※ 24年度は開講しない

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科内容に関する科目	漢文学	漢文学特論Ⅰ	2	近藤	講義	否	2					
		漢文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2				
		漢文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
		漢文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2				
		中国古典文学特論Ⅰ	2	古川	講義	否	2					
		中国古典文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2				
		中国古典文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
		中国古典文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2				
		中日比較文学特論Ⅰ	2	土屋	講義	否	2					
		中日比較文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2				
		中日比較文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
		中日比較文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2				
		日中韓近世比較文学特論Ⅰ	2	中尾	講義	否	2					
		日中韓近世比較文学特論Ⅱ	2	〃	講義	否		2				
		日中韓近世比較文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
	日中韓近世比較文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2					
	書道	書道特別研究Ⅰ	1	㊦竹之内	演習	可	2					
書道特別研究Ⅱ		1	()	演習	可		2					
実践研究	実践授業研究	2	国語科全教員	演習	否	2	2				通年	
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	否		集					
課題研究	国語課題研究Ⅰ	2	指導担当教員	演習	否			2	2			
	国語課題研究Ⅱ	2	〃	演習	否							
	国語教育課題研究Ⅰ	2	未定	演習	否			2	2			
	国語教育課題研究Ⅱ	2	〃	演習	否					2		
	書道課題研究Ⅰ	2	()	演習	否			2				
書道課題研究Ⅱ	2	〃	演習	否				2	2			

社会科教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科教育に 関する科目	社会科教育	社会科教育学特論Ⅰ(社会・地歴)	4	宇都宮	講義	可	2	2			通年	教科教育に関する科目のうち、「社会科教育学特論Ⅰ(社会・地歴)」又は「社会科教育学特論Ⅱ(社会・公民)」のいずれか4単位を必ず修得すること。
		社会科教育学特別演習Ⅰ(社会・地歴)	2	"	演習	可	2	2			"	
		社会科教育学特論Ⅱ(社会・公民)	4	佐長	講義	可	2	2			"	
		社会科教育学特別演習Ⅱ(社会・公民)	2	"	演習	可	2	2			"	
教科内容に 関する科目	歴史学	考古学特論Ⅰ	2	重藤	講義	可	2				通年	
		考古学特論Ⅱ	2	"	講義	"		2				
		考古学特別演習	2	"	演習	"	2	2				
		日本史特論AⅠ	2	宮島	講義	"	2					
		日本史特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		日本史特論BⅠ	2	鬼嶋	講義	"	2					
		日本史特論BⅡ	2	"	講義	"		2				
		日本史特別演習A	2	宮島	演習	"	2	2			通年 通年	
		日本史特別演習B	2	鬼嶋	演習	"	2	2				
		東洋史特論AⅠ	2	佐々木	講義	"	2					
		東洋史特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		東洋史特論BⅠ	2	永島	講義	"	2					
		東洋史特論BⅡ	2	"	講義	"		2				
		東洋史特別演習A	2	佐々木	演習	"	2	2			通年 通年	
		東洋史特別演習B	2	永島	演習	"	2	2				
		西洋史特論AⅠ	2	永都	講義	"	2					
		西洋史特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		西洋史特論BⅠ	2	()	講義	"	2					
		西洋史特論BⅡ	2	()	講義	"		2				
		西洋史特別演習A	2	都築	演習	"	2	2			通年 通年	
西洋史特別演習B	2	()	演習	"	2	2						
地理学	地理学	地理学特論AⅠ	2	山下	講義	可	2				通年	
		地理学特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		地理学特別演習A	2	"	演習	"	2	2				
		地理学特論BⅠ	2	藤永	講義	"	集					
		地理学特論BⅡ	2	"	講義	"		集				
		地理学特別演習B	2	"	演習	"	2	2			通年	
法律学	法律学	法律学特論AⅠ	2	吉岡	講義	可	2				通年 通年	
		法律学特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		法律学特論BⅠ	2	張本	講義	"	2					
		法律学特論BⅡ	2	"	講義	"		2				
		法律学特別演習A	2	吉岡	演習	"	2	2				
		法律学特別演習B	2	張本	演習	"	2	2				
政治学	政治学	政治学特論AⅠ	2	森	講義	可	2				通年 通年 通年	
		政治学特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		政治学特論BⅠ	2	高橋	講義	"	2					
		政治学特論BⅡ	2	"	講義	"		2				
		政治学特別演習A	2	森	演習	"	2	2				
		政治学特別演習B	2	高橋	演習	"	2	2				
		国際政治学特論Ⅰ	2	高山	講義	"	2					
		国際政治学特論Ⅱ	2	"	講義	"		2				
		国際政治学特別演習	2	"	演習	"	2	2				

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科内容に関する科目	経済学	経済学特論Ⅰ	2	諸 泉	講義	可	2				通年	
		経済学特論Ⅱ	2	"	講義	"		2				
		経済学特別演習	2	"	演習	"	2	2				
		国際経済学特論Ⅰ	2	張	講義	"	2					
		国際経済学特論Ⅱ	2	"	講義	"		2				
		国際経済学特別演習	2	"	演習	"	2	2				
	社会学	社会学特論AⅠ	2	田中(豊)	講義	可	2				通年 通年 通年	
		社会学特論AⅡ	2	"	講義	"		2				
		社会学特論BⅠ	2	北 川	講義	"	2					
		社会学特論BⅡ	2	"	講義	"		2				
		社会学特論CⅠ	2	松 山	講義	"	2					
		社会学特論CⅡ	2	"	講義	"		2				
		社会学特別演習A	2	田中(豊)	演習	"	2	2				
		社会学特別演習B	2	北 川	演習	"	2	2				
	社会学特別演習C	2	松 山	演習	"	2	2					
	哲学・倫理学	倫理学特論Ⅰ	2	後 藤	講義	可	2				通年	
		倫理学特論Ⅱ	2	"	講義	"		2				
		倫理学特別演習	2	"	演習	"	2	2				
実践研究	実践授業研究	2	佐 長	演習	可	2	2			通年		
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	否		集					
課題研究	社会科課題研究(社会・地歴)	4	指導担当教員	演習	否			2	2	通年	通年 " " "	
	社会科課題研究(社会・公民)	4	"	演習	"			2	2			
	社会科教育課題研究(社会・地歴)	4	"	演習	"			2	2			
	社会科教育課題研究(社会・公民)	4	"	演習	"			2	2			

数学教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科教育に関する科目	数学科教育	数学教育学特論Ⅰ	4	未 定	講義	否	2	2			通年	24年度は開講せず "
		数学教育学特別演習Ⅰ	2	"	演習	"		2				
		数学教育学特論Ⅱ	4	瀧 川	講義	"	2	2				
		数学教育学特別演習Ⅱ	2	"	演習	"		2				
教科内容に関する科目	代数学	代数学特論	4	寺 井	講義	否	2	2			通年	
		代数学特別演習	2	"	演習	"	2					
	幾何学	幾何学特論Ⅰ	4	庄 田	講義	否	2	2			通年	
		幾何学特別演習Ⅰ	2	"	演習	"	2					
		幾何学特論Ⅱ	4	河 合	講義	"	2	2			通年	
		幾何学特別演習Ⅱ	2	"	演習	"		2				
	解析学	解析学特論	4	藤田(景)	講義	否	2	2			通年	
		解析学特別演習	2	"	演習	"	2					
統計学特論		4	未 定	講義	"	2	2			通年		
統計学特別演習		2	"	演習	"	2						

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
実践研究		実践授業研究 教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	数学科教員全員 担当教員	演習 演習	否 〃				2	
			2					集			
課題研究		数学課題研究 数学教育課題研究	4	指導担当教員 指導担当教員	演習 演習	否 〃			2	2	
			4						2	2	

理科教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
教科教育に関する科目	理科教育	理科教育学特論Ⅰ	2	世波	講義	否	2				
		理科教育学特別演習Ⅰ	2	〃	演習	〃		2			
		理科教育学特論Ⅱ	2	佐藤	講義	〃	2				
		理科教育学特別演習Ⅱ	2	〃	演習	〃		2			
		理科教育学特論Ⅲ	2	㊦()	講義	〃		集			
教科内容に関する科目	物理学	固体物理学特論	2	㊦()	講義	否	2				開講未定
		固体物理学特別演習	2	()	演習	〃		2			
		中間エネルギー物理学特論	2	大隅	講義	〃	2				
		中間エネルギー物理学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
		量子物理学特論	2	中村(聡)	講義	〃	2				
		量子物理学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
		半導体物理学特論	2	㊦()	講義	〃	2				
	化学	物理化学特論	2	石原	講義	否	2				
		物理化学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
		無機化学特論	2	中島	講義	〃	2				
		無機化学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
		有機化学特論	2	岡島	講義	〃	2				
		有機化学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
生物学	分析化学特論	2	岡島・中島・石原	講義	〃		2				
	比較生理学特論	2	嬉	講義	否	2					
	比較生理学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
	群集生態学特論	2	㊦()	講義	〃	2					
	群集生態学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
	植物分類生態学特論	2	宮脇	講義	〃	2					
	植物分類生態学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
行動生態学特論	2	㊦()	講義	〃		2					
生命化学特論	2	㊦渡邊	講義	〃	2						

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科内容に関する科目	地学	地球史特論	2	㊦ 狩野	講義	否	集				偶数年度開講	
		地球史特別演習	2	()	演習	〃		2				
		火山岩岩石学特論	2	角 縁	講義	〃	2					
		火山岩岩石学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
		地球生命科学特論	2	高 島	講義	〃	2					
		地球生命科学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
		宇宙物理学特論	2	㊦ 藤澤	講義	〃	集					
海洋学特論	2	速 水	講義	〃		2						
実践研究		実践授業研究	2	全教員	演習	否	2					
		教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	〃		集				
課題研究		理科課題研究A	2	指導担当教員	演習	否	2	2				
		理科課題研究B	2	〃	演習	〃			2	2		
		理科教育課題研究A	2	指導担当教員	演習	否	2	2				
		理科教育課題研究B	2	〃	演習	〃			2	2		

音楽教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科教育に関する科目	音楽科教育	音楽教育学特論ⅠA	2	山 田	講義	否	2				通年	
		音楽教育学特論ⅠB	2	〃	講義	〃		2				
		音楽教育学特別演習Ⅰ	2	〃	演習	〃	2	2				
		音楽教育学特論ⅡA	2	荒 巻	講義	〃	2					
		音楽教育学特論ⅡB	2	〃	講義	〃		2				
		音楽教育学特別演習Ⅱ	2	〃	演習	〃	2	2				
教科内容に関する科目	器楽	器楽特論ⅠA	2	()	演習	否	2				開講せず 〃 〃	
		器楽特論ⅠB	2	()	演習	〃		2				
		器楽特別演習Ⅰ	2	()	実習	可	2	2				
		器楽特論ⅡA	2	古 賀	演習	否	2					
		器楽特論ⅡB	2	〃	演習	〃		2				
		器楽特別演習Ⅱ	2	〃	実習	可	2	2		通年		
	声乐	声乐特論Ⅰ	2	板 橋	演習	否	2					
		声乐特論Ⅱ	2	〃	演習	〃		2				
		声乐特別演習	2	〃	実習	可	2	2		通年		
	作曲法	作曲法特論Ⅰ	2	橋 本	演習	否	2					
		作曲法特論Ⅱ	2	〃	演習	〃		2				
		作曲法特別演習	2	〃	演習	可	2	2		通年		
指揮法	指揮法特論	2	今 井	演習	否	2						
	指揮法特別演習	1	〃	演習	可		2					

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科内容に 関する科目	音楽学	音楽学特論Ⅰ	2	高野	演習	否	2				通年	
		音楽学特論Ⅱ	2	〃	演習	〃		2				
		音楽学特別演習	2	〃	演習	〃	2	2				
		日本の音楽文化特論	2	Ⓢ林	演習	〃	2					
		日本の音楽文化特別演習	1	〃	演習	〃		2				
実践研究		実践授業研究	2	全教員 担当教員	実・演 演習	否 〃	2	2	集		通年	
		教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2									
課題研究		音楽課題研究	4	指導担当教員	実・演 実・演	否 〃			2	2		
		音楽教育課題研究	4	指導担当教員								

美術教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考		
							1年		2年				
							前	後	前	後			
教科教育に 関する科目	美術・ 工芸科 教育	美術教育特論	4	前村	講義	可	2	2			通年		
		工芸教育特別演習	1	〃	演習	〃		2			通年		
		工芸教育教材特論	4	栗山	講義	〃	2	2			通年		
		美術教育教材特別演習	1	〃	演習	〃		2			通年		
教科内容に 関する科目	絵画	絵画特論Ⅰ	4	小木曾	講義	可	2	2			通年		
		絵画特別演習Ⅰ	1	〃	演習	〃		2			通年		
		絵画特論Ⅱ	4	未定	講義	〃	2	2			通年		
		絵画特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃		2			通年		
	彫刻		彫刻特論	4	徳安	講義	可	2	2			通年	
			彫刻特別演習	1	〃	演習	〃		2			通年	
	デザイン		デザイン特論	4	荒木	講義	可	2	2			通年	
			デザイン特別演習	1	〃	演習	〃		2			通年	
	工芸		工芸特論Ⅰ	2	()	講義	可					通年	
			工芸特別演習Ⅰ	1	()	演習	〃						
			工芸特論Ⅱ	4	田中(右)	講義	〃	2	2				
			工芸特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃		2				
工芸特論Ⅲ			4	井川	講義	〃	2	2					
工芸特別演習Ⅲ			1	〃	演習	〃		2					
工芸特論Ⅳ			4	田中(嘉)	講義	〃	2	2					
工芸特別演習Ⅳ			1	〃	演習	〃		2					
美術 理論・ 美術史		美術・工芸論特論	2	()	講義	可					通年		
		美術方法特論	2	()	講義	〃							
		美学・美術史特論	4	吉住	講義	〃	2	2					
		美学・美術史特別演習	1	〃	演習	〃		2					

美術教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
実践研究		実践授業研究	2	美術工芸科全教員	演習	否			2	2	通年	
		教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	〃		集				
課題研究		美術・工芸課題研究	4	指導担当教員	演習	否			2	2		
		美術教育課題研究	4	〃	演習	〃			2	2		
		工芸教育課題研究	4	〃	演習	〃			2	2		

保健体育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科教育に関する科目	保健体育科教育	保健体育教育学特論Ⅰ	2	福本	講義	否	2				奇数年度開講	教科教育に関する科目のうち「保健体育教育学特論Ⅰ」を必修とする。
		保健体育教育学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	〃		2				
		保健体育教育学特論Ⅱ	2	堤	講義	〃	2					
		保健体育教育学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃		2				
		保健体育教育学特論Ⅲ	2	㊦住田	講義	〃	集					
教科内容に関する科目	体育学	体育学特論Ⅰ	2	㊦金崎	講義	否	集				24年度は開講せず 〃	
		体育学特別演習	1	未定	演習	〃		2				
		体育学特論Ⅱ	2	山津	講義	〃	2					
	運動学	運動学特論	2	池上	講義	否	2					
		運動学特別演習	1	〃	演習	〃		2				
		運動方法学特論Ⅰ	2	坂元	講義	〃	2					
		運動方法学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	〃		2				
運動方法学特論Ⅱ	2	未定	講義	〃	2							
運動方法学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃		2						

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
教科内容に関する科目	健康運動実践学	健康運動実践学特論	2	江崎	講義	否	2				24年度は開講せず "
		健康運動実践学特別演習	1	"	演習	"		2			
		健康運動実践方法学特論Ⅰ	2	井上	講義	"	2				
		健康運動実践方法学特別演習Ⅰ	1	"	演習	"		2			
		健康運動実践方法学特論Ⅱ	2	未定	講義	"	2				
		健康運動実践方法学特別演習Ⅱ	1	"	演習	"		2			
	運動生理学	運動生理学特論	2	㊦吉武	講義	否	集				
		運動生理学特別演習	1	未定	演習	"		2			
		健康生理学特論	2	㊦吉武	講義	"		集			
	学校保健	学校保健特論	2	栗原	講義	否	2				
		学校保健特別演習Ⅰ	1	"	演習	"		2			
		学校保健特別演習Ⅱ	1	"	演習	"		2			
実践研究	実践授業研究	2	指導担当教員	演習	否	2					
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	"		集				
課題研究	保健体育課題研究	4	指導担当教員	演習	否			2	2		
	保健体育教育課題研究	4	"	演習	"			2	2		

技術教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
関する科目 教科教育に	技術科 教育	技術教育特論	4	角	講義	否	2	2	2	通年	教科内容に関する8単位は、電気工学特論Ⅰ、Ⅱの4単位と機械工学特論ⅠⅡ、Ⅲのうちから4単位を取得するものとする	
		技術教育特別演習Ⅰ	2	〃	演習	〃						
		技術教育実践教育研究	4	中村	講義	〃	2	2				
		技術教育特別演習Ⅱ	2	〃	演習	〃		2				
教科内容に関する科目	電気	電気工学特論Ⅰ	2	㊦松本	講義	否	2			通年		
		電気工学特論Ⅱ	2	〃	講義	〃		2				
		電気工学特別演習	2	〃	演習	〃	2					
	機械	機械工学特論Ⅰ	2	小野	講義	否	2			通年		
		機械工学特論Ⅱ	2	穂屋下	講義	〃	2					
		機械工学特論Ⅲ	2	小野	講義	〃		2				
		機械工学特別演習	2	()	演習	〃	2					
	材料	材料工学特論	4	小野	講義	否	2	2		通年		
		材料工学特別演習	2	()	演習	〃		2				
	情報基礎	情報工学特論	4	㊦渡邊	講義	否	2	2		通年		
		情報工学特別演習	2	㊦近藤	演習	〃	2					
		電子計算機特論	4	中島	講義	〃	2	2				
電子計算機特別演習		2	中村	演習	〃			2				
実践研究	実践授業研究 教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	指導担当教員	演習	否		2		集			
		2	担当教員	〃	〃							
課題研究	技術科課題研究	4	指導担当教員	演習	否			2	2			
	技術教育課題研究	4	〃	〃	〃			2	2			

家政教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
教科教育に関する科目	家庭科教育	家庭科教育学特論Ⅰ	2	中西	講義	否	2	2			24年度は開講せず
		家庭科教育学特論Ⅱ	2	萱島	講義	〃	2	2			
		家庭科教育学特別演習Ⅰ	2	中西	演習	〃		2			
		家庭科教育学特別演習Ⅱ	2	萱島	演習	〃		2			
教科内容に関する科目	食物学	食物学特論Ⅰ	2	水沼	講義	可否		2			
		食物学特論Ⅱ	2	未定	講義	可否	2				
		食物学特別演習Ⅰ	2	水沼	演習	〃		2			
		食物学特別演習Ⅱ	2	未定	演習	〃	2				
	被服学	被服学特論Ⅰ	2	甲斐	講義	否	2	2			
		被服学特論Ⅱ	2	未定	講義	〃	2				
		被服学特別演習Ⅰ	2	甲斐	演習	〃		2			
		被服学特別演習Ⅱ	2	未定	演習	〃		2			
	住居学	住居学特論	2	澤島	講義	否	2				
		住居学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
	保育学	保育学特論	2	大元	講義	否		2			
		保育学特別演習	2	〃	演習	〃		2			
家政一般	家族関係学特論	2	赤星	講義	否	2	2				
	家族関係学特別演習	2	〃	演習	〃		2				
実践研究	実践授業研究	2	中西	講・演	否	2	2		通年		
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	〃		集				
課題研究	家政学課題研究	4	指導担当教員	演習	否	2	2	2	2		
	家庭科教育課題研究	4	〃	〃	〃	2	2	2	2		

英語教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考
							1年		2年		
							前	後	前	後	
教科教育に関する科目	英語科教育	英語教育学特論ⅠA	2	⑩ 稲毛	講義	否	2				
		英語教育学特論ⅠB	2	〃	講義	〃		2			
		英語教育学特別演習Ⅰ	1	未定	演習	可	2				
		英語教育学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	〃		2			
		英語教育学特論ⅡA	2	田中(彰)	講義	否	2				
		英語教育学特論ⅡB	2	〃	講義	〃		2			
		英語教育学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可		2			
		英語教育学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃	2				

英語教育専修

科目	分野	授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
							1年		2年			
							前	後	前	後		
教科内容に関する科目	英語学	英語学特論ⅠA	2	熊本	講義	否	2					
		英語学特論ⅠB	2	未定	講義	〃		2				
		英語学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
		英語学特別演習Ⅰ	1	熊本	演習	〃		2				
		英語学特論Ⅱ	2	小野	講義	否	2					
		英語学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	〃		2				
	英米学	英米文学特論ⅠA	2	早瀬	講義	否	2					
		英米文学特論ⅠB	2	〃	講義	〃		2				
		英米文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	可	2					
		英米文学特別演習Ⅰ	1	〃	演習	〃		2				
		英米文学特論ⅡA	2	()	講義	否	2					
		英米文学特論ⅡB	2	木原	講義	〃		2				
		英米文学特別演習Ⅱ	1	〃	演習	可	2					
		英米文学特別演習Ⅱ	1	()	演習	〃		2				
実践研究	実践授業研究	2	全教員	演習	否	2	2				通年	
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	2	担当教員	演習	〃		集					
課題研究	英語課題研究	4	指導担当教員	演習	否	2	2	2	2			
	英語教育課題研究	4	〃	演習	〃	2	2	2	2			

表Ⅱ

外国人留学生のための科目

授業科目	単位	担当教員	講義形態	累積可否	週時間数				備考	
					1年		2年			
					前	後	前	後		
大学院日本語	2	白石	講義	否	2					自由選択科目
留学生特別演習(学校教育)	2	指導教員等	演習	〃	2	2				〃
留学生特別演習(教科教育)	2	指導教員等	演習	〃	2	2				〃

表Ⅲ

研究科間共通科目

科目	授業科目	単位数	備考
自由選択科目	発展途上国経済論研究	2	※のうちいずれか一方を隔年開講する
	開発経済学研究	2	
	経済地理学研究	2	
	地域経済論研究	2	
	環境法研究Ⅰ	2	
	環境法研究Ⅱ	2	
	地域政治研究	2	

16 授業科目の内容

佐賀大学大学院教育学研究科

1 学校教育専攻

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース	日本教育史特論	学校組織化，公教育体制，教えることと学ぶことの関係などをテーマとし，史資料を講読しながら，近世・近代の教育思想，教育実態の展開過程を振り返り，現代教育成立の根拠を問うていく。
教育心理学コース	日本教育史特別演習	授業内容・方法，教科外活動，教師など教育実践史の資料や文献を会読，討論して，現代の教育実践上の諸問題を考える手がかりとする。受講生の問題関心によって，適宜題目と資料を選択する。
障害児教育コース	教育哲学特論	教育における基本概念である，人間および子ども，について考える。教育哲学の立場から，人間概念と子ども概念を，これまで以上に深く考え，言葉の本質を明らかにし，各人が定義に至ることを目標とする。
	教育哲学特別演習	教育哲学の立場から，19世紀何故教育学なるものの成立があったかについて，いわば外在的考察を行う。今日19世紀の教育学の生起について，その必然性を思想的成熟としてでなく，学校制度確立のための社会の意図的働きかけとみる視点が少数派ではなくなってきた。この「新」教育学のメリット・デメリットについてみていく。
	人権教育特論	同和教育から人権教育へと移行した発展的課題と今後の方向性を子どもの自己肯定感というキーワードで考察する。また，学級集団づくりや人間関係論から理論と実践を検証していく。
	人権教育特別演習	国内外の人権教育の動向を紹介する。さまざまな人権教育教材のアクティビティを実際に参加型人権学習（ワークショップ）を通して体験しながら，人権・差別・偏見等についての感覚と知識を深めていく。

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース	学校・学級経営学特論	<p>教育経営学分野にカリキュラム研究を統合するカリキュラムマネジメント（Curriculum Management）を中心に論じていく。これは、カリキュラムを主体的に開発し学校組織で経営することによって学校改善を図る理論であり、主として学級担任・主任層を対象とする。また、カリキュラム開発の立場から、教師が主体的にカリキュラムをデザインする観点について日米の具体的実践例から紐解いていく。</p>
教育心理学コース		
障害児教育コース	学校・学級経営学特別演習	<p>基本的には前期の継続の形態を取るが、本演習では主として、受講者相互の実践例分析をレポート発表していく。カリキュラムの開発論・経営論からみる学級・学校の経営事例を分析し、ここから各受講者の修士論文に役立つ視点を抽出していく。</p> <p>可能な限り、各受講者の研究的ニーズに受講者全員で応える授業展開を心がけたい。</p>
	教育方法学特論	<p>学習障害のある児童生徒への学習支援法を中心に、様々な映像資料も参考にしつつ、個別指導の進め方及び学校での授業の方法について述べる。アセスメントシートへの整理の方法、長期・短期目標の立て方、教材の作成、インストラクションシートの作成についての演習も行う。キーワード：アセスメントシート、長期目標、短期目標、教材・教具、インストラクションシート、行動観察シート、評価法、授業の工夫。</p>
	教育方法学特別演習	<p>発達障害のある児童生徒に対する学習支援、行動改善支援、社会性支援に関する実践論文を中心に講読を行うことによって、支援の様々な取組についての知見の伸長を図る。</p>
	社会教育学特論	<p>現在、教育改革が進行中である。その背景には、どのような問題が存在しているのだろうか。また進められている教育改革は、社会教育にたいしてどのような影響を及ぼすのだろうか。日本社会における産業構造の転換、地方分権等の動きを整理しながら、新しい社会教育観について考えてみたい。</p>

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース	社会教育学特別演習	地方分権が推進される中で、従来の社会教育法制度が大きく転換をみせようとしている。フィールドワークを入れながら、地域社会教育の変容に迫っていく。
教育心理学コース	道徳教育特論	道徳教育に関する様々な教育実践にみられる論争を整理し、道徳教育にあるべき方向と課題について考察する。特設道徳がはじまって30年以上を経たが、いまだにその授業観、資料観等あいまいのまま、不毛な論争を繰り返している観がある。
障害児教育コース	道徳教育特別演習	教育現場での実際の道徳授業を取り上げ、資料の選択、導入の方法、展開の方法原理などについて分析する。併せて、道徳的判断力、道徳的心情論、道徳的实践力とは、それぞれ何かについて、具体的実践を通して明示していきたい。
	教育社会学特論	教育社会学の戦後の動向、すなわち Educational Sociology から Sociology of Education, そして新教育社会学の流れの中で、学級社会学や学校社会学がその都度、何を提起し、何を解明してくれたかを論述する。あわせて教育諸事象に対する教育社会的アプローチ法や思考法について論究する。
	教育社会学特別演習	現代社会は、産業、組織・制度、生活様式など、どの側面を見ても一つの転換期にある。それとともに、社会一般制度的行動原理（エートス）と学校教育のそれとの間に、不整合、ズレ、摩擦などが起きている。こうした「文化的遅滞」の観点から、登校拒否、いじめなどの教育病理を取り上げ調査研究を行う。
	教育法制特論	現代の公教育、特に学校教育を枠づける法規および制度について概観し、公費支出を伴う行政領域の一つとして「教育行政」の理解を試みる。また国や地方の教育行政および学校教育の現場で起こりつつある様々な変化とそれらをめぐる議論についても、論点を理解する。
	教育法制特別演習	公教育の制度設計や、学校教育における様々な法的問題に関する文献を取り上げ、これらに関する議論を通じて実践的な観点から教育法規・教育制度を考察する。また、国・地方の総合的な政治・行政活動の中で「教育的」な価値観を説明する方策についても考察を試みる。

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース	教育心理学特論	現在の教育現場で重視されている「指導と評価の一体化」「補充的な指導」「発展的な指導」等の考え方を提唱した指導理論である「マスタリーラーニング（完全習得学習）理論」に関する論文を原著（英文）で読み、その考え方を理解する。また、それ以外の各種指導理論の内容について、長所と短所を考察する。
教育心理学コース	教育心理学特論	現在の教育現場で重視されている「指導と評価の一体化」「補充的な指導」「発展的な指導」等の考え方を提唱した指導理論である「マスタリーラーニング（完全習得学習）理論」に関する論文を原著（英文）で読み、その考え方を理解する。また、それ以外の各種指導理論の内容について、長所と短所を考察する。
障害児教育コース	教育測定・評価特別演習	受講生各人の修士論文のテーマに関連ある教育心理学的論文を取り上げ、その論文で用いられているデータ収集、分析方法を測定・評価的観点から検討する。その上で、各人が策定した修士論文の研究計画を、同様に測定・評価的観点から全員で検討する。
	学級集団心理学・生徒指導特論	グループダイナミックスの基礎的理論を講じ、その理論の学級集団への応用を展開する。学級集団の凝集性、学級における人間関係、集団指導と個別指導、人間関係訓練、集団運営法、学級のモラル、教師のリーダーシップなどがテーマとなる。
	進路指導特別演習	進路指導に必要な、進路学習、生徒理解、進路相談の理論と技法に関して、論文の講読、事例報告等をもとに、全員で討議する。
	教育臨床心理学特論	児童生徒の不適応や心の問題を理解するために必要な教育相談やカウンセリングの理論と実際について論ずるとともに、教師として必要な教育臨床心理学の視点について考察する。
	教育臨床心理学特別演習	文献講読や事例研究を通して、児童生徒の不適応や心の問題について臨床心理事例研究のあり方やカウンセリング、教育相談のあり方についても検討する。
	教育相談心理学特別演習	教育相談に対応できるように、異常人格も含め、さまざまな人格について文献を講読しながら学ぶ。発達障害の見分け方と対処法については医学部所属の小児科医のアドバイスを受ける。
	発達心理学特論Ⅰ	本講義は、日本語を基礎に、こころの発生・発達に関する観点について論じる。ことばは、ヒトが外界を認識し、こころを生成する意味で重要な役割を演じている。ここでは、こころのモデルとして、日本人が形成してきた日本語を分析することにより、こころの発達の理解を深める。
	発達心理学特別演習	発達心理学に関する内外の文献を講読し、その内容について討議し、問題点や今後の課題などを探る。

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース	発達心理学特論Ⅱ	発達現象として観察されている行動変化を、脳を中心とする神経系の発達と対照させながら、ヒトの発達の全体像を理解できるような講義を行う。特に近年学校現場で話題となっている発達障害の神経心理学的理解を行う。
教育心理学コース	学校教育課題研究	学校教育現場における実践と教育哲学、人権教育、学校教育史、教育方法、教育行政、教育社会学、社会教育、障害児教育の理論と接点に課題を求め、研究指導を行う。 人間発達の諸相並びに人間の教育的経験によって生ずる諸現象を考察、調査、実験など心理学的手法により解明し、それを発達心理学、教育心理学の知見から考察させる。
障害児教育コース	障害児教育学特論Ⅰ	障害児の教育制度がいかんにして発生し、その後どのように展開してきたか、そして現在の特殊教育の課題は何かについて、先進国の特殊教育制度を比較検討しながら、今後のわが国における特殊教育の在り方を研究する。
	障害児教育特論Ⅱ	障害児の教育理論と方法に関してこれまで多様なアプローチがなされてきたが、これらの教育に共通している理論的背景によって類型化し、それぞれの長所と短所を明らかにし、障害の種類と程度に応じた望ましい指導の在り方を研究する。
	障害児教育学研究方法論	障害児の研究方法として、医学的、心理学的、教育学的、社会的研究方法がとられているが、ここでは、教育・社会学的研究方法を中心として、特に障害児教育と社会の関係についての教育調査による実証的な研究を行う。
	障害児教育学特別演習	障害児の教育と福祉に関する諸問題の中から個人の研究的ニーズに応じて、特に重要な研究課題を選択し、その課題をあらゆる角度から深く掘り下げて研究する。
	障害児心理学特論Ⅰ	主として、精神遅滞児について運動・感覚・認知・行動・人格に関する心理領域に関わる国内外の研究成果を中心に論ずる。
	障害児心理学特論Ⅱ	障害児（精神遅滞児、自閉症児など）の発達援助のための心理学的アプローチに関する研究について、これまでの研究成果を検討しつつ論ずる。
	障害児心理学研究方法論	主として、心理学的側面から障害児の発達支援・行動変容に関わる研究方法について、診断方法論も含みつつ論ずる。

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース 教育心理学コース 障害児教育コース	障害児心理学・ 心理検査特別演習	多様で複合した問題に起因して教育場面において種々困難を示している児童・生徒に対して、適切な支援を提供するためには、原因確定と実態像を明確にすることが指導手立ての第1歩である。本授業科目においては、障害児の心理特性に言及しつつ、障害児童・生徒の特性や実態理解に有効とされている主な心理諸検査を理解する。さらに、検査修得上からみて難度が高い種目について限定的に取り上げ、実地練習時間を多く確保し、授業担当者のスーパーヴィジョン下で受講者の技能を培うことを目指した実習的授業科目とする。
	知的障害者 生理学・病理学研究	教育方法の適否の判断に当たって、経験と勘に頼るのでなく説得力のある根拠に基づこうとするのが、Evidence-Based Educationである。これは、医学領域における Evidence-Based Medicine の考え方を応用したものである。 この授業では、知的障害教育を中心に Evidence-Based Education のあり方を研究する。この目的のために、Evidence-Based Medicine の基礎となる疫学の方法論の初歩を身に付ける。
	肢体不自由者 生理学・病理学研究	教育方法の適否の判断に当たって、経験と勘に頼るのでなく説得力のある根拠に基づこうとするのが、Evidence-Based Educationである。これは、医学領域における Evidence-Based Medicine の考え方を応用したものである。 この授業では、肢体不自由教育を中心に Evidence-Based Education のあり方を研究する。この目的のために、Evidence-Based Medicine の基礎となる疫学の方法論をさらに進めて身に付ける。
	病弱者・情緒障害者 生理学・病理学研究	教育方法の適否の判断に当たって、経験と勘に頼るのでなく説得力のある根拠に基づこうとするのが、Evidence-Based Educationである。これは、医学領域における Evidence-Based Medicine の考え方を応用したものである。 この授業では、病弱・情緒障害教育を中心に Evidence-Based Education のあり方を研究する。この目的のために、Evidence-Based Medicine の基礎となる疫学の方法論をより深く身に付ける。

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース 教育心理学コース	感覚系障害者 生理学・病理学研究	<p>教育方法の適否の判断に当たって、経験と勘に頼るのでなく説得力のある根拠に基づこうとするのが、Evidence-Based Educationである。これは、医学領域におけるEvidence-Based Medicineの考え方を応用したものである。</p> <p>この授業では、感覚系障害教育を中心にEvidence-Based Educationのあり方を研究する。この目的のために、Evidence-Based Medicineの基礎となる疫学の方法論を研究者レベルで身に付ける。</p>
障害児教育コース	障害児教育課題研究	<p>設定研究課題内容は今後の特別支援教育の方向性に鑑み、心身における中度から最重度級障害水準の障害児から、LD, ADHD, 高機能自閉症等の軽度級水準の障害児にわたる広範囲の児童・生徒を研究対象とする。</p> <p>障害児教育・障害児心理・障害児医学（病理・生理）の分野から、院生自身の関心により研究課題を選定し研究計画を策定し吟味する。調査等の研究においては、問題提起、研究手続、資料収集、結果の経過分析の過程を一貫した課題研究指導を行う。事例指導研究においては、事例個別の指導計画の策定、支援経過分析などの総合的な研究指導を行う。</p>
	教育実践フィールド研究（大学院教育実習）	<p>大学院にふさわしい高度な教育実践力を身につけることを目的とする。学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かす。あらかじめ実習生が教育実践フィールド研究の課題を決め、自律的に教育実習計画を立てる。実習校の協力を得ながら教育実習メンター（実習校担当教諭）と教育学研究科の担当教員が連携して指導する。課題としては下記のものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における教育原理，教育制度，教育法規に関すること ・子どもの心理，発達，障害に関すること ・教科，領域教育のカリキュラムや授業，評価に関すること ・教科，領域教育の教育内容，教科に関すること <p>同時期に開講される「教育実践フィールド研究（臨床教育実習Ⅰ・Ⅱ）」と並行して履修することは時間的に不可能である。</p>

コース名	授業科目名	授業科目の内容
教育学コース 教育心理学コース 障害児教育コース	教育実践フィールド研究（臨床教育実習Ⅰ）	<p>大学院にふさわしい高度な教育実践力を身につけることを目的とする。臨床教育実習は普通学校に在籍する障害児童、生徒の教育に焦点を当てる。そのため、当面はアスペルガー症候群、注意欠陥多動障害、学習障害などの発達障害を抱える児童、生徒を対象とする。臨床教育実習Ⅰは、修士課程1年生後期に実施する。大学施設に障害児童・生徒を集め、個別支援のあり方について、大学院担当教員、在籍校教諭、医療関係者等の連携を元実践的研究を行う。臨床教育実習は、Ⅰ・Ⅱを連続して履修することを原則とするが、現職教員等、特別な事情がある場合はⅠのみの履修も可能である。教育実践フィールド研究（大学院教育実習）との並行履修は時間的に不可能である。</p>
	教育実践フィールド研究（臨床教育実習Ⅱ）	<p>大学院にふさわしい高度な教育実践力を身につけることを目的とする。臨床教育実習は普通学校に在籍する障害児童、生徒の教育に焦点を当てる。そのため、当面はアスペルガー症候群、注意欠陥多動障害、学習障害などの発達障害を抱える児童、生徒を対象とする。臨床教育実習Ⅱは、修士課程2年生前期に実施する。Ⅰの大学施設実習で個別支援のあり方について研究した成果を、被支援児童・生徒の在籍校で実践する。在籍校教諭及び在籍校関係者、大学院担当教員と緊密な連絡を取りながら実践研究する。臨床教育実習Ⅱのみの単独履修はできない。教育実践フィールド研究（大学院教育実習）との並行履修は時間的に不可能である。</p>

2 教科教育専攻

専修名	授業科目名	授業科目の内容
国語教育専修	国語教育学特論ⅠA	国語教育学の基礎論を踏まえ、国語科教育の目標、教育課程、学力、評価について探求を行い、新たな時代に対応する理論と実践の追求を行う。
	国語教育学特論ⅠB	国語教育学の歴史的考察と、諸外国の母国語教育等の比較検討を通して、新たな時代に対応する我が国の国語科教育の方法についての追求を行う。
	国語教育学特別演習Ⅰ	教師論、教材論、学習者論の視点から、具体的授業実践の分析・検討を行い、授業モデルの構築を目指す。
	国語教育学特別演習Ⅱ	教師論、教材論、学習者論の視点から、具体的授業実践の分析・検討を行い、(模擬)授業実践等を通して、在るべき国語科教育の方法について探求する。
	国語教育学特論Ⅱ	国語教育学の先行研究を踏まえ、新たな理論・実践研究の構築に向けてテーマ・対象を設定し、分析活動を行う。
	日本語教育学特論	教育実践の現場で求められる「教師のコミュニケーション能力」に関して、包括的な講義と様々な参加型活動を提供する。
	国語学特論ⅠA	国語教育において必要となることばの仕組みや歴史についての理解を深めることを目的として開講する。内容については、受講者と話し合いのうえ決定する。
	国語学特論ⅠB	国語学特論Ⅰに引き続き、国語教育において必要となることばの仕組みや歴史についての理解を深めることを目的として開講する。内容については、受講者と話し合いのうえ決定する。
	国語学特別演習ⅠA	中世・近世の文献をことばの仕組みや歴史に着目しながら精読することをとおして、国語教育において必要となる主体的に問題点を見出す力・解決する道筋を模索する力・相手に自分の考えを的確に伝える力を養うことを目的として開講する。
	国語学特別演習ⅠB	国語学特別演習ⅠBに引き続き、中世・近世の文献をことばの仕組みや歴史に着目しながら精読することをとおして、国語教育において必要となる主体的に問題点を見出す力・解決する道筋を模索する力・相手に自分の考えを的確に伝える力を養うことを目的として開講する。
	国語学特論ⅡA	日本語の動詞音便のはたらきについて、形態の結びつけ一単位化という観点と、文体表示という観点から述べる。また、動詞音便が完了的意味の表現形式に支えられて現代語に定着したことについてもあわせて述べる。
	国語学特論ⅡB	現代日本語動詞の活用現象の特質と、それが文表現を構成するものであることについて述べる。また、活用語尾の範囲がどのように捉えられ、どのように体系化されるものかについてもあわせて述べる。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
国語教育専修	国語学特別演習ⅡA	現代日本語における三つの受身表現である、直接受身、間接受身、所有者の受身の構文的な特徴を、実例に即して把握する。また、受身表現に共通してみられる「事態の変化」を描写する特質についても理解する。
	国語学特別演習ⅡB	現代日本語におけるアスペクト表現のあり方について、「～テイル」「～テアル」の表現を中心に、実例に即して把握する。また、アスペクト表現が文表現本位のものであることや、境遇的な表現特性を持つことについても理解する。
	古典文学特論Ⅰ	日本古典文学作品を多面的多角的に理解するために、古代・中世の和歌文学を取り上げ、日本文学の史的展開を視野におきつつ、作品論や歌人論、他の作品への影響等について講述する。
	古典文学特論Ⅱ	日本古典文学作品を多面的多角的に理解するために、古代・中世の物語・随筆・日記等を取り上げ、日本文学の史的展開を視野におきつつ、それぞれの作品の特徴や文体等について講述し、古典文学の諸特徴についての理解を深めることを目指す。
	古典文学特別演習Ⅰ	日本古典文学作品のうち、日本文化の中心であり基層をなすといわれている和歌について、古代・中世の資料・史料等も参照しながら、当時の政治・社会の状況等も踏まえたいうでの解釈や分析ができるようになることを目指す。
	古典文学特別演習Ⅱ	日本文学における代表的な古典文学作品を取り上げて、研究文献の講読も行いながら、本文研究・成立論・文体論等の研究方法の習得を目指す。
	現代文学特論Ⅰ	日本近代・現代文学の作家・作品を取り上げ、日本近代・現代文学史や時代の政治的・社会的状況とのかかわりを含め、具体的に作家研究・作品分析の方法を講述する。
	現代文学特論Ⅱ	日本近代・現代文学において、アジア・太平洋諸地域・国家とかわる作家・作品を取り上げ、日本近代・現代文学史や時代や諸地域・国家の政治的・社会的状況とのかかわりを含め、考究することで、日本近代・現代文学の相対化を目指す。
	現代文学特別演習Ⅰ	日本近代・現代文学の作家・作品を取り上げ、先行研究を分析しながら、具体的に作家研究・作品分析の方法の習得を目指す。
	現代文学特別演習Ⅱ	日本近代・現代文学において、アジア・太平洋諸地域・国家とかわる作家・作品を取り上げ、先行研究を分析しながら、具体的に作家研究・作品分析の方法の習得を目指す。
	日本文学思潮Ⅰ	日本文学において、古代から現代までの文学形式や文芸思潮などを取り上げ、政治的・社会的状況とのかかわりを歴史的に考察する。
	日本文学思潮Ⅱ	日本文学において、古代から現代までの文学形式や文芸思潮などを取り上げ、特に外国とのかかわりについて歴史的に考察し、日本の文学思想の特徴を考究する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
国語教育専修	漢文学特論Ⅰ	中国古典のうち、高等学校の教材として用いられている典籍、特に儒教系の古典について、それらの思想的文学的特徴を考察しつつ、漢文教育を推進するための力量の養成を目指す。
	漢文学特論Ⅱ	「Ⅰ」と同様に高等学校に教材として用いられる典籍中、非儒教系の古典に関して思想的文学的特徴の考察を行い、漢文教育に必要な力量を高度化する。
	漢文学特別演習Ⅰ	学生の必要に応じて中国古典中の1・2を取り上げ、これを漢文訓読法によって熟読し、漢文読解力の強化を目指す。また、学生の修士論文作成を見ながら、当該古典研究における様々な課題にも触れる。
	漢文学特別演習Ⅱ	「Ⅰ」と同様に、学生の必要に応じてながら、中国古典中の1・2を取り上げ、漢文訓読法による熟読を行い、漢文読解力の強化を目指す。また、同様に当該古典研究の課題探究も行き、学生の修士論文作成に資する。
	中国古典文学特論Ⅰ	中国古典文学のなかでもとくに唐詩を中心に取り上げ、個別的な詩人論や作品論などを年度ごとに重点を変えながら論じていく。
	中国古典文学特論Ⅱ	前期に引き続き唐代の詩人論、作品論を講じながら、詩というジャンルについても様々な面から論じ、中国古典文学の一般的な特徴についても言及していく。
	中国古典文学特別演習Ⅰ	年度ごとに重点を変えながら、唐代の代表的詩人である杜甫や李白の作品や伝記資料等を系統的に読みすすめ、多面的に解釈していく。
	中国古典文学特別演習Ⅱ	前期に引き続き唐詩を読みながら、原典の批判的読解の方法や、中国古典文学関係の資料の扱い方などにも習熟していくようにする。
	中日比較文学特論Ⅰ	中国や日本、その他の地域の文学作品について、深く読み込み、さまざまな角度から比較を行いながら、それぞれの思想・歴史・文化などについて考察する。また、原典資料などの講読を行う。
	中日比較文学特論Ⅱ	特論Ⅰの内容を受け、中国や日本、その他の地域の文学作品を比較することで浮かび上がる諸問題について考察する。原典資料などの講読を行い、研究方法についても習得する。
	中日比較文学特別演習Ⅰ	中国や日本、その他の地域の文学作品について、原典資料の講読を演習形式で進め、様々な角度から比較を行い、それぞれの特徴について考察する。
	中日比較文学特別演習Ⅱ	特別演習Ⅰの内容を踏まえ、中国や日本、その他の地域の文学作品について、原典資料の講読を通して、様々な角度から分析を加え、文学研究の方法についても習得する。
	日中韓近世比較文学特論Ⅰ	日・中・韓の17～19世紀の漢詩を通して、当時の人々の生活・思想・美意識について理解し、「比較」「受容」「影響」をキーワードに近世の東アジアの漢文学を読み解く。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
国語教育専修	日中韓近世比較文学特論Ⅱ	日・中・韓の近世の随筆・書簡・日記などを取り上げ、当時の文人たちの交流とネットワーク、情報の伝達、およびそれらが文学の領域で果たした重要な役割について論じる。
	日中韓近世比較文学特別演習Ⅰ	日・中・韓の17～19世紀の漢詩を精読し、その背後にある文化事象を読み解く。特に長崎遊学および朝鮮通信使に関連する作品を多く取り上げ、近世の異文化理解に注目する。
	日中韓近世比較文学特別演習Ⅱ	日・中・韓の近世の知識階級による海外見聞記を中心に、当時の人々の美意識と思想、海外の文化に対する強い好奇心と高い関心および積極的な受容態度について考察する。
	書道特別研究Ⅰ	
	書道特別研究Ⅱ	
	実践授業研究	授業実践の立場から特に授業方法について研究する。国内外の実践的授業の実際や歴史を理論的、文献的、フィールド的に調査研究する。また必要に応じてコンピュータによる授業分析を用いて、臨床的研究の観点から実践力を鍛錬する。
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究(修士論文)に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・国語の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>
	国語課題研究Ⅰ	国語の教科内容にかかわる各分野において高度な教材の研究、開発、教授の各能力を涵養することを目指し、学生が自らのテーマを選定するための関連分野の諸問題の調査、先行研究の把握などを個別に指導する。
	国語課題研究Ⅱ	研究課題の効果的な設定のための先行研究の整理や資料読解を引き続きすすめ、学生の条件に応じた修士論文の構成を段階的に作り上げていき、完成へと導く。
	国語教育課題研究Ⅰ	国語教育上の課題となる諸問題について、学生にそれぞれの目標に応じた継続的研究課題を設定させ、修士論文作成のための基本段階の指導を進める。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
国語教育専修	国語教育課題研究Ⅱ	国語教育上の課題となる諸問題について、学生にそれぞれの目標に応じた継続的研究課題を設定させ、修士論文に仕上げることを見通した指導を進める。
	書道課題研究Ⅰ	
	書道課題研究Ⅱ	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科教育専修	社会科教育学特論Ⅰ (社会・地歴)	小学校社会科、中学校社会科地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史科教育について考察する。第1は、地歴教育の原理的考察である。地歴教育の教科論、地歴教育の歴史、外国の地歴教育についての検討を行う。第2は、地歴教育に関する理論的考察である。小学校社会科、中学校社会科、及び高等学校地理歴史科のカリキュラム等についての分析を行う。
	社会科教育学特別演習Ⅰ (社会・地歴)	小学校社会科、中学校社会科地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史科教育のいずれかについて、受講者の希望に応じて、実践的な検討を行う。授業実践の具体的事例を取り上げて分析し、改善点について考察する。
	社会科教育学特論Ⅱ (社会・公民)	小学校社会科、中学校社会科公民的分野、及び高等学校公民科の公民教育について考察する。第1は、公民教育についての原理的考察である。公民教育の教科論、公民教育の歴史、外国の公民教育についての検討を行う。第2は、公民教育に関する具体的考察である。小学校社会科、中学校社会科公民的分野、及び高等学校公民科の公民教育についての理論的考察を行う。
	社会科教育学特別演習Ⅱ (社会・公民)	小学校社会科、中学校社会科公民的分野、及び高等学校公民科の公民教育のいずれかについて、受講者の希望に応じて、実践的な検討を行う。小学校社会科、中学校社会科公民的分野、及び高等学校公民科の公民教育のいずれかについて、事例を取り上げて分析し、改善点についての考察を討論する。
	考古学特論Ⅰ	弥生～古墳時代の古墳等の墳墓遺跡、集落遺跡、副葬品、土器等の研究状況について概説を行ない、修士論文作成等研究を進めるための基本的知識を習得することを目的とする。具体的な領域については、履修学生の要望に応じて協議して決定することにした。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科教育専修	考古学特論 II	弥生時代～奈良時代及びそれに平行する時代の朝鮮半島の各種遺跡の調査・保存・整備状況について概説を行ない、遺跡の調査・研究法と保存・整備の取り組みについての基本的知識を習得することを目的とする。具体的な領域については、履修学生の要望に応じて協議して決定することにした。
	考古学特別演習	日本列島及び朝鮮半島の考古学に関する研究論文、研究書、発掘調査報告書の講読を行なうとともに、修士論文作成のための問題設定、資料収集、出土品等の資料調査に関する基本的知識・技術を習得することを到達目標とする。
	日本史特論 A I	中世後期社会の歴史的特質について、日本史上での位置に焦点を当てて論ずる。とくに地域社会の形成のあり方を解明することを目的として、権力論、戦国大名論、村落社会論、寺社論および地域構造をテーマとする諸論文をとりあげる。
	日本史特論 A II	中世後期の経済構造がどのようなものであったのかを追及する。地域社会を支えに市場・都市・商人・座などの具体的な存在のあり方を論ずる。ことに、地域・経済を支えた寺社の位置づけについても詳論したい。
	日本史特論 B I	日本近現代史、とくに 20 世紀日本社会の歴史を、研究文献の講読を通じて検討する。具体的文献等については、受講者と協議して決定する。
	日本史特論 B II	日本近現代史、とくに 20 世紀日本社会の歴史を、研究文献や史料の講読を通じて検討する。具体的文献等については、受講者と協議して決定する。
	日本史特別演習 A	中・近世社会の時代像を把握するために、さまざまな内容・種類の基本的な史料を講読していく。同時に、研究史の整理を平行して進め、論点・争点を史料から押さえてゆく。また、政治史だけではなく、社会構造を理解・把握するために、史料採訪・収集からはじめて、多面的な総合的な史料講読ができるようにする。
	日本史特別演習 B	受講者各自の問題関心および課題に合わせて、日本近現代史（とくに 20 世紀日本を対象とした政治社会史、地域史、運動史、民衆史）に関する近年の研究文献や基本史料を講読する。受講者全員が研究報告と討論を重ね、学術論文を作成するための基礎的作業に取り組む。
	東洋史特論 A I	中国近代史あるいは近代日中関係史をテーマとして、研究文献の講読を行う。
	東洋史特論 A II	中国近代史あるいは近代日中関係史をテーマとして、研究文献や史料の講読を行う。
東洋史特論 B I	日本の東洋史研究史上における「朝鮮史学」の来歴とその位置づけを確認するために、まずは史学史・学説史的な整理を行うとともに、その「史料」の生成に関する問題を考察する。	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科教育専修	東洋史特論 B II	特論 B I (前期) の内容を踏まえ、B II (後期) においては朝鮮近代史研究上の争点・議論、とりわけ日本統治期に行われた各種の調査事業と史料編纂について取り上げ、かつこれらを史学史的に考察する。
	東洋史特別演習 A	中国近代史あるいは近代日中関係史に関する漢文史料の講読を行う。
	東洋史特別演習 B	朝鮮史・日韓関係史などを軸とする史学の研究法についてゼミナール形式で解説するとともに、具体的な史料の講読によって実証的な手法の習得を目指す。
	西洋史特論 A I	西洋中世を対象に、歴史学の基礎となる歴史資料の類型や内容について概説を行う。西洋史研究の基礎を理解することを開講目的として、歴史資料の基本的知識を習得することを到達目標とする。
	西洋史特論 A II	12・13世紀を中心とした中世イングランドの国制の発展と社会の変化について概説を行う。王権による統治の仕組みの特質とその社会への浸透をテーマに、イングランドを具体例として考察する。西洋中世史研究に関する基礎的理解を得ることを開講目的とし、歴史事象の解釈やそのための視点等について基本的知識を習得することを到達目標とする。
	西洋史特論 B I	
	西洋史特論 B II	
	西洋史特別演習 A	西洋中世史に関するテキストの講読を行う。主に修士論文作成者を対象に、専門書及び専門論文の熟読を通じて、修士論文作成のための問題の発見や研究方法、研究史の整理等の作業を実際に学習してもらおう。以上をもって西洋史研究の方法を学ぶことを開講目的とし、そのための基本的知識を習得することを到達目標とする。
	西洋史特別演習 B	
	地理学特論 A I	地域事象を地理学的手法を用いて理解するための考え方を習得し、具体的な地域を取り上げて多面的に分析・考察する能力を育成することを目的とする。履修学生の要望をふまえた上で、取り扱う内容を協議したい。
地理学特論 A II	地域事象を地理学的手法を用いて理解するための考え方を習得し、具体的な地域を取り上げて多面的に分析・考察する能力を育成することを目的とする。立地論や地代論、そして中心地理論を学ぶことによって地理的事象の空間的分化および地域の構造の理解を深める。履修学生の要望をふまえた上で、取り扱う内容を協議したい。	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科学教育専修	地理学特別演習 A	人文地理学に関する国内外の最近の文献を講読し、研究動向を探る。さらに人文地理学的な事象のフィールドワークやデータの収集方法、そして問題提起・分析方法、論文のまとめ方などを習得する。
	地理学特論 B I	環境決定論や環境可能論、環境認知論といった地理学における環境論をめぐる議論をもとにした人間活動と自然環境との関わりをテーマに、人文地理学の歴史や基礎的概念、方法論について学んでいく。
	地理学特論 B II	地形図の読図や作文、文章要約などの作業をとおして、地理的基礎データの収集や分析方法、学術論文作成のための文章表現、まとめ方について学ぶ。
	地理学特別演習 B	修士論文作成を念頭におきながら、地理学における国内外の学術論文や著書を講読し、その内容について議論するとともに、最近の研究トピックスや理論、分析手法を学ぶ。
	法律学特論 A I	現代社会の諸問題について、身近で具体的なトピックを取扱いながら、憲法・民法・刑法など法律学の基礎を学ぶとともに「法的思考」（リーガル・マインド）の本質を考える。
	法律学特論 A II	応用倫理、生命・環境倫理、現代正義論、公共性論など、活発に議論が交わされている問題領域に切り込み、受講者相互の討議を行ないながら、現在と将来の法・倫理・正義の在り方を探究する。
	法律学特論 B I	日本の主な公害問題と公害判決をとりあげ、環境法の基礎的な理論の生成と展開を考察する。特に四大公害判決から環境行政法体系の形成に至るまでの環境法の画期的な転換期に着目しながら、公害の民事損害賠償法、環境行政法の体系及び憲法、刑法等の関連条文をとりあげて、環境法理論の変遷と法体系形成の経緯を時系列的に考察する。
	法律学特論 B II	戦後の日本の環境問題及び地球規模の環境とそれを解決するための主な公害規制法、公害救済法、環境事業法、自然保護法、環境条例、国際環境条約・協定などの仕組と内容を分析し、立法論と解釈論から法内容及び法体系的な問題点と方向性を探る。
	法律学特別演習 A	法哲学・法思想に関する邦語ないしは洋語の文献について講読ならびに討論を行なう。受講者各自の論文構想や問題提起に沿った議論も実施する予定である。
	法律学特別演習 B	最近の環境問題、環境訴訟、環境行政法、国際環境条約・協定などをとりあげて、実務的に環境問題と法等の規制手段の最新動向を解析する。また、欧米とアジアなどの主な環境法と日本の環境法との比較検討をし、環境法のあり方、方向性を考察する。
	政治学特論 A I	比較政治学のテキスト（英文）を読解してその基本的な概念と諸論理を学習する。余力があれば日本の政治に関する文献（邦文）にも挑戦する。
	政治学特論 A II	国際政治学のテキスト（英文）を通じて国際関係論の分析枠組みを理解する。戦後の理論的な発展とそれに対する冷戦後の再検討を中心に据える。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科学教育専修	政治学特論 B I	現代政治をとりまく諸問題について専門書を購読して理解を深めます。テキストについては、受講者と相談のうえ、国民国家論・グローバリゼーション論・市民社会論・民主主義論、国際関係論などの分野から選定します。(英語ないし邦語)
	政治学特論 B II	Iに引き続き、専門書を購読して、現代政治をとりまく諸問題を検討していきます。テキストについては、受講者と相談のうえ、国民国家論、グローバリゼーション論、市民社会論、民主主義論、国際関係論などの分野から選定します。(英語ないし邦語)
	政治学特別演習 A	1949年以降の北朝鮮に関する中国ならびにロシアの資料を読解する。 また、北京大学に資料の調査・収集のため夏季休暇期間中に2～3週間とどまる。
	政治学特別演習 B	受講者の関心に合わせて、政治学、社会学、国際関係論などのテキスト・論文を選び(英語ないし邦語)、報告と討論を通じて現代政治の諸問題を検証します。
	国際政治学特論 I	社会科学・地理歴史・公民科目の教育に役立つ国際政治の広く深い素養を身に付けてもらうことを目的とする。内容については受講者と話し合いの上決定する。
	国際政治学特論 II	Iに引き続き、社会科学・地理歴史・公民科目の教育に役立つ国際政治の広く深い素養を身に付けてもらうことを目的とする。内容については受講者と話し合いの上決定する。
	国際政治学特別演習	特論 I、IIとあわせ、受講者各自の問題関心に基づく授業・教材研究に結びつけた国際政治に関する研究と討論を行なう。
	経済学特論 I	アダム・スミスの『国富論』(邦文)を第1巻から順次講読します。スミスの経済思想、および経済学の基本的な考え方を理解することが到達目標です。
	経済学特論 II	経済学特論 Iに引き続いて、アダム・スミスの『国富論』(邦文)を講読します。スミスの経済思想、および経済学の基本的な考え方を理解することが到達目標です。
	経済学特別演習	受講者の問題意識に合わせて経済学および経済思想史に関する論文(英文あるいは邦文)を選択して講読します。論文構成の理解と受講者の問題意識の深化とが到達目標です。
	国際経済学特論 I	本講義では戦後国際経済システムを取り上げる。IMF、GATT、世界銀行を軸としたブレトンウッズ体制から出発し、WTO設立、ユーロ誕生に至るまでを検討する。特に開発途上国が繰り返して経験している通貨危機を理解するために国際通貨システムに重点をおく。
	国際経済学特論 II	最近国際経済の混乱が増していることを背景として、国際通貨のあり方について様々な議論が行なわれている。本講義では、世界経済混乱と関わる諸課題—サブプライム住宅ローン問題、国際通貨システム、ドル問題取、地域経済統合—を取り上げ、検討していく。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科教育専修	国際経済学特別演習	<p>東アジアにおける最近の生産・販売、貿易や投資、人材移動を検討すると、かつての「欧米⇄アジア」といった流れではなく、「アジア⇄アジア」というネットワークを示している。本演習では、大市場としての東アジアをテーマとし、地域内協力体制、格差拡大等の課題、域内通貨スワップ等に関する最新の研究を取り上げる。特に中国とベトナム経済の状況に注目する。</p>
	社会学特論 A I	<p>本講義では、新しいまちづくり政策のための総合的変革論として、「組織開発」、「職場開発」、「能力開発」、「政策開発」、「地域開発」といった視点にアプローチする。とりわけ市民参加論として「まちづくり市民会議」(仮称)といった課題を取り上げ、政策決定過程への参加・参画の実態や問題点について検討する。先進的事例、佐賀市の事例などを検討する。</p> <p>また院生の修論への問題関心を高めるため、テーマ発表とフレームワークづくりへのコメントを多く設定する。</p>
	社会学特論 A II	<p>組織と人間をめぐる論争は、ワンベストウェイにしてオールマイティな解決策はない。従ってわれわれは、一定の歴史的状況の中で組織現象の問題点を摘出し、背景としての組織構造・機能の病理的側面を分析して、その問題解決に向けた方向性や実践的手法について考察していくしかない。</p> <p>「官僚制組織からポスト官僚制組織へ」という展開過程において、重要な視点は2点ある。1つは、新しい組織モデルとして、「ヒエラルヒー(位階序列制)からヘラルヒー(水平分化)へ」、つまり動態的組織、マトリックス組織、ホロニック組織、ネットワーク組織などの「組織開発」に取り組むこと。もう1つは、官僚制をチェック、コントロール、フィードバックする「下からの組織化」、つまり「個人のコミットメント」のための「能力開発」に取り組むことである。</p> <p>こうした課題について一緒に論考しながら、レポート発表を通して、院生自身の論文作成力を高めていく。</p>
	社会学特論 B I	<p>高齢社会をめぐるトピックは、多種多様にあるが、人々の生活の基盤をなす社会保障制度を捉えずして社会福祉の位置づけはないことを理解したうえで、高齢期の課題を中心として扱う。1910年代から老年学の原点であるわが国の原初的な研究から現代の高齢社会・高齢者問題を捉える社会老年学諸理論を系統的に学ぶ。特に、人口の高齢化と社会保障制度が社会のあり方、人々の生活を規定するところから、人々の生活の自立と依存をソーシャルサポート(医療・保健福祉サービス)、自己実現、活動余命(Disability-Free Life Expectancy)などについて考察する。</p> <p>そして、現代の社会保障・社会福祉をめぐる諸問題(高齢者保健、終末期医療、医療・福祉倫理、国際福祉)に対して、社会老年学的、社会福祉学的視点に立ち、それらの理論、方法論を適用して、人間生活の福祉向上への対応を提言することができようとする。</p>

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
社会科教育専修	社会学特論 B II	<p>現代社会、特に身近なところで生起する生活課題であり、高齢期に特に顕在化する就労と引退、医療・看護と介護、社会・家族関係、社会活動などを手がかりにしてその特異性と共通性を分類・検討し、社会福祉学の実学性を捉える。</p> <p>また、アジア各国・地域に共通の社会老年学的・社会福祉学的関心事である、人口問題、経済問題、社会政策（社会保障）、教育・学習などの領域を人の本質的な「生と死」、「高齢期（者）」の側面から社会老年学、社会福祉学の方法論から接近し、高齢社会が問題ではなく、高齢社会になることによって生活問題が発生する要因を解明する。</p>
	社会学特論 C I	<p>現在、日本は人口が減少するプロセスに入り、これまで築いてきた国家のあり方をどのように考えれば、国民生活を守ることができるのかを検討する時機が来ている。特に社会が大きく変化するとき、障害者や要介護高齢者等の要援護者に対する国家としての取り組みを案出しないと、国民を守るという国家の重要な機能を果たせなくなるのが危ぐされる。このため、本授業では健やかな国民生活を守る国・社会のあり方、及び社会福祉のあるべき姿について考察する。</p>
	社会学特論 C II	<p>日本では、障害者や要介護高齢者等の要援護者に対して、地域福祉における住民参加、福祉教育の充実が求められている。しかしながら、限界集落が急増する等地域福祉を行うための基盤となる地域社会自体の存亡の危機にも直面している。このため、本授業では、地域社会を維持するための取り組み、及び地域福祉のあり方や課題を検討する。</p>
	社会学特別演習 A	<p>ここでは、「社会学を学ぶ」のではなく、「社会学する」ことの魅力と面白さについて共有認識していきたい。「社会学する」ということは、単に「社会認識の学」というだけでなく、むしろ自分自身の生き方や考え方を問う「自己認識の学」でもある。「自分にとってその社会的事実が一体どんな意味があるのか」を常に問いかけ、その解答と解決を求めてさらにコミットしていくという基本姿勢である。</p> <p>そのために院生自身の研究テーマ、問題設定、研究方法、考察過程、新しい事実発見、あるいは本質的課題などを徹底的に追究してもらい、一社会学徒としての資質を成長してもらう（とくに理論＋実証＋実践＋政策＝総合的能力の向上）。さらに私の基本的思考と交差し合いながら、各自のよりよい論文作成に向けて切磋していくことになる。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
社会科教育専修	社会学特別演習 B	社会老年学の学説や社会基盤としての社会保障制度、社会福祉に関わる様々な生活課題を、「個」、「集団」、「社会」の社会福祉学的捉え方をふまえて、受講する院生それぞれの研究テーマに即した分野から接近して討論し、問題解決型研究のあり方を習得する。
	社会学特別演習 C	障害者や要介護高齢者等の要援護者に対する、国家や地域社会における社会的施策に関する資料・史料の検討、及び研究文献の講読を行いながら、社会福祉の対象についての捉え方や社会的施策に対する理解を深める。これらを通して、今後の社会福祉・地域福祉のあり方や課題について考察していく。
	倫理学特論 I	西洋倫理思想の代表的学説を概説する。特に、カント倫理学、ヘーゲルの社会哲学、イギリスの功利主義倫理学の基本思想について詳しく検討する。哲学の知識をもたない院生にも十分配慮した形で講義をおこなうので、安心して受講してほしい。
	倫理学特論 II	講義の前半では、応用倫理学の諸領域（生命、環境、情報、企業・ビジネス、教育、ジェンダー）について概説する。講義の後半では、現代の自然倫理学の潮流について紹介する。特に、動物と人間の関係に関する現代倫理学者の諸説について検討したい。
	倫理学特別演習	現代倫理学を代表するテキストを演習参加者全員で回読する。可能であれば英語文献での講読もおこないたい。テキストの選択にあたっては、参加者の希望も十分に考慮する。
	社会科課題研究 (社会・地歴)	ここでは、社会科の内容のうち、地歴分野である地理学・歴史学（日本史・東洋史・西洋史・考古学）についての研究を行うこととする。この分野の研究は現代社会が形成される過程を知る上で不可欠な歴史の分野と、それを実現する環境としての地理の分野について研究することとなる。それには、各々の学問的知識を養うことと、広い視野に立脚して問題を解決する能力が不可欠である。そのためには各自が中学社会科及び高校地歴の指導内容にそって、具体的なテーマを設定し、研究を通じて上述の課題解決をめざすこととする。
	社会科課題研究 (社会・公民)	ここでは社会科の内容の内、公民的分野である政治学・経済学・法律学・社会学・倫理学・哲学などについて研究を行うこととする。社会科は前述のように多くの分野から構成されるので、各々の学問的知識を養うことと、広い視野に立脚して問題を解決する能力が不可欠である。そのためには各自が中学社会科及び高校公民の指導内容にそって、具体的なテーマを設定し、研究を通じて上述の課題解決をめざすこととする。

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
社会科教育専修	社会科教育課題研究 (社会・地歴)	<p>小学校、中学校の社会科、あるいは高等学校の地理歴史科の地理、歴史に関する教科、科目、分野、領域において、教育原理、教育課程編成、授業構成、評価の開発等の研究に関する具体的な課題を求め、その課題に応じて研究を行うようにする。受講生の興味や関心、問題意識に応じて受講生個々が課題を決定し研究計画を立案し、自主的に研究を進め、発表や討論を行い、研究成果や論文やレポートにまとめるようにする。こうしてまとめた研究成果は、外部の教科教育に関する学会や研究会において研究発表を行い、評価を受けるようにする。</p>
	社会科教育課題研究 (社会・公民)	<p>小学校、中学校の社会科、あるいは高等学校の公民科の公民教育に関する教科、科目、分野、領域において、教育原理、教育課程編成、授業構成、評価の開発等の研究に関する具体的な課題を求め、その課題に応じて研究を行うようにする。受講生の興味や関心、問題意識に応じて受講生個々が課題を決定し研究計画を立案し、自主的に研究を進め、発表や討論を行い、研究成果や論文やレポートにまとめるようにする。こうしてまとめた研究成果は、外部の教科教育に関する学会や研究会において研究発表を行い、評価を受けるようにする。</p>
	実践授業研究	<p>社会科教育及び関連社会諸科学の研究成果を導入し、小・中・高等学校において社会科の授業づくりを行う。授業構成から実践結果の分析、考察まで一貫した臨床的研究を進め、授業実践力の向上を図るようにする。</p>
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会系の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・社会系の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
数学教育専修	代数学特論	整数論，線形代数学，代数的組合せ論等から教職に就くに あたってぜひ知っておくべき課題を講義する。
	代数学特別演習	同上の内容の理解を，例題や論文講読によって深める。また， 初等中等教育における代数的概念の取り扱いの現状，問題点 を研究する。
	幾何学特論Ⅰ	教職に必要な幾何学等の中から選択し，これらについて教 育，研究し，もって関連する教材に教育の中での位置づけの 探究に資する。
	幾何学特別演習Ⅰ	同上の演習を行う。
	幾何学特論Ⅱ	微分可能多様体上の種々の構造，とくにリーマン構造，複 素構造について教育，研究する。なお，非コークリッド幾何 学を定曲率リーマン空間論として取り扱い，もって関連する 教材の数学の中での位置づけの探究に資する。
	幾何学特別演習Ⅱ	同上の演習を行う。
	解析学特論	フーリエ解析，調和解析など応用に結びつく話題を取り扱 う。余裕があれば，古典的な関数解析，位相などの話題にも ふれたい。
	解析学特別演習	解析学特論の内容の理解を，例題や具体的な応用等によっ て深める。また関連する教材の数学の中での位置づけの探究 等も行う。
	統計学特論	重回帰分析，主成分分析，判断分析等の統計的多変量解析 をとり扱う。また，基礎として測度論に基づく確率論にも言 及する。
	統計学特別演習	具体的なデータを通して，統計学特論の内容の理解を深め る。また，初等中等教育における統計的概念の取り扱いの現状， 問題点を研究する。
数学課題研究	代数学，幾何学，解析学，統計学，数学教育学の各専門領 域分野の1年次開設の，授業，演習をふまえ，それらを継続 的に深化し数学の専門的課題を設定し研究する。現代数学の 現状と課題を研究し，数学研究計画を立案する。あわせて， 数学専門領域と数学教育との接点にも眼をむけ将来問題とな る新しい課題についても考察を行う。数学科の教授論，教材・ 教具論，コンピュータの活用等についても選択して研究を行 う。もって数学教育専修の修士論文へ発展させる。	

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
数学教育専修	数学教育課題研究	<p>数学教育学，代数学，幾何学，解析学，統計学の各専門領域分野の1年次開設の，授業，演習をふまえ，それらを継続的に深化し研究すると共に，数学教育の諸分野との接点に眼を向け将来問題となりうる数学教育の新しい課題について考察を行う。数学科と他の教科を結びつける総合学習，数学教育の教授論，教材論，コンピュータの活用等，児童・生徒が算数・数学の楽しさを感じ理解しやすい教具や教授方法の開発，定理（問題）等が創造される過程の理論等について選択して研究を行う。もって数学教育専修の修士論文へ発展させる。</p>
	数学教育学特論Ⅰ	<p>PISA や TIMSS の国際調査や授業指導案，授業ビデオ等の分析・調査を通して，算数数学科の指導内容，指導方法，評価方法の選択，開発及びカリキュラム構成について研究する。</p>
	数学教育学特別演習Ⅰ	<p>同上について演習を行う。</p>
	数学教育学特論Ⅱ	<p>数学教育におけるコンピュータの活用について，具体的な活用事例をもとに考察する。また，数学教育で用いることができるパソコンソフトをいくつか取り上げ，それらを使った教材について研究する。</p>
	数学教育学特別演習Ⅱ	<p>同上の演習を行う。</p>
	実践授業研究	<p>算数・数学科教育に関して，各自が選択した問題について，授業実践を通して，経験と研究と知見を深め，理論と実践の統合をはかる。</p>
	教育実践フィールド研究（大学院教育実習）	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として，学校現場における教育実習を実施し，その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため，課題研究の内容に応じて，学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数・数学に関する子どもの認知や発達，つまづきに関すること ・算数・数学教育のカリキュラムや授業，評価に関すること ・算数・数学教育の教育内容，教材に関すること <p>また，研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求，研究を行うために，実習生が自律的に教育実習計画を立案し，実習校の協力を得て，教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
理科教育専修	理科教育学特論Ⅰ	理科教育に関して、その諸原理や諸理論、歴史的変遷、理科カリキュラム論、理科教育実践論、比較理科教育学などについて論述し、理科教育の現状・課題・展望、そして、今後の改革の方向性などについて検討・考察する。
	理科教育学特別演習Ⅰ	理科教育に関して、理科教育の原理的・理論的、理科教育史、理科カリキュラム論的、理科教育実践論的、比較理科教育学的な研究資料などを、実際に収集・整理させ、分析・検討させ、考察を加えさせ、演習を構成する。
	理科教育学特論Ⅱ	自然の事象について、学校での理科教育を通して学習者が獲得する科学的理解と、同じ学習者が日常生活の中で獲得する常識的理解との相互作用を、認識論的及び認知論的観点から論じ、学校での理科教育における学習指導の基本的あり方について、具体的事例を挙げながら検討し考察する。
	理科教育学特別演習Ⅱ	理科における授業研究を進める際には、子どもが授業で表出させる様々な考えについて理解を深めていく必要がある。そこで、子どもの考えに対する評価法・調査法・探索法として用いられる様々な手法についての理解を深め、その一部を実際に活用し、分析・考察を加えること等により演習を構成する。
	理科教育学特論Ⅲ	児童・生徒の理科離れの主要な原因の一つは、学校教育が理科の面白さを十分に伝えていないことにあると言われている。理科教育に関する基本的事項を、既に学習している基礎の上に立って、①理科の面白さを児童・生徒に伝えることができる教材とはどのようなものであるか、②そのような教材をどのように開発するか、③そのような教材をどのように取り扱うのが効果的であるか、の3点を検討・考察する。
	固体物理学特論	固体、特に金属や高温超伝導体が電場、磁場、低温などの下で示す電氣的、磁氣的、熱的な現象を、固体内の原子配列、格子振動や電子の状態・挙動の観点から考察する。
	固体物理学特別演習	いくつかの金属、化合物、超伝導体を例にとりながら、それらの示す物理的な性質について具体的に考察する。また、それらに関連する物理教材（特に、物・物質）の小・中・高校での取り扱いの現状についても分析・検討を加える。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
理科教育専修	中間エネルギー物理学特論	素粒子核分光物理学の実験研究のフロンティアに関する最新の論文講読，解説等を行う。専門化し高度化したこの分野の最新の研究の現状を幅広く理解し，特に各自の興味を引く部分についてはさらに深く理解することを目標とする。理科教育の原点に立ち返り，興味をひく部分の中から，小さいことでもよいから，新しく，かつ独自の遂行可能な研究課題を見つけることを目標にする。
	中間エネルギー物理学特別演習	中間エネルギー物理学特論で各自見つけた，素粒子核分光物理学研究における独自の研究課題を遂行する。演習の時間を利用して，研究課題遂行の途中経過報告発表会を行う。特に学生相互間の質疑，応答を重視し，専門化し，高度化した素粒子・原子核の実験研究のフロンティアの現状をさまざまな学校教育，社会教育等の現場で自分のことばでわかりやすく伝えることができるような人材育成ということにも重点をおく。
	量子物理学特論	量子力学の発展的内容を扱い，主に対称性と保存量について講義する。具体的には，スピンと回転対称性，多粒子系と粒子交換に関わる対称性などの内容を，原子・原子核の持つスピン，その他の量子数，および，それらの測定に関係する崩壊や反応を例にとりながら解説し，量子力学の中で対称性が担っている役割について考察する。
	量子物理学特別演習	量子物理学特論の内容から受講者の興味を考慮してテーマを決め，テキストの講読，討論，発表などを行い，更に深く学ぶ。また，個々の物理系や補足データに対して，計算などを実行して理論物理学における調査・研究の方法を身につける。
	半導体物理学特論	半導体の物理的性質を理解するために，電子の波動性を学習する。先ず自由電子のシュレディンガー方程式について，次に周期ポテンシャル中を運動する電子のシュレディンガー方程式について説明する。電子が周期ポテンシャル中を運動するときは，その波動性のため格子面よりブラック反射を受け，バンド構造が現れる。金属，半導体，絶縁体等の違いはこのバンド構造により説明される。次に，真性半導体，n半導体，p半導体について学び，更に電子素子としてのダイオードやトランジスタの動作原理について学習する。
	物理化学特論	高等学校や中学校の理科で扱われる物質の構造・性質・反応についての理論を解説する。物質を構成する原子や分子が集団として振舞う巨視的な現象を説明するための理論，微視的には物質の性質や反応を構成粒子と電磁波などの相互作用を説明するための理論を解説する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
理科教育専修	物理化学特別演習	既存のコンピュータソフトを利用した数値計算によって、物理化学特論で学んだ理論を実際の系へ適用する。数値計算を用いた素材や演示用資料を、電子媒体を用いて作成し発表する。
	無機化学特論	基本的な物質構成要素としての無機化合物および金属錯体内における相互作用を明らかにする。また、それらの物質についてのさまざまな観測データと理論的予測値との関連について基礎科学の立場から解説する。
	無機化学特別演習	無機化学における基礎的な理論の導出に関する演習。さらに、データ解析における既存のコンピュータソフトの利用およびプログラミングの演習をおこなう。
	有機化学特論	有機化合物は炭素原子と水素原子からなる炭化水素（炭素鎖）に、幾つかの官能基が組み合わさってできる化合物であるといえる。すなわち、官能基の種類・構造および性質がわかればその組み合わせで構成されている膨大な有機化合物の性質や反応性を整理して理解できる。本特論では、官能基の種類と構造および性質の基礎知識を復習した後、ある化合物が同じ官能基を複数持つ場合、あるいは異なる官能基を含む場合にどのように構造・性質および反応性が変わっていくかについて講義する。
	有機化学特別演習	生体においては、その生体内反応の多くを有機化合物が中心となって行っており、通常いくつかの官能基群が精細に連携して反応を遂行しているといえる。栄養素（特に酵素とビタミン類）の反応の実例を取り上げ、生体内反応が詳細に制御された官能基群の連携に基づいていることを、特論において学習した官能基の連携に関わる基礎知識を応用することにより解析させる。
	分析化学特論	有機化学、無機化学、物理化学研究分野における最近の分析化学的手法とその原理および分析装置の動作原理に関する解説をおこない、分析化学について理解を深めさせる。
	比較生理学特論	動物の神経活動を基に多様な行動にいたるまでの生理機構を、様々な動物で比較しながら学習を深める。
	比較生理学特別演習	生体の機能のうち、神経活動とそれに伴う動物の行動を演習や実験を通して理解を深め、理科的考察力を養う。

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
理科教育専修	群集生態学特論	多数の生物種から構成され、種々の環境に存在している生物群集は構造的にも機能的にも非常に多様性に富んでいる。それらの研究例と、抽象モデル研究例を示し、その構造原理を理解させる。
	群集生態学特別演習	野外の生物群集を記録調査させ、データの解析を行わせ、群集構造の一端を理解させる。また、既存の群集生態学の研究例を基にした演習を行い群集生態学の理解を深めさせる。
	植物分類生態学特論	地球の歴史とともに生物は適用放散してきた。生物の内、特に植物の分布と種分化について論述する。
	植物分類生態学特別演習	大気汚染など人的攪乱を含め植物は色々なストレスに耐えながら、その生息地を確保している。共生体である地衣類を中心に身近な顕花植物、隠花植物の種分化の実態と分布パターンを実際の観察を通して考察する。
	生命化特論	いくつかの動植物の例を挙げ、生物の遺伝情報を発現するタンパク質、酵素の分子構造を例示しそれらの構造と生物機能との関係を理解させる。
	地球史特論	地球環境の変遷の記録を地層・岩類からいかにして読み取るかを考察するとともに、環境変化と生物進化の関係についても論述する。
	地球史特別演習	野外調査で地層・岩類から得たデータ・試料からさまざまな手法により古環境解析を行う。巨化石および微化石を用いた進化学的・生層序学的研究方法についても習得させる。
	火山岩岩石学特論	地下深部で発生したマグマが上昇し、地表あるいは地下で固結して様々な火成岩を生じるプロセスについて解説し、日本列島の火山およびそこから噴出する溶岩の特徴について考察する。
	火山岩岩石学特別演習	岩石とそれにふくまれる鉱物の化学組成を求める基礎的な手法について習得し、マグマの化学的変化のモデル化とマグマプロセスから火山の進化についての理解を深める。
地球生命科学特論	微生物は地球の物質循環に大きな役割を担っており、環境に与える影響は大きい。そこで、微生物の代謝活動と地球環境の関連性について理解を深める。	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
理科教育専修	地球生命科学特別演習	フィールド調査において微生物や微生物によって形成された堆積物を観察し、さらに試料を分析することで微生物鉱化作用について考察する。
	宇宙物理学特論	宇宙の諸階層，すなわち恒星，銀河，銀河団，宇宙全体を最新宇宙観測と理論的背景を交えつつ俯瞰する。 特に，ビッグバン宇宙論の基礎的な内容と，それに基づく宇宙における様々な天体現象の基本的理解を目指して解説する。
	海洋学特論	海洋学は，物理・化学・生物など様々な面から，海がどのようなものか総合的に記述する学問である。 ここでは，物理をベースにしながらか，海的环境変動・海洋生態系の動態が理解できるように，沿岸から外洋までの海の科学について論述する。
	実践授業研究	理科教育及び理科の各分野の研究成果を導入し，小学校，中学校及び高等学校における授業方法を研究する。授業構成，実践授業，授業分析及び授業評価までの一貫した実践的授業を進め指導力の向上を図る。
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	学校現場での教育実習や社会教育機関での教育的な実践や企画，課題解決の体験をとおして，指導教員や実習校教員および社会教育指導者の指導のもとに，求められる教育実践力の内容を理解し，自己の課題を発見する。これによって，専門的学習に対して，課題意識をもって主体的・積極的に取り組む視点と態度を形成することを目的とする。
	理科課題研究A	研究テーマは指導教員のアドバイスに基づき，学生の自主性を重んじて決定される。教育現場における実践につながる教材開発や実験法の研究，もしくは理科の基本となる各専門分野の研究の指導を行う。自ら問題点を追求し，判断し，解決に努力をする学習を通じて解決能力を持つ教員の養成を目指す。
	理科課題研究B	理科課題研究Aを踏まえ，さらに研究を深めることで修士論文への発展を図る。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
理科教育専修	理科教育課題研究A	国内外の初等・中等教育段階における理科教育に関して、各自が課題を設定し、文献研究や実験研究、調査研究、実践研究等を実際に行う。必要に応じて、附属学校等の協力を得ながら推し進める。
	理科教育課題研究B	理科教育課題研究Aを受けて、引き続き、各自の研究課題に沿って研究を推し進め、修士論文への発展を図る。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
音楽教育専修	器楽特論 I A	
	器楽特論 I B	
	器楽特別演習 I	
	器楽特論 II A	バロック、古典におけるピアノ作品、様式の研究。特に形式論を述べるにおいて、その基礎要素となるフーガ、組曲、ソナタ形式に焦点を当て、主に J.S. バッハと L.v. ベートーヴェンの作品と、他の作曲家作品との比較を行う。
	器楽特論 II B	浪漫派における「表題音楽」と文学、近代・印象派音楽における絵画との関連性、さらに比較文化を背景とする「ピアノ音楽の広義性」について論ずる。
	器楽特別演習 II	器楽特論 I、II で講ずるピアノ作品の演奏技巧・演奏表現を演習する。
	声乐特論 I	声乐の基本的な要素である、発声、呼吸法、言葉の発音、フレージング等についてその指導法も踏まえて専門的に学ぶ。
	声乐特論 II	声乐特論 I の内容を踏まえ、更に曲の解釈を行い、内容を深めた演奏を行うこと及びその指導法も踏まえてを学ぶ。
	声乐特別演習	声乐特論 I・II の内容を踏まえ、特定の時代、言語、あるいは作曲家に的を絞って、演奏の実践を行い、その指導法を習得する。
作曲法特論 I	作曲に関する基礎理論（和声・対位法・楽式）をバロックからロマン派前期までを分析研究し、系統的に理解する。	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
音楽教育専修	作曲法特論Ⅱ	作曲に関する基礎理論（和声学・対位法・楽式・音組織・オーケストレーション）を、ロマン派後期から現代までを分析研究し系統的に理解し、自らの音楽語法を確立する。
	作曲法特別演習	エクリチュールの習得および、作曲法特論で習得した理論で各様式にわたる楽曲の作曲演習を行う。
	指揮法特論	指揮法の基礎理論の発展的応用に様々な楽曲を通して分析研究をするとともに、ピアノ演奏を指揮する演習により実践的な指揮技術を習得する。
	指揮法特別演習	指揮法特論に基づき、楽曲分析、スコアリーディング等を通して実際の指揮技術の音楽表現法を深く演習する。
	音楽学特論Ⅰ	音楽研究における文献調査、資料選別、資料探索などの方法について学ぶ。また、資料の厳密な読み方、音楽情報の整理の仕方、楽曲分析の方法などについて、具体的な例を通じて学習する。
	音楽学特論Ⅱ	音楽史の分野から選んだ研究課題にもとづいて特論Ⅰで学んだ音楽研究の方法を具体的にどう用いるかについて学習する。
	音楽学特別演習	現代音楽研究から適当な研究論文を選び、その一部を講読する。また、それに関係する諸文献の調査や作品研究なども演習として行う。
	音楽課題研究	音楽科の器楽、声楽、作曲、音楽理論、指揮、音楽学の各領域の中から院生が課題を見つけ、選択させ指導する。演奏法、楽曲分析、創作等について実践に裏打ちされた研究をし、音楽学については論文やレポート作成を通して学習者の自主的な探究を手助けするような指導をする。
	音楽教育課題研究	音楽科教育の課題となる内容について、院生に選択させ指導する。音楽科教育には、表現（創作を含む）と鑑賞の二つの領域がある。各自これに関連する課題を見つけ選択する。課題内容として、音楽史、授業論、教材論、児童・生徒の発達論、教育課程論（目標論・内容論・評価論）、指導法の諸問題等があげられる。学習者の豊かな経験と能力資質の育成向上を目指して実践的理論的に研究推進する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
音楽教育専修	音楽教育学特論ⅠA	我が国の音楽科教育の史的展開を概観することにより、現在の音楽科教育が抱えている課題を考察し、今後の音楽科教育を展望する。
	音楽教育学特論ⅠB	音楽科教育のカリキュラム論、教材論、方法論、教師論を講義し教授学習過程の課題について実践的考察を行う。
	音楽教育学特別演習Ⅰ	音楽教育学に関する様々な研究論文を検討することにより、研究動向を把握し、さらに研究手法等を学び、各自の研究課題に援用する可能性を探る。
	日本の音楽文化特論	日本伝統音楽を包括した現在日本の音楽文化の実態を知り、そこから日本の音楽文化特性を考察する。
	日本の音楽文化特別演習	日本の伝統音楽(三弦や箏他)及び日本の音楽文化について、とくに学校教育の場で演奏・指揮ができるための講義と演習を行う。
	音楽教育学特論ⅡA	音楽科教育の本質や目的を日本や諸外国の哲学や教育思想の歴史的流れをふまえて考察し、今日的な課題に対応する。
	音楽教育学特論ⅡB	音楽科教育の歴史的流れや思潮を概観し音楽科教育学の原理、研究分野、研究方法について事例に基づき講義する。
	音楽教育学特別演習Ⅱ	音楽科教育の国内外の著名なメソッドを分析し、それらの実際的方法について、目的やその課題を明らかにしながら演習する。
	実践授業研究	音楽科教育に関する日本・欧米の授業研究をもとに教材内容、教材開発、教授学習過程などについて、理論的、実証的に研究する。
	教育実践フィールド研究(大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究(修士論文)に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科「音楽」のカリキュラムや授業、評価に関すること ・教科「音楽」の教育内容、教材、教育方法に関すること ・音楽をめぐる子どもの心理や発達、障害に関すること ・特別活動、クラブ活動などの教科外音楽実践活動に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
美術教育専修	絵画特論 I	日本や西洋の古典、近代、現代絵画の歴史を深く探り、自己の「表現」について論述考察する。
	絵画特別演習 I	古典絵画の模写（テンペラ画や油彩画）を通して絵画構造を学び、絵画表現について演習する。
	絵画特論 II	日本美術や西洋、東洋その他の美術における絵画表現の比較検討をしながら、次代の日本画を考察、論述する。
	絵画特別演習 II	日本画の古来から現代までの素材を使用した、絵画表現について演習する。
	彫刻特論	彫刻の生成と発展について概観し、実体としての彫刻、媒体としての彫刻など今日の彫刻的課題を引き出し、作家と彫刻、時代と彫刻、社会と彫刻、文化や芸術としての彫刻、彫刻と人間など多角的で総合的に「彫刻とは」の命題に迫って論述する。
	彫刻特別演習	彫刻の素材や用具や技法を軸として研究し、主に粘土塑造における技法的側面から彫刻の本質に論理的にも迫って展開する。
	デザイン特論	前半は「デザイン特別演習」とセットで演習を兼ねる。後半は専攻を問わず、個々の修士論文と研究発表を具体的な素材として、エディトリアル、タイポグラフィ、プレゼンテーション等について学ぶ。関連して多様なコンテンツを様々なカテゴリーから紹介する。
	デザイン特別演習	写真の原点である針穴写真と現代のデジタル処理技術を使い、写真・カメラの基本、特性を学び、カメラ製作、撮影、現像、画像処理を経て、被写体の発掘、視点、画面構成など、メディアの特性に応じたコンテンツを探る。「デザイン特論」とセットで履修することが望ましい。
	工芸特論 I	
工芸特別演習 I		

専修名	授業科目名	授業科目の内容
美術教育専修	工芸特論Ⅱ	伝統を持つ地場産業の有田磁器を主軸に、工芸分野について美的追求はもとより技術面において、論理的に研究考察を行う。
	工芸特別演習Ⅱ	有田焼を地場に持ち、その特色を教育の場に生かし、磁器を中心に原料、成形、釉薬、焼成等を多角度から考察し、制作にいたるまでの実践的研究を行う。
	工芸特論Ⅲ	木漆工芸作品の歴史の変遷を把握すると共に、現代における木漆工芸のあり方、木や漆という素材を通しての表現を理論的に考察する。
	工芸特別演習Ⅲ	アジア特有の技術である漆工芸についての実践的研究を行う。
	工芸特論Ⅳ	染織意匠、染織技法を中心に、歴史的に染織工芸を見て行くことにより、現代の染織工芸のあり様を考察するとともに、その可能性について、とりわけ日本近代作家の作例をさぐりながら教材の発掘を試みる。
	工芸特別演習Ⅳ	布を染める行為を通して、染織工芸の造形活動の中での可能性を探って行く。とくに、佐賀の風土に根ざした作家の制作工程を追求しながら本質に迫っていく。
	美術方法特論	
	美術・工芸論特論	
	美学・美術史特論	1960年代以降の人間諸科学におけるいわゆる「言語論的転回」をふまえ、記号論、精神分析学、文化人類学、フェミニズム、歴史学、等々の学問領域において獲得された知見を芸術の領域を切り結ぶことで、人間にとっての根源的な象徴化の領野である芸術の意味を、領域横断的な観点から総合的に論述していく。
美学・美術史特別演習	美学・美術史関連の文献を輪読しながら、造形芸術の諸問題を追求する。	

専修名	授業科目名	授業科目の内容
美術教育専修	美術・工芸課題研究	美術・工芸分野における特定の課題について、文献収集、造形実験、造形実習、フィールドワーク等を通してデータを精選し、それらを分析、考察し、課題の本質を明らかにすることによって修士論文作成に生かすことにする。
	美術教育課題研究	美術教育の分野における質的向上をはかるために、この分野の教育の理論的かつ実践的な諸課題について、文献や作品の検索、美術教育実態調査、美術実験授業、フィールドワーク等で得られた資料を分析し、考察し、実証的に究明することによって、修士論文作成に関連づける。
	工芸教育課題研究	工芸教育の分野における質的向上をはかるために、この分野の教育の理論的かつ実践的な諸課題について、文献や作品の検索、工芸教育実態調査、工芸実験授業、フィールドワーク等で得られた資料を分析し、考察し、実証的に究明することによって、修士論文作成に関連づける。
	美術教育特論	図画工作教育や美術教育が、人間の成長・発達や社会的要請とどのようなかかわりをもちてきたか、あるいはもちえているかという教科の基本的問題について、過去から現在に至るまでの代表的な美術教育思潮及び実践を検討することによって明らかにする。
	美術教育教材特別演習	日本ならびに諸外国の美術教育について、その教材観や教育方法、カリキュラム編成を主なる対象とし、統計資料や具体的な実践例などにに基づきながら比較検討を行い、美術教育の基本的あり方と今日的課題について演習する。
	工芸教育教材特論	日本並びに諸外国の工作・工芸教育について、その基盤となる教育思想や教育理念、カリキュラム、教材観等について考察する。また、それらの背景となる文化状況や、今日の社会的要請についても検討を行ない、教育教材の特質について明らかにしていく。
	工芸教育教材特別演習	近代学校教育制度における導入期の工芸教育、発展期の工芸教育、現代の工芸教育の理論及び実践上の諸特徴に関して、作品資料、文献資料、実態調査資料等から、問題を発見し、検討し、発表することによって明らかにする。
	実践授業研究	美術の授業分析をしながら、実践活動への手がかりを見出し、演習を通してそのありかたを研究する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
美術教育専修	教育実践フィールド研究（大学院教育実習）	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・美術・工芸の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
保健体育専修	保健体育教育学特論Ⅰ	戦後における保健体育科教育の「目標」「内容」「方法」の変遷を時代的ニーズの側面から考察するとともに、今日の社会におけるスポーツや運動の需要の急速な拡大に対応する学校体育の内容等を学習指導論（目標・内容・方法・評価・環境論）の立場から論究する。
	保健体育教育学特別演習Ⅰ	体育科教育に関する実践例について討論し、生涯スポーツとしての学習のあり方を指導者論、学習者論、学習環境論の視点から実証的に研究し、児童・生徒の自発的・主体的な学習を可能とするための諸条件を考究する。
	保健体育教育学特論Ⅱ	授業記録や実践記録の意義やそのとり方、分析の方法等を文献・研究論文・実践例を通して考察し、体育授業の成果をあげるために客観性と具体性をもった授業記録と、それをもとにした授業づくりについて論究する。
	保健体育教育学特別演習Ⅱ	授業記録や実践記録を具体的に採取し、その整理、分析を通して学習指導理論と方法の理解を深め、自分の授業を向上させていくための有効な方法を実践的に考究する。
	保健体育教育学特論Ⅲ	保健科教育の理論（理念・目的・内容・方法・評価）が社会的状況の変化と共にどのように形成されてきたかを考察すると共に、生涯学習社会における保健科教育の在り方について授業づくりや教材研究を中心に論究する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
保健体育専修	体育学特論Ⅰ	現代社会において、スポーツとは何かを問うとともに、人間とスポーツのかかわりについて、これまでの研究成果に基づいて考察する。スポーツ行動の規定要因、スポーツへの社会化、スポーツ・コミットメント論、スポーツ行動の予測と診断などが主な内容である。
	体育学特別演習	スポーツは社会を映す小宇宙である。そこで、「スポーツと社会」や「スポーツと人間」を基本的テーマとし、これらを対象とした学問の理論を内外の文献から学ぶとともに、課題へのアプローチ、分析枠組みなど研究方法について検討する。
	体育学特論Ⅱ	運動・スポーツ心理学の視点から諸問題を提起し考察する。具体的には、1) 運動の習慣化に関する行動科学的アプローチ、2) 身体活動と認知機能・メンタルヘルスの関係、3) 競技スポーツにおける心理的諸問題、などを論述する。
	運動学特論	運動学はバイオメカニクスのような自然科学的な運動理論と運動現象をその中心に据えた人間学的運動学理論等があるが、スポーツ運動学の成立過程、今日的課題について、個別的運動方法学と比較しながら運動学を論述する。
	運動学特別演習	運動学習の習熟過程は、これまでの研究の成果、準備一試行一練習一定着一適応など一連の学習位相が明らかにされてきた。 運動学習の終局的段階に位置づけられる定着と適応に至るまでの過程を、運動観察の面からとらえ、運動学の理論と方法の補強を目的として展開する。
	運動方法学特論Ⅰ	個人的・対人的・集団的運動のそれぞれの特性を理解し、方法学的立場から各年齢段階における効果的なトレーニング理論、コーチング理論、コーチングの体系化について検討課題を論述する。
	運動方法学特別演習Ⅰ	コーチングに関する国内外の文献資料を講読しながら、集団的競技における効果的な技能習得法、指導法などの現状把握と研究方法について演習を行う。

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
保 健 体 育 専 修	運 動 方 法 学 特 論 II	個人的・対人的・集団的運動のそれぞれの特性を理解し、方法的立場から各運動形態に適したトレーニング法やコーチングの体系化について検討課題を論述する。
	運 動 方 法 学 特 別 演 習 II	ボールゲームに関する国内外の文献資料を講読しながら、集団的競技における効果的な技術・戦術の学習法、ゲームの発展法並びに指導方法の現状把握と研究方法について演習を行う。
	健康運動実践学特論	<p>生涯、身体活動の実践を継続することによって健康を維持することは、人生のQOLを高めるための基本である。適性な運動を行うことによって発育期の成長を助長するとともに、加齢に伴う体力や身体機能の衰退による生活活動能力や運動能力の低下を予防することは、重要な課題である。</p> <p>本論では、体力や身体機能の増加と生活活動や運動能力の向上の関連性の視点から、年齢層に応じた健康増進のための運動や体力トレーニングの方法と内容について論述する。</p>
	健康運動実践学特別演習	年齢層に応じた健康増進のための運動の方法や体力トレーニングの内容について、より具体的な実践方法を習得するために、内外の文献を講読するとともに、体力や身体機能の向上と生活活動能力や健康度の増加について実験・測定研究の方法論を学ぶ。
	健康運動実践方法学特論Ⅰ	人間の動きをバイオメカニクスの見地から考察する。基本的な運動がどのようなメカニズムにより成立しているかを理解し、その知見をもとに健康増進のための効果的、あるいは安全な運動実践の方法について学ぶ。
	健康運動実践方法学特別演習Ⅰ	歩行、ランニング、ジャンプなどの基本的な動作について画像あるいはセンサ等を用いて測定し、力学的に運動を分析する能力を養う。また運動の種類や実践方法により身体にかかる負担の程度がどのように違うのかを測定し、効果的な運動実践の方法を学ぶ。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
保健体育専修	健康運動実践方法学特論Ⅱ	<p>運動・レクリエーションへの参加は、適応能力を高め、身体的・精神的・社会的に良好な状態をもたらす。特に、高齢者においては生きる喜びや生活の楽しさを増大させ、心身の健康保持に大切な要因となる。</p> <p>本論では、歩行、ジョギング・レクリエーションなど健康に関わる運動の楽しさや喜びを理解・習得させるための方法と内容について論述する。</p>
	健康運動実践方法学特別演習Ⅱ	<p>歩行・ジョギング・レクリエーションなど健康に直接的に関わる運動の基本的技術を身につけさせ、自己の現在の体の状況や年齢に応じた運動の行い方や楽しさが味わえるための実践研究をおこなう。</p>
	運動生理学特論	<p>本講では、運動時のからだの働きを理解するために、運動と呼吸循環系、筋系、神経系、エネルギー供給、トレーニング応答、発育・発達などの生理的仕組みや運動と環境、栄養などについて論ずる。また、最新の研究データや知見を駆使して運動とからだのメカニズムについて論述する。</p>
	運動生理学特別演習	<p>本演習では運動、スポーツとからだに関する事象を中心的課題とし、運動時のからだの働き、運動が健康・体力に与える効果、健全なライフスタイルの確立、最近の話題性の高いトピックスなどについて、運動生理学の普遍的知識を活用し、原書講読、フィールドワークを交えながら実践的に展開する。</p>
	健康生理学特論	<p>高齢社会を迎え、生涯を通して健康で活力のある社会人となることが望まれている。本講では、健康に関する今日的課題を、生理学・運動生理学の知識を活用しながら論ずる。具体的には、運動・スポーツ活動と構造的・機能的な身体変化、体力と健康増進、加齢と健康寿命、運動処方開発に関する科学的知見から考究する。また、最新の研究データや知見を駆使して健康・体力とからだのメカニズムを明らかにしていく。</p>
	学校保健特論	<p>児童・生徒の健康問題とそれへの対応について、学校保健研究の成果から学校保健の現状をふまえて検討するとともに、健康に生きる能力形成の諸策について学校保健学的立場から解明する。</p>

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
保 健 体 育 専 修	学 校 保 健 特 別 演 習 I	<p>子どもたちの心身に生じている健康問題に対し、教育現場で取り組まれている実践例とその成果をとりあげ、検討し、学校保健学的な健康問題解決への実践追求の原則を明らかにしていく。</p>
	学 校 保 健 特 別 演 習 II	<p>思春期の種々の適応障害について、精神保健の立場から、その成立過程とその特徴の理解を深め、その支援のあり方などについて実践的追求の原則を明らかにしていく。</p>
	保 健 体 育 課 題 研 究	<p>体育学、運動学、健康運動実践学、運動生理学、学校保健の各分野から各自の継続的課題を設定し、研究計画、実験、資料の収集、分析を通して課題研究の指導を行い、各分野の視点から、院生が選択した課題について、実践的理論的に研究推進する。</p>
	保 健 体 育 教 育 課 題 研 究	<p>保健体育科教育に関する領域論、教育思潮、教育史、教師論、児童生徒の発達論、目的・目標論、教育課程論、教材論、施設、設備、材料、用具等の開発研究、授業論、指導法、評価論、学習環境論などから院生が選択した課題について、実践的理論的に研究推進する。</p>
	実 践 授 業 研 究	<p>今日の保健体育授業の実態を把握し、院生各自の問題意識を高め、学校教育における授業活動の実践的展開に関わる検討作業を課し、各自がその解決の方途を企画、立案、実行、再評価する間の経験を通して、保健体育に関する理論と方法の実践的統合を具現化する。本研究は附属学校等の現場と密着して行う。</p>
	教 育 実 践 フ ィ ー ル ド 研 究 (大 学 院 教 育 実 習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・保健体育の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
技術教育専修	技術教育特論	<p>技術科教師が創造的なよい授業の授業行動をするためには、技術について深い造詣をもたなければならない。技術とは一体何かを、また人類の技術が言語の発生に始まる情報の技術、エネルギーの技術、そして材料加工の技術の総体として認識されていることを基礎として、これから教科に対する思想を確立し、正しい目的、目標を設定し、授業設計を時系列的に学習指導案にまとめ、教授行動を行ったのち、授業分析を行い、また生徒のテストなどから正しい評価を情報として取り出し、次の授業にフィードバックする理論体系について講義する。</p>
	技術教育特別演習Ⅰ	<p>技術教育特論において理論研究した成果によってマイクロテーピングや実践授業の授業分析などをVTRシステム、テープレコーダ、コンピュータなどの諸教育機器を使用し、研究解析する。さらに実践的使用による演習なども行い、最も基本的な技術行動パターンの習得を演習する。</p>
	技術教育実践教育研究	<p>授業設計の全体を授業目標に設定、学習者の状況把握、授業計画の決定、授業活動、授業評価の5段階としてとらえる。この各段階に必要な学習指導要領の実施にあたっての検討、事前および事後テストの作成、技術分野の「技術とものづくり」および「情報とコンピュータ」における具体的な教材研究および教材作成、授業活動における教授行動と学習の相互作用のあり方、授業活動全体の評価のあり方について演習する。</p>
	技術教育特別演習Ⅱ	<p>技術教育の成立の歴史をたどりながら、技術科教育の意義と目的を明確にする。このとき技術の歴史や教育の歴史および技術の概念規定等の検討は、一般教育としての技術科教育の必要性を明確化させるためだけの必要最小限にとどめる。</p>
	電気工学特論Ⅰ	<p>我々の身のまわりの家電製品、ロボット、自動車など、ちょっと賢く、便利に、すばやく正確に動くものは、ほとんどがマイクロコンピュータによって、アクチュエータがデジタル制御されている。このように装置の高付加価値化に対し、デジタル制御技術は中心的存在である。制御理論に重点を置いて、コンピュータシステム、アクチュエータを駆動するパワーエレクトロニクスについて講義する。</p>

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
技術教育専修	電気工学特論 II	<p>コンピュータに代表されるエレクトロニクスの驚異的な発達によって、情報通信やメカトロニクスの分野では、様々な情報処理が実用されている。これらに関係する技術者にとって情報処理技術特に、信号処理理論は重要である。講義内容は、多次元ベクトル空間と関数空間・相互関係・フーリエ級数とフーリエ変換・線形システムの解析・デジタルフィルタ等である。</p>
	電気工学特別演習	<p>脳の解明と人間の脳のような情報処理装置の開発に多大な研究パワーが注がれてきて、これまでに多くの成果が得られている。21世紀の初めには、急速な展開が予想される。学生に、脳のモデルやニューロコンピュータの入門として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーセプトロン ・連想モデル ・ホップフィールドのモデル ・ボルツマンマシン ・バックプロパゲーション <p>これらの応用として、コンピュータシミュレーションによる視覚系のモデル、歩行学習ロボット等について、講義と演習をする。</p>
	機械工学特論 I	<p>機械は超高速に、超精密に、しかも高効率になってきている。家電製品に於いても、静かな動きや省エネルギー化が追求されている。このため、振動・騒音の問題は、機械の高性能化に、ますます重要な課題となってきた。このような背景から、機械系の学生にとって振動工学の講義は履修しておきたい科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動特性の表現 ・モード解析 ・棒と板の振動 ・回転体の振動 ・非線形振動とカオス ・ランダム振動 <p>等について講義する。</p>
	機械工学特論 II	<p>流体の流れの基礎的解明をエネルギー変化と複合して、静的に、また動的に追求し、ポテンシャルフローや等角写像から熱伝導に関連づけ、流体運動の運動方程式や熱の状態方程式からガス運動論を考える。さらに揚力、抗力の発生。熱の流れ、特にジェットなどの熱機関、カルノーサイクル、エントロピー境界層などにも触れる。最後に流体機械、熱機関の実際について講義を行う。</p>
	機械工学特論 III	<p>機械工学特論 II の講義に関連した実際的な応用分野である熱機関について、特に内熱機関を中心に、</p> <p>①燃焼現象論 ②効率論 ③ガス運輸論 ④熱伝達論について、講義する。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
技術教育専修	機械工学特別演習	<p>機械振動と妨振制御について、実験を含めた演習を行う。</p> <p>①振動プログラム作成 ②実験データと計算の比較 ③妨振制御の実験と計算</p>
	材料工学特論	<p>不静定はり、連続はりなどの複雑な問題や静定、不静定トラス、さらにラーメンについての解析を研究し、構造物の種類や構造力学を理論的に解明する。原子構造、分子結合などの材料の構成、結晶解析を基盤として金属、非金属結晶やアモルフェスの構造を知る。エネルギーによる平衡と反応過程を知り、結晶の変形、材料の機械的、電磁氣的、光学的性質を講義する。最後に木質材料、金属材料、非金属材料、プラスチック、半導体、カーボンファイバなどの複合材料の新素材について講義する。</p>
	材料工学特別演習	<p>材料工学特論での講義の中から基礎的な問題と、それに関連した応用問題について、基本的な理論解析よりも問題解決の方法に重点をおき演習を行なう。さらに材料物性、新素材の活用についても講義する。</p>
	情報工学特論	<p>ファジィ、ニューラルネットワーク、カオスなどコンピュータを利用した様々な情報処理技術が誕生している。これらに対する理解を深め、それをどの分野に、どのように応用していくかについて講究する。</p>
	情報工学特別演習	<p>現在の計算機は計算、記憶、処理速度においては人間をはるかに凌駕しているが、他の能力ではかなり劣っているのが実状である。このために人間を含めて生体の情報処理に学ぶことは大きいものがある。ここでは生体情報を初め、さまざまな情報処理システムについて講究し、関連した話題を解説する。</p>
	電子計算機特論	<p>電子計算機は産業のあらゆる分野で使用され、産業の中核をなしているといっても過言ではない。またマイクロプロセッサとして機器の中に組み込まれている。この計算機のさまざまなアーキテクチャと、それに関連する計算機の基礎理論について講義する。</p>
	電子計算機特別演習	<p>電子計算機はハードウェアよりもソフトウェアの重要性が増している。並列処理、データ管理、アルゴリズムなどの計算機科学に関する基礎理論の中から重要な話題を講究する。</p>

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
技術教育専修	技術科課題研究	<p>技術教育の学習内容を検討する視点と、技術科教育の目的に立脚した教材、教具の開発を意図して、電気、機械、材料および情報基礎の各領域から工学的な新しい課題を設定し研究を行い、修士論文の基礎とする。</p>
	技術教育課題研究	<p>技術科教育、電気、機械、材料および情報基礎の各分野について、技術科教育にとって必要と考えられる新しい課題を設定し、教育心理、教育学を主にした視点から探求する。具体的には、技術科教育に目的に立脚した教授法の開発などの研究を行い、修士論文の基礎とする。</p>
	実践授業研究	<p>技術教育において積み重ねられてきた国内および国外の貴重な実践記録の収集および整理を通して、技術科教育においてあるべき授業のあり方をさぐる。またこれらの実践授業における教材研究を基盤に木材加工、金属加工、電気、機械、栽培、および情報基礎の6領域について学習内容に含まれる原理の正しい理解に基づいた教材作成および活用を行う。</p>
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・技術の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
家政教育専修	家庭科教育学特論Ⅰ	<p>小・中・高等学校の児童・生徒側に立った家庭科教育の在り方を検討する。児童・生徒の生活に係わる諸統計を批判的に分析し、児童・生徒の生活実態を正確に把握することにより、児童・生徒の実態に則した学習内容・指導法を論じる。また、家庭科教育の現代的課題について検討する。</p>
	家庭科教育学特論Ⅱ	<p>家庭科教育の授業実践と理論について学ぶことで、家庭科教育学の研究を進める上で必要な専門知識と遂行力を身につけることをめざす。家庭科教育に関連する学術雑誌に掲載された論文の紹介を行うことで、家庭科教育学研究の内容や意義、それらの基礎となる理論について理解を深める。さらには、家庭科教育の今日的課題を各自で見出し、課題研究を行う。</p>
	家庭科教育学特別演習Ⅰ	<p>1980年代後半から日本の家庭科教科書は、アメリカ合衆国の家庭科テキストの影響を受けてきた側面がある。また、近年盛んに出版されている家庭科ワーク集もアメリカ合衆国の家庭科教科書“TEEN GUIDE”が翻訳されたことに端を発していると思われる。そこで、日米の家庭科教科書の比較・分析を通して、日本の家庭科教育の課題を把握するとともに、今後の日本の家庭科教育のめざす方向性について検討してゆく。</p>
	家庭科教育学特別演習Ⅱ	<p>家庭科教育学の研究を進める基礎となる専門知識を高めることをめざす。家庭科教育の今日的課題について各自がテーマを設定し、討論や模擬授業等を随時実施し、家庭科の授業設計を行う。さらに、特に食生活の内容について実験・実習等を行うことで、専門的な知識と技術を身につけるとともに、実験・実習授業実施における要点や意義について理解を深める。</p>
	食物学特論Ⅰ	<p>酵素についての一般的知識及び栄養素の消化・吸収・代謝における酵素の働きや物質代謝を調節するホルモン・神経等の作用並びに消化・吸収の日内変動を取り上げる。</p> <p>また、脂肪、食物繊維、ミネラル、ビタミンなどに関する新しい知見や肥満、高血圧、骨粗鬆症など今日的な問題についても述べる。</p>
	食物学特別演習Ⅰ	<p>生活習慣病（肥満、高血圧、高脂血、高血糖等）の一次予防のための栄養教育、広報について実践的に検討する。</p> <p>Health for All のために伝統食と現代食の融合を計るという観点から生活習慣病の制圧について考察する。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
家政教育専修	被服学特論Ⅰ	<p>人体の生理・形態・適応等の諸特性を基礎にした上で、ヒトの健康を被服の関係について考察する。特に、外部環境条件、人体の生理状態及び運動強度等の諸条件の変化に伴い、快適な被服の素材あるいは形態が異なることについて、内外の文献や資料を基に解説し、被服着用に際して、人体及び環境系を総合的に捉えることの重要性を認識させる。</p>
	被服学特別演習Ⅰ	<p>被服衛生学に関する内外の文献の講読。討論、発表を行い、安全な衣生活についての理解を深める。また、具体的にテーマを決め、実際に測定や調査を実施し、そのデータ解析を行うことにより、被服衛生学における研究の方法を修得する。</p>
	住居学特論	<p>ひとが健康・快適に過ごすために必要な住環境のあり方について、住居を中心にハード・ソフト両面から考察する。まず、住居の役割や備えるべき機能に関する知識を習得した上で、現代のわが国の住居や住まい方の現状・特徴について解説する。さらに、われわれの生活の質を高めるために、住環境の改善にどのように取り組むべきかなどについて講義する。</p>
	住居学特別演習	<p>住居学特論で得た知識・思考をもとに、佐賀近辺の住宅・建築に関する資料を収集した上で現地を見学する。知識と体験に基づきながら、住宅・建築はいかに計画すべきか、その中で快適に過ごすためには、どのような住まい方や使い方の工夫が必要か、などについて議論することを通して、受講生の住環境についての知識・思考を深化させる。</p>
	保育学特論	<p>乳幼児のより良い心身の発育発達に関し、胎児期からの個体と環境的要因との相互関連性を母子健康および発達心理学的視点から考究する。あわせて子どもをとりまく環境の変化と現代っ子の遊び体験の実態や親の子ども観、子育て観を概説し、今日の子どものもつ発達特性とその対応について言及する。</p>
	保育学特別演習	<p>乳幼児の成長と発達の様相や親子相互作用を理解するための方法として、観察や測定、事例研究等を紹介し、乳幼児の理解を深める。さらに文献講読等を通じて子どもの親への発達援助や支援、子どもの権利・福祉について共に考え探求する。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
家政教育専修	家族関係学特論	現代家族の実態を正しく把握するために、種々の統計資料にあたるとともに、データの見方に関する論説を考察する。そして、現代家族の構造や機能の変化を据えて、問題点を指摘し課題を模索する。焦点には、比較的若い年代の家族・個人を据えて、結婚・離婚の動向、共働き夫婦の関係（役割・勢力・情緒関係）を探究する。
	家族関係学特別演習	人口の高齢化を見据えて、高齢期の過ごし方を考察していく。高齢化の進行状況を押さえ、ライフコースの変化を確認し、高齢者の家族構成の変化を強調しながら、高齢期における夫婦の関係（伴侶性形成）・老親子関係（同・別居）のあり方を考察する。また、高齢期の家計分析や、高齢者の社会参加についても探求する。
	家政学課題研究	食物学・被服学・家族関係学・住居学などの家政学関連諸科学で得た専門知識と、修得した論理展開の方法や解析方法を用いて、学習者の資質育成と向上を目的とした研究課題に取り組み、修士論文にまとめていく。
	家庭科教育課題研究	家庭科教育学および家庭科関連諸科学の研究手法を用いて、小・中・高等学校の教育現場における実践上の諸問題について、分析・検討・考察し、よりよい家庭科教育を目指して研究を深め、修士論文にまとめていく。
	実践授業研究	家庭科教育学及び家庭科関連諸科学の研究成果を導入し、子どもの立場に立った家庭科の授業づくりを行う。附属小学校において数日間の観察・参与実習を行うことにより、こどもの興味・関心や考え方についての理解を深め、授業構成から実践結果の分析、考察まで一貫した臨床的研究を進め、授業実践力の向上を図る。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
家政教育専修	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・家庭科の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科の担当教員が連携して指導するものである。</p>

専修名	授業科目名	授業科目の内容
英語教育専修	英語教育学特論ⅠA	外国語教育の目的、方法、教材、評価、学習者、比較文化などの諸領域を理論的に文献研究すると共に、日本文化における英語教育のあり方や改善の方向性を長期的展望で検討・考察する。
	英語教育学特論ⅠB	前期における英語教育学の原理・原論を踏まえ、授業の構成と展開など実践上の諸問題を、関連諸科学の研究成果を取り入れながら教育研究する。
	英語教育学特別演習Ⅰ	コミュニケーション能力の育成をめざす英語教育の指導法、教材開発、評価法など今日的課題について演習する。その際、授業分析、教科書分析、比較文化的視点や統計的視点の導入などを通して、実践の理論化と理論の実証化を探求する。
	英語教育学特論ⅡA	コミュニケーション能力育成の視点から、英語指導にとって必要な言語能力とそのための知識を分析する。伝達のための文法力・文化理解を新しい角度からとらえ直す必要性を重視し、文法研究・談話分析・語用論の分野の研究成果を活用する。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
英語教育専修	英語教育学特論ⅡB	ⅡAの内容をふまえて、イメージ・発想など言語における違いをみることにより、コミュニケーション育成に必要な異文化理解・国際理解を英語教育でどう育成するかを検討する。
	英語教育学特別演習Ⅱ	学習者がコミュニケーション能力をもつということはどういうことなのか、またそのための英語指導で教師に必要な視点と能力はどういうものなのかを検討する。日英語の論理の違いや発話行為の違いを分析することにより、言語表現に表れる実際の違いの理解を進め、異文化理解に結びつく授業とはどういうものなのかを探求していく。
	英語学特論ⅠA	国際間のコミュニケーションの手段として力を持って来た現代英語の現状及びその歴史的展開について、音韻・統語・意味・語法・文体・語いなどにわたって多面的に取り上げて多相な英語学研究の方法と問題点について論じる。
	英語学特論ⅠB	現代英語の多相な具体的表現について、音韻・統語・意味・語法・文体・語いなどにわたって共通時・通時的視点より検討して多相な英語学研究の方法と問題点について論じる。
	英語学特別演習Ⅰ	上記講義を踏まえて、英語の音韻・統語・意味・語法・文体・語いなど多面的視点から種々な英語テキストを具体的に読むことによって多相な英語学研究の方法と問題点について検討・考察する。
	英語学特論Ⅱ	生成文法、機能構文論、概念意味論、認知意味論、語用論などの理論が指摘する形式と意味の対応関係に関する新知見を考察するとともにそれらの英語教育への応用について検討する。その際、歴史言語学的及び対照言語学的観点を踏まえた議論をする。
	英語学特別演習Ⅱ	日英語の比較・対照研究を通して両言語の構造の共通点と相違点を明らかにすると共に、それらを踏まえた言語教育について考察する。その際、コミュニケーションや比較文化の視点からの分析を試みる。

専 修 名	授 業 科 目 名	授 業 科 目 の 内 容
英語教育専修	英米文学特論ⅠA	19世紀後半のアメリカ・リアリズムの時期の特色や文化的背景を踏まえながら概観するとともに、具体的に主要作家の短編や代表的作品の重要部分の講読を通じて、文学解釈に必要な専門的知識や分析力を養う。
	英米文学特論ⅠB	20世紀前半のアメリカ・モダニズムの作家たちの作品を文体、形式、テーマなどの観点から多角的に分析を行うことによって、文学解釈に必要な専門的知識や分析力を養う。同時に作品の中に見られる文化的、社会的背景も理解する。
	英米文学特別演習Ⅰ	アメリカ文学の主要小説を読み、テーマや文体についてディスカッションを通じて、その作品及びその作家の本質を探究する。併せて、関連の批評論文を読むことによって、理解を深めるとともに、文学の分析法や批評法を習得できるようにする。全体のまとめとして英文によるレポートを作成する。
	英米文学特論ⅡA	作品における男女の関係性を構造的に把握することに極めて有効なジェンダー批評によって、英国ルネサンス期における演劇、特にシェイクスピアの作品を読み解く。シェイクスピアをキャノンとして偉大視するのではなく、現代のコンテクストの中で活性化させ、現代における意味の可能性を探る。
	英米文学特論ⅡB	英米文学の深層には、未だ〈隠蔽〉された秘められたものとしてケルト的要素がある。本講義では、この要素のことを「もう一つの英文学＝異端の英文学」と呼び、マイノリティ（少数民族）＝異文化理解の視点に立って、秘められた英文学の暗号解読を試みる。このことを通して、文学とは見方次第で様相を変える「だまし絵」のようであり、またテキストの表層に明確に表れたものは作家のカモフラージュに過ぎず、むしろ核心部分は隠蔽される場合が少なくないことを学んでいく契機にしたい。
	英米文学特別演習Ⅱ	産業革命以降に発生したと思われる近代的精進を、〈ロマン派的想像力〉を軸に、ロマン主義（ワーズワス、コールリッジ、シェリー、キーツ）以降の英文学の流れのなかで読んでいく。その際、現代の新しい徳目としての〈エコロジー〉とその源流としてのロマン主義の意義を、西洋精神史を逆流しながら、発生論（神話学＝逆歴史）的に読む新しい文学批評の方法を身につけてもらう。

専修名	授業科目名	授業科目の内容
英語教育専修	英語課題研究	<p>英語教育の専門家として必要とされる、言語学、英米文学、比較文化論、コミュニケーション論などの専門的な学問的知識と能力を確立させ、それらを基盤として、各自が研究課題をもうけ、指導教員のもとに研究を展開させる。指導は、個別に毎週、課題を与える形で段階的におこなう。さらに、定期的に口頭で発表させることで、プレゼンテーション能力の育成も目指す。最終的な成果として、英語による修士論文を仕上げ、口頭でも発表させる。</p>
	英語教育課題研究	<p>各自の英語教育学研究課題を指導教員のもとに研究させ、研究課題に含まれる英語教育の諸問題を解明し学際的な見地から考察させる。その際、英語教育に関わる理論と実践、実験、国内外の文献調査を重視する。又、教育学、社会学、心理学、音声学、教授法、比較文化論、コミュニケーション論等の確固たる学問的基盤を設立させ、その上に研究を展開させる。最終的な成果として、英語による修士論文を仕上げ、口頭でも発表させる。</p>
	実践授業研究	<p>附属学校は勿論のこと、市内、又、県下の学校英語の教育・研究の成果を踏まえ、各自の教育研究課題の実践授業研究を行う。日英語比較、ティームティーチング、各種シラバスと教案、少年心理学とグループダイナミック、国際理解と比較文化、文法項目、教材研究と作成等が中心となろう。</p>
	教育実践フィールド研究 (大学院教育実習)	<p>大学院教育において高度な教育実践研究力を形成することを目的として、学校現場における教育実習を実施し、その教育実践により得られた成果と課題を課題研究（修士論文）に生かすようにする。そのため、課題研究の内容に応じて、学校教育の教育実践に関する以下の内容から研究テーマを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の教科、関連領域のカリキュラムや授業、評価に関すること ・英語の教科、関連領域の教育内容、教材に関すること <p>また、研究科での講義内容の成果を生かして実践的な探求、研究を行うために、実習生が自律的に教育実習計画を立案し、実習校の協力を得て、教育実習メンターと教育学研究科（英語教育専修）の担当教員が連携して指導するものである。</p>

3. 外国人留学生のための科目

授業科目	授業科目の内容
大学院日本語	留学生を対象に、専門教育に必要な日本語・日本文化に関する知識を修得させることを目標とし、学術論文の読解と作成および研究発表に必要な日本語能力を身につけさせる。
留学生特別演習（学校教育）	本演習では、留学生を対象に、専攻専門分野の学修に不可欠な諸知識を教授する。演習の内容は、受講生の必要を勘案して決定する。専攻する専門分野の学修を円滑に進めるために必要な基礎的知識の修得が、本演習の目的である。
留学生特別演習（教科教育）	本演習では、留学生を対象に、専攻専門分野の学修に不可欠な諸知識を教授する。演習の内容は、受講生の必要を勘案して決定する。専攻する専門分野の学修を円滑に進めるために必要な基礎的知識の修得が、本演習の目的である。

17 教 員 免 許

所要の基礎資格を有する者は、当該研究科において教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得したときは、次に示す教育職員免許状を取得することができる。

(当該免許状の一種免許状を有しておくこと。)

専 攻	専修・コース	教員免許状の種類（免許教科）
学 校 教 育	教 育 学 コ ー ス 教 育 心 理 学 コ ー ス	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，保健体育，家庭，情報，英語，書道，工業） 幼稚園教諭専修免許状
	障 害 児 教 育 コ ー ス	特別支援学校教諭専修免許状
教 科 教 育	国 語 教 育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）（書道） 幼稚園教諭専修免許状
	社 会 科 教 育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）
	数 学 教 育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学） 幼稚園教諭専修免許状
	理 科 教 育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）
	音 楽 教 育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（音楽） 高等学校教諭専修免許状（音楽） 幼稚園教諭専修免許状

専攻	専修・コース	教員免許状の種類（免許教科）
教科教育	美術教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（美術） 高等学校教諭専修免許状（美術）（工芸） 幼稚園教諭専修免許状
	保健体育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育） 幼稚園教諭専修免許状
	技術教育	中学校教諭専修免許状（技術） 高等学校教諭専修免許状（工業）
	家政教育	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（家庭）
	英語教育	中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）

専修免許状取得のための履修科目表 ※ ○印の中から 24 単位以上修得

① 学校教育専攻

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免	高専免	特支専免
教育学・教育史	日本教育史特論	2	○	○	小 専 免 に 同 じ	小 専 免 に 同 じ	
	日本教育史特別演習	1	○	○			
	教育哲学特論	2	○	○			
	教育哲学特別演習	1	○	○			
	人権教育特論	2	○	○			
	人権教育特別演習	1	○	○			
学校経営	学校・学級経営学特論	2	○	○	同 じ	同 じ	
	学校・学級経営学特別演習	1	○	○			
教育内容・方法論	教育方法学特論	2	○	○			
	教育方法学特別演習	1	○	○			
社会教育学	社会教育学特論	2	○	○			
	社会教育学特別演習	1	○	○			
道徳教育	道徳教育特論	2	○	○			
	道徳教育学特別演習	1	○	○			
教育社会学	教育社会学特論	2	○	○			
	教育社会学特別演習	1	○	○			
教育法制度論	教育法制特論	2	○	○			
	教育法制特別演習	1	○	○			
教育心理学	教育心理学特論	2	○	○			
	教育測定・評価特別演習	1	○	○			
	学習心理学特論	2	○	○			
	学習心理学特別演習	1	○	○			
	学級集団心理学・生徒指導特論	2	○	○			
進路指導特別演習	1	○	○				
教育臨床心理学	教育臨床心理学特論	2	○	○			
	教育臨床心理学特別演習	1	○	○			
	教育相談心理学特別演習	1	○	○			
発達心理学	発達心理学特論Ⅰ	2	○	○			
	発達心理学特別演習	1	○	○			
	発達心理学特論Ⅱ	2	○	○			
課題研究	学校教育課題研究	4	○	○			
障害児教育	障害児教育学特論Ⅰ	2					○
	障害児教育学特論Ⅱ	2					○
	障害児教育学研究方法論	2					○
	障害児教育学特別演習	1					○
障害児心理	障害児心理学特論Ⅰ	2					○
	障害児心理学特論Ⅱ	2					○
	障害児心理学研究方法論	2					○
	障害児心理学・心理検査特別演習	1					○
障害児病理	知的障害者生理学・病理学研究	2					○
	肢体不自由者生理学・病理学研究	2					○
	病弱者・情緒障害者生理学・病理学研究	2					○
	感覚系障害者生理学・病理学研究	1					○
課題研究	障害児教育課題研究	4					○

② 教科教育専攻

国語教育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免(国)	高専免(国)	高専免(書道)
国語科教育	国語教育学特論ⅠA	2	○				
	国語教育学特論ⅠB	2	○	幼	幼	幼	
	国語教育学特別演習Ⅰ	1	○	専	専	専	
	国語教育学特別演習Ⅱ	1	○	免	免	免	
	国語教育学特論Ⅱ	2	○				
国語学	国語学特論ⅠA	2	○	に	に	に	
	国語学特論ⅠB	2	○	同	同	同	
	国語学特別演習ⅠA	1	○	じ	じ	じ	
	国語学特別演習ⅠB	1	○				
	国語学特論ⅡA	2	○				
	国語学特論ⅡB	2	○				
	国語学特別演習ⅡA	1	○				
	国語学特別演習ⅡB	1	○				
国文学	古典文学特論Ⅰ	2	○				○
	古典文学特論Ⅱ	2	○				○
	古典文学特別演習Ⅰ	1	○				○
	古典文学特別演習Ⅱ	1	○				○
	現代文学特論Ⅰ	2	○				○
	現代文学特論Ⅱ	2	○				○
	現代文学特別演習Ⅰ	1	○				○
	現代文学特別演習Ⅱ	1	○				○
	日本文学思潮Ⅰ	2	○				○
	日本文学思潮Ⅱ	2	○				○
漢文学	漢文学特論Ⅰ	2	○				○
	漢文学特論Ⅱ	2	○				○
	漢文学特別演習Ⅰ	1	○				○
	漢文学特別演習Ⅱ	1	○				○
	中国古典文学特論Ⅰ	2	○				○
	中国古典文学特論Ⅱ	2	○				○
	中国古典文学特別演習Ⅰ	1	○				○
	中国古典文学特別演習Ⅱ	1	○				○
	中日比較文学特論Ⅰ	2	○				○
	中日比較文学特論Ⅱ	2	○				○
	中日比較文学特別演習Ⅰ	1	○				○
	中日比較文学特別演習Ⅱ	1	○				○
	日中韓近世比較文学特論Ⅰ	2	○				○
	日中韓近世比較文学特論Ⅱ	2	○				○
	日中韓近世比較文学特別演習Ⅰ	1	○				○
日中韓近世比較文学特別演習Ⅱ	1	○				○	
書道	書道特別研究Ⅰ	1	○				○
	書道特別研究Ⅱ	1	○				○
実践研究	実践授業研究	2	○				○
課題研究	国語課題研究Ⅰ	2	○				
	国語課題研究Ⅱ	2	○				
	国語教育課題研究Ⅰ	2	○				
	国語教育課題研究Ⅱ	2	○				
	書道課題研究Ⅰ	2					○
	書道課題研究Ⅱ	2					○

社会科教育専修

分野	授業科目	単位数	小専免	中専免(社会)	高専免(地理歴史)	高専免(公民)
社会科教育	社会科教育学特論Ⅰ(社会・地歴)	4	○	小 専 免 に 同 じ	○	○ ○
	社会科教育学特別演習Ⅰ(社会・地歴)	2	○			
	社会科教育学特論Ⅱ(社会・公民)	4	○			
	社会科教育学特別演習Ⅱ(社会・公民)	2	○			
歴史学	考古学特論Ⅰ	2	○	小 専 免 に 同 じ	○	
	考古学特論Ⅱ	2	○			
	考古学特別演習	2	○			
	日本史特論AⅠ	2	○			
	日本史特論AⅡ	2	○			
	日本史特論BⅠ	2	○			
	日本史特論BⅡ	2	○			
	日本史特別演習A	2	○			
	日本史特別演習B	2	○			
	東洋史特論AⅠ	2	○			
	東洋史特論AⅡ	2	○			
	東洋史特論BⅠ	2	○			
	東洋史特論BⅡ	2	○			
	東洋史特別演習A	2	○			
	東洋史特別演習B	2	○			
	西洋史特論AⅠ	2	○			
	西洋史特論AⅡ	2	○			
	西洋史特論BⅠ	2	○			
西洋史特論BⅡ	2	○				
西洋史特別演習A	2	○				
西洋史特別演習B	2	○				
地理学	地理学特論AⅠ	2	○		○	
	地理学特論AⅡ	2	○			
	地理学特別演習A	2	○			
	地理学特論BⅠ	2	○			
	地理学特論BⅡ	2	○			
	地理学特別演習B	2	○			
法学	法学特論AⅠ	2	○			○
	法学特論AⅡ	2	○			
	法学特論BⅠ	2	○			
	法学特論BⅡ	2	○			
	法学特別演習A	2	○			
	法学特別演習B	2	○			
政治学	政治学特論AⅠ	2	○			○
	政治学特論AⅡ	2	○			
	政治学特論BⅠ	2	○			
	政治学特論BⅡ	2	○			
	政治学特別演習A	2	○			
	政治学特別演習B	2	○			
	国際政治学特論Ⅰ	2	○			
	国際政治学特論Ⅱ	2	○			
	国際政治学特別演習	2	○			
	経済学	経済学特論Ⅰ	2			○
経済学特論Ⅱ		2	○			
経済学特別演習		2	○			
国際経済学特論Ⅰ		2	○			
国際経済学特論Ⅱ		2	○			
国際経済学特別演習		2	○			

社会科教育専修

分野	授業科目	単位数	小専免	中専免(社会)	高専免(地理歴史)	高専免(公民)
社会学	社会学特論A I	2	○			○
	社会学特論A II	2	○			○
	社会学特論B I	2	○			○
	社会学特論B II	2	○			○
	社会学特論C I	2	○			○
	社会学特論C II	2	○			○
	社会学特別演習A	2	○			○
	社会学特別演習B	2	○			○
	社会学特別演習C	2	○			○
哲学・倫理学	倫理学特論 I	2	○			○
	倫理学特論 II	2	○			○
	倫理学特別演習	2	○			○
実践研究	実践授業研究	2	○		○	○
課題研究	社会科課題研究(社会・地歴)	4	○		○	
	社会科課題研究(社会・公民)	4	○			○
	社会科教育課題研究(社会・地歴)	4	○		○	
	社会科教育課題研究(社会・公民)	4	○			○

数学教育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免(数学)	高専免(数学)
数学科教育	数学教育学特論 I	4	○			
	数学教育学特別演習 I	2	○	幼	幼	幼
	数学教育学特論 II	4	○	専	専	専
	数学教育学特別演習 II	2	○			
代数学	代数学特論	4	○	免	免	免
	代数学特別演習	2	○	に	に	に
幾何学	幾何学特論 I	4	○	同	同	同
	幾何学特別演習 I	2	○	じ	じ	じ
	幾何学特論 II	4	○			
	幾何学特別演習 II	2	○			
解析学	解析学特論	4	○			
	解析学特別演習	2	○			
	統計学特論	4	○			
	統計学特別演習	2	○			
実践研究	実践授業研究	2	○			
課題研究	数学課題研究	4	○			
	数学教育課題研究	4	○			

理科教育専修

分野	授業科目	単位数	小専免	中専免(理科)	高専免(理科)
理科教育	理科教育学特論 I	2	○		
	理科教育学特別演習 I	2	○	に小	に小
	理科教育学特論 II	2	○	同専	同専
	理科教育学特別演習 II	2	○	じ免	じ免
	理科教育学特論 III	2	○		

理科教育専修

分野	授業科目	単位数	小専免	中専免 (理科)	高専免 (理科)
物理学	固体物理学特論	2	○	小 専 免	小 専 免
	固体物理学特別演習	2	○		
	中間エネルギー物理学特論	2	○		
	中間エネルギー物理学特別演習	2	○		
	量子物理学特論	2	○		
	量子物理学特別演習	2	○		
	半導体物理学特論	2	○		
化学	物理化学特論	2	○	に 同 じ	に 同 じ
	物理化学特別演習	2	○		
	無機化学特論	2	○		
	無機化学特別演習	2	○		
	有機化学特論	2	○		
	有機化学特別演習	2	○		
	分析化学特論	2	○		
生物学	比較生理学特論	2	○		
	比較生理学特別演習	2	○		
	群集生態学特論	2	○		
	植物分類生態学特論	2	○		
	植物分類生態学特別演習	2	○		
	行動生態学特論	2	○		
	生命化学特論	2	○		
地学	地球史特論	2	○		
	地球史特別演習	2	○		
	火山岩岩石学特論	2	○		
	火山岩岩石学特別演習	2	○		
	地球生命科学特論	2	○		
	地球生命科学特別演習	2	○		
	宇宙物理学特論	2	○		
	海洋学特論	2	○		
実践研究	実践授業研究	2	○		
課題研究	理科課題研究A	2	○		
	理科課題研究B	2	○		
	理科教育課題研究A	2	○		
	理科教育課題研究B	2	○		

音楽教育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免 (音楽)	高専免 (音楽)
音楽科教育	音楽教育学特論ⅠA	2	○	幼 専 免	幼 専 免	幼 専 免
	音楽教育学特論ⅠB	2	○			
	音楽教育学特別演習Ⅰ	2	○			
	音楽教育学特論ⅡA	2	○			
	音楽教育学特論ⅡB	2	○			
	音楽教育学特別演習Ⅱ	2	○			
器楽	器楽特論ⅠA	2	○	に 同 じ	に 同 じ	に 同 じ
	器楽特論ⅠB	2	○			
	器楽特別演習Ⅰ	2	○			
	器楽特論ⅡA	2	○			
	器楽特論ⅡB	2	○			
	器楽特別演習Ⅱ	2	○			

音楽教育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免(音楽)	高専免(音楽)
声 楽	声楽特論Ⅰ	2	○			
	声楽特論Ⅱ	2	○			
	声楽特別演習	2	○			
作 曲 法	作曲法特論Ⅰ	2	○			
	作曲法特論Ⅱ	2	○			
	作曲法特別演習	2	○			
指 揮 法	指揮法特論	2	○			
	指揮法特別演習	1	○			
音 楽 学	音楽学特論Ⅰ	2	○			
	音楽学特論Ⅱ	2	○			
	音楽学特別演習	2	○			
	日本の音楽文化特論	2	○			
	日本の音楽文化特別演習	1	○			
実 践 研 究	実践授業研究	2	○			
課 題 研 究	音楽課題研究	4	○			
	音楽教育課題研究	4	○			

美術教育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免(美)	高専免(美)	高専免(工芸)
美術・工芸科教育	美術教育特論	4	○			○	
	美術教育教材特別演習	1	○			○	
	工芸教育教材特論	4	○	幼	幼		○
	工芸教育特別演習	1	○	専	専		○
絵 画	絵画特論Ⅰ	4	○	免	免	○	
	絵画特別演習Ⅰ	1	○			○	
	絵画特論Ⅱ	4	○	に	に	○	
	絵画特別演習Ⅱ	1	○	同	同	○	
彫 刻	彫刻特論	4	○	じ	じ	○	
	彫刻特別演習	1	○			○	
デ ザ イ ン	デザイン特論	4	○			○	○
	デザイン特別演習	1	○			○	○
工 芸	工芸特論Ⅱ	4	○			○	○
	工芸特別演習Ⅱ	1	○			○	○
	工芸特論Ⅲ	4	○			○	○
	工芸特別演習Ⅲ	1	○			○	○
	工芸特論Ⅳ	4	○			○	○
	工芸特別演習Ⅳ	1	○			○	○
美術理論・美術史	美学・美術史特論	4	○			○	○
	美学・美術史特別演習	1	○			○	○
実 践 研 究	実践授業研究	2	○			○	○
課 題 研 究	美術・工芸課題研究	4	○			○	○
	美術教育課題研究	4	○			○	
	工芸教育課題研究	4					○

保健体育専修

分野	授業科目	単位数	幼専免	小専免	中専免(保体)	高専免(保体)
保健体育科教育	保健体育教育学特論Ⅰ	2	○			
	保健体育教育学特別演習Ⅰ	1	○			
	保健体育教育学特論Ⅱ	2	○	幼	幼	幼
	保健体育教育学特別演習Ⅱ	1	○	専	専	専
	保健体育教育学特論Ⅲ	2	○			
体育学	体育学特論Ⅰ	2	○	免	免	免
	体育学特別演習	1	○	に	に	に
	体育学特論Ⅱ	2	○			
運動学	運動学特論	2	○	同	同	同
	運動学特別演習	1	○	じ	じ	じ
	運動方法学特論Ⅰ	2	○			
	運動方法学特別演習Ⅰ	1	○			
	運動方法学特論Ⅱ	2	○			
	運動方法学特別演習Ⅱ	1	○			
健康運動実践学	健康運動実践学特論	2	○			
	健康運動実践学特別演習	1	○			
	健康運動実践方法学特論Ⅰ	2	○			
	健康運動実践方法学特別演習Ⅰ	1	○			
	健康運動実践方法学特論Ⅱ	2	○			
	健康運動実践方法学特別演習Ⅱ	1	○			
運動生理学	運動生理学特論	2	○			
	運動生理学特別演習	1	○			
	健康生理学特論	2	○			
学校保健	学校保健特論	2	○			
	学校保健特別演習Ⅰ	1	○			
	学校保健特別演習Ⅱ	1	○			
実践研究	実践授業研究	2	○			
課題研究	保健体育課題研究	4	○			
	保健体育教育課題研究	4	○			

技術教育専修

分野	授業科目	単位数	中専免(技術)	高専免(工業)
技術科教育	技術教育特論	4	○	
	技術教育特別演習Ⅰ	2	○	
	技術教育実践教育研究	4	○	
	技術教育特別演習Ⅱ	2	○	
電気	電気工学特論Ⅰ	2	○	○
	電気工学特論Ⅱ	2	○	○
	電気工学特別演習	2	○	○
機械	機械工学特論Ⅰ	2	○	○
	機械工学特論Ⅱ	2	○	○
	機械工学特論Ⅲ	2	○	○
	機械工学特別演習	2	○	○
材料	材料工学特論	4	○	○
	材料工学特別演習	2	○	○
情報基礎	情報工学特論	4	○	○
	情報工学特別演習	2	○	○
	電子計算機特論	4	○	○
	電子計算機特別演習	2	○	○
実践研究	実践授業研究	2	○	
課題研究	技術科課題研究	4	○	○
	技術教育課題研究	4	○	

家政教育専修

分野	授業科目	単位数	小専免	中専免 (家庭)	高専免 (家庭)
家庭科教育	家庭科教育学特論Ⅰ	2	○	小 専 免 に 同 じ	小 専 免 に 同 じ
	家庭科教育学特論Ⅱ	2	○		
	家庭科教育学特別演習Ⅰ	2	○		
	家庭科教育学特別演習Ⅱ	2	○		
食物学	食物学特論Ⅰ	2	○	同 じ	同 じ
	食物学特論Ⅱ	2	○		
	食物学特別演習Ⅰ	2	○		
	食物学特別演習Ⅱ	2	○		
被服学	被服学特論Ⅰ	2	○	同 じ	同 じ
	被服学特論Ⅱ	2	○		
	被服学特別演習Ⅰ	2	○		
	被服学特別演習Ⅱ	2	○		
住居学	住居学特論	2	○		
	住居学特別演習	2	○		
保育学	保育学特論	2	○		
	保育学特別演習	2	○		
家政一般	家族関係学特論	2	○		
	家族関係学特別演習	2	○		
実践研究	実践授業研究	2	○		
課題研究	家政学課題研究	4	○		
	家庭科教育課題研究	4	○		

英語教育専修

分野	授業科目	単位数	中専免 (英語)	高専免 (英語)
英語科教育	英語教育学特論ⅠA	2	○	中 専 免 に 同 じ
	英語教育学特論ⅠB	2	○	
	英語教育学特別演習Ⅰ	1	○	
	英語教育学特論ⅡA	2	○	
	英語教育学特論ⅡB	2	○	
	英語教育学特別演習Ⅱ	1	○	
英語学	英語学特論ⅠA	2	○	同 じ
	英語学特論ⅠB	2	○	
	英語学特別演習Ⅰ	1	○	
	英語学特論Ⅱ	2	○	
	英語学特別演習Ⅱ	1	○	
英米文学	英米文学特論ⅠA	2	○	
	英米文学特論ⅠB	2	○	
	英米文学特別演習Ⅰ	1	○	
	英米文学特論ⅡA	2	○	
	英米文学特論ⅡB	2	○	
	英米文学特別演習Ⅱ	1	○	
実践研究	実践授業研究	2	○	
課題研究	英語課題研究	4	○	
	英語教育課題研究	4	○	

18 奨学金その他

1 奨学金制度（担当：学生生活課）日本人学生

本学で取り扱っている奨学金には、日本学生支援機構と地方公共団体及び民間育英団体があり、その概要は次のとおりです。

(1) 日本学生支援機構の奨学金

教育の機会均等に寄与することを目的として、人物・学業とも優れ経済的理由により修学困難な学生に貸与されます。

(2) 地方公共団体及び民間育英団体の奨学金

地方公共団体及び民間育英団体の奨学金には、地域を限定し、その地区出身者に限る奨学金や学部・専攻等を指定した奨学金があります。

詳細については、学生生活課に問い合わせてください。

2 授業料免除及び徴収猶予

授業料は、年額 535,800 円（平成 23 年度）で、大学では学則により、次ページの「授業料の納付について」のとおりになっています。

入学後は、経済事情のために授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められた場合、又は学資を負担する者が風水害等の災害を受け、あるいは家計支持者の死亡等のやむを得ない事情があると認められた場合については、申請に基づき選考のうえ、授業料の免除又は徴収を猶予することがあります。

なお、その手続きについては、授業料の免除等に関する規定のとおりであるが、必要な手続きを怠り、納期を過ぎても納付しない者は除籍されることになっているので、十分注意してください。

19 各種手続き等について

1 履修届について

Webによる履修登録になるので、詳しくは掲示を見てください。

2 学生への連絡について

学生への通知及び連絡は、すべて掲示によって行うので、学生生活課及び大学院生用掲示板等を見てください。

3 各種証明書が必要なとき

在学証明書、学生旅客運賃割引証、成績証明書、修了見込み証明書、修了証明書が必要なときは、学生センターの自動発行機で手続きをしてください。

その他の証明書及び英文の証明書が必要なときは、教務課大学院係で手続きをしてください。

なお、英文証明書の発行は1週間程かかりますので、提出日等を考慮して早目に手続きをしてください。(詳細は、学生便覧を参照してください。)

4 その他の願い出について

休学、復学、退学、住所変更等は教務課に願出で、所定の届出を提出してください。

(詳細は、学生便覧を参照してください)

5 授業料の納付について

授業料は次のとおり納付すること。

① 前期分 4月1日から 5月31日まで

② 後期分 10月1日から 11月30日まで

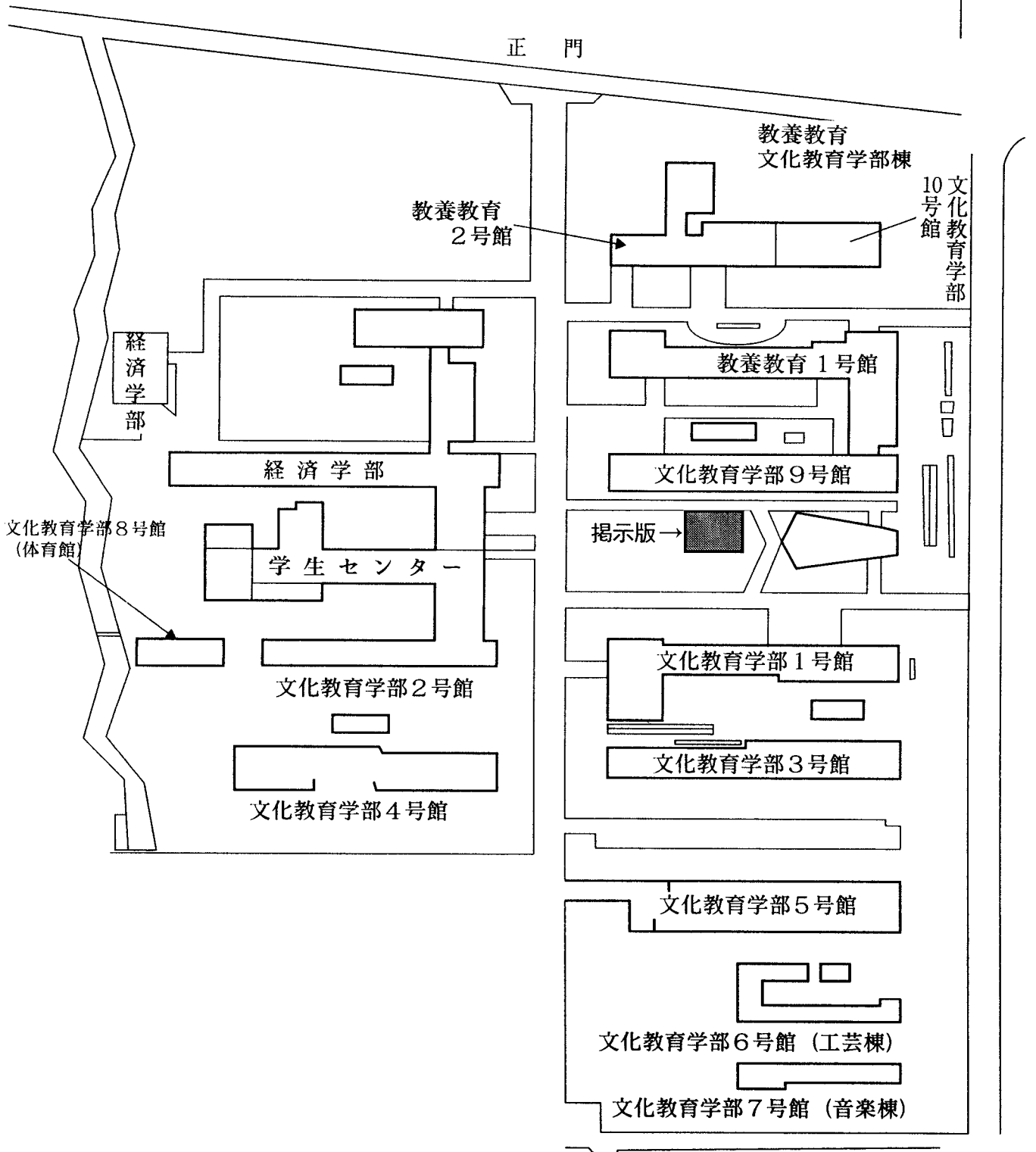
納付先 事務局経理調達課収入係

(注) 前期分を納付する際、後期分も併せて納付することができる。

6 その他の注意事項

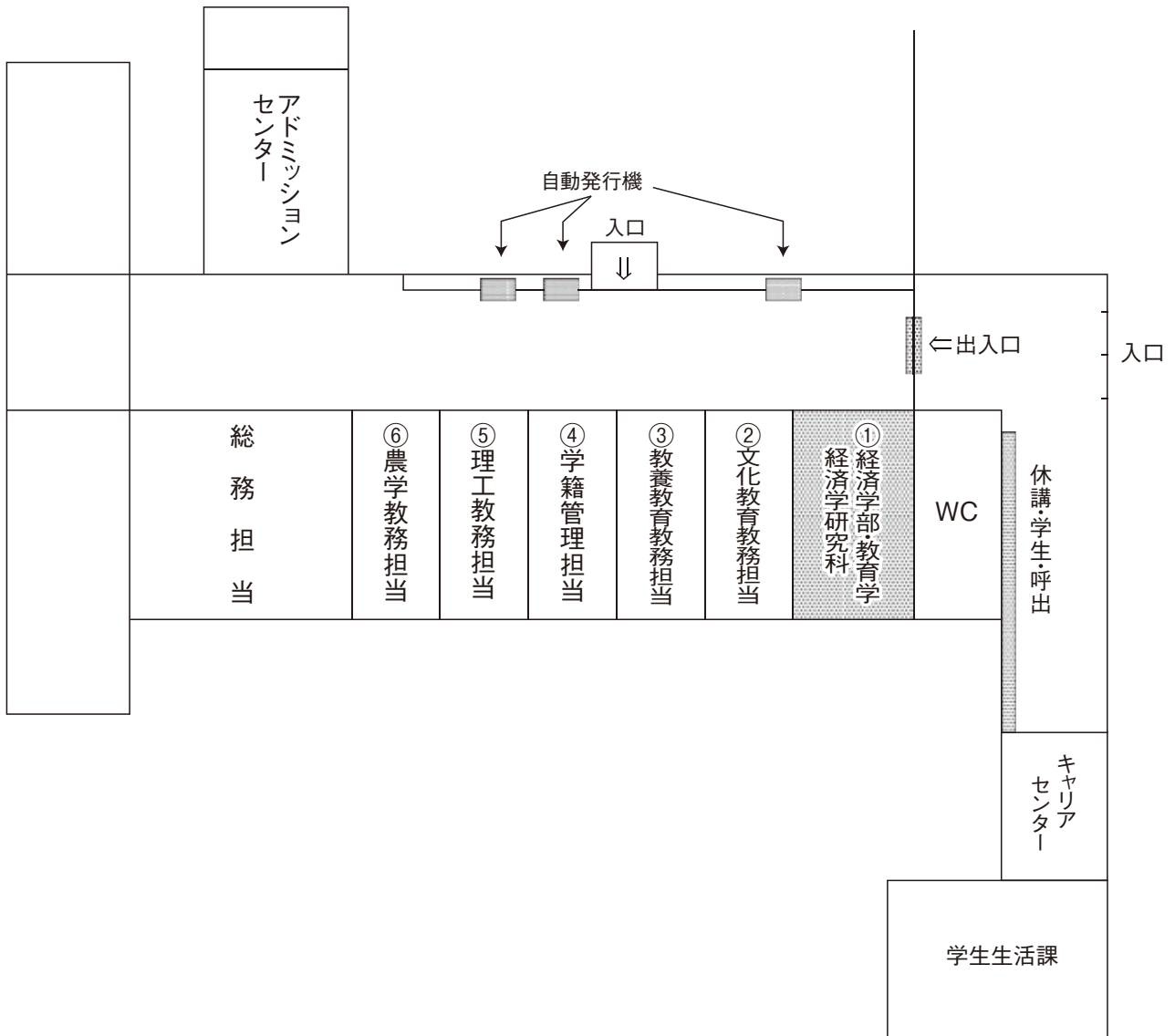
上記以外の手続き等については、学生便覧の「学生生活と学生センター」を参照してください。

文化教育学部建物配置図



学 生 セ ン タ ー 一 内

N
4
↑



※ 教務課掲示板は文化教育学部9号館南側にあります。

大学院教務担当（教務関係）からの諸連絡等を掲示します。

平成 24 年度 学年暦及び年間行事予定表

月	日	曜	学 年 暦	行 事
4	1	日	前学期始、春季休業（4月5日まで）	学友会及びサークル紹介（4日）（予定） 新入学生健康診断（2日まで） 前学期授業時間割発表（3月30日）
	3	火	平成 24 年度入学式	研究科オリエンテーション（教育学・経済学・医学系・工学系） 学部オリエンテーション（医）（5日まで） 学生会紹介（医学部のみ）
	4	水		学部オリエンテーション（文化教育、経済、理工、農） 研究科オリエンテーション（農学）
	6	金	前学期開講	
7	17	火		月曜日の代替日
	24	火		前学期定期試験時間割発表
	31	火		前学期定期試験（8月6日まで）
8	8	水	夏季休業（9月30日まで）	
	9	木		オープンキャンパス（予定）
9	21	金	平成 24 年度学位記授与式〈9月期〉	
	24	月		後学期授業時間割発表
	30	日	前学期終	

7月25日・27日・30日、8月7日、12月25日、2月4日・5日・14日は風水害対応の予備日

月	日	曜	学 年 暦	行 事
10	1	月	開学記念日、後学期始、後学期開講	
	5	金	平成 24 年度大学院入学式 （工学系博士後期課程等）	
12	26	水	冬季休業（1月6日まで）	
1	7	月	冬季休業明け授業開始	
	15	火		金曜日の代替日
	19	土		平成 25 年度大学入試センター試験（1月20日まで）
	30	水		金曜日の代替日、後学期定期試験時間割発表
2	31	木		月曜日の代替日
	6	水		後学期定期試験（2月13日まで） （2/13 は月曜日の試験日）
	25	月		平成 25 年度個別学力検査（前期日程） 入学試験（2月26日まで）
3	12	火		平成 25 年度個別学力検査（後期日程） 入学試験（3月13日まで）
	25	月	平成 24 年度学位記授与式〈3月期〉	
	31	日	後学期終	

12月21日、2月1日は入試対応の予備日

（参考）平成 25 年度

4	1	月	前学期始、春季休業（4月4日まで）（予定）	
	3	水	平成 25 年度入学式	
	4	木		学部オリエンテーション（予定）
	5	金	前学期開講（予定）	

注：予備日については、通常の休講等に対応するものではなく、入学試験及び台風等の風水害の到来他による大学全体の臨時休業等に充当するものである。